

群馬高専レビュー

平成 28 年度

第 35 号

目 次

宮部みゆきの英訳版『魔術はささやく』——1980 年代日本の物語——	横山 孝一..1
生源寺美子の児童文学——作品案内——	横山 孝一..13
Helbling Young Readers と e-future Graded Comic Readers——グレイディッド・リーダーの新しい形——	横山 孝一..25
情報科学的アプローチによる英語検定教科書の語彙分析	八鳥 吉明・大野 佳代子..33
TED を利用したディスカッション・ボードの構築と実践——他大学との交流を中心に——	飯野 一彦・鈴木 広子・藤枝 美穂・菅原 安彦・ 松浦 浩子・宮本 節子・小原 平・保崎 則雄..39
マンガを用いた電気回路教材の開発	大豆生田 利章・小林 美桜..47
1950 年代のアメリカにおける原爆に抗議する日系作家ヒサエ・ヤマモト	長井 志保・吉永 益久..53
オーストラリア外国語教育政策が教育現場にもたらす影響——学習者の意識調査を通して——	長井 志保・吉永 益久..61
日本人英語学習者による等位・従位接続詞の特徴的な使い方	伊藤 文彦・三隅 光..71
Scratch と mbot を用いたソフトウェアとハードウェア両面からの中学生向け体験型プログラミング教育 ー 群馬高専スマートサイエンススクールにおける取組 ー	荒川 達也・市村 智康..83
1580 年代後半ノーサンプトンシャーの統監	宮川 剛..89
群馬県富岡市・実相寺蔵『法性山天満宮之縁記』について	大島 由紀夫..一

宮部みゆきの英訳版『魔術はささやく』 ——1980年代日本の物語——

横山 孝一*

(2016年11月24日受理)

はじめに

The Devil's Whisper (2007)を新刊で読み始めたとき奇妙な違和感を味わった。宮部みゆきと原書の『魔術はささやく』について無知だったことが原因なのだが、描かれている日本がいまの日本と何か違うと感じたのだ。

小説は、24歳女性の飛び降り自殺と20歳女性の鉄道自殺を伝える新聞記事から始まり、The readers didn't know を繰り返して、記事にならなかった自殺後の生なましい光景を描きだす。The readers did not watch the police officers on the scene scooping up pieces of Fumie's brain and putting it in plastic bags. (8 以下、*The Devil's Whisper* の引用頁のみ記す)と、飛び散った脳味噌を警官がビニール袋にかき集める場面や、It took a while to clean up the scene because her body had been splattered in all directions. They couldn't find her head until they slowly backed up the train and it fell with a moist thud onto the tracks from the coupling between the first and second cars. (9)と、轢死体の切断された頭部が車両の連結器にはさまっていた場面は、恐ろしくも刺激的で、すぐに物語に引き込まれた。

このような描写は21世紀の現在(本稿は2016年に執筆している)でも新鮮だが、a cheerful girl known as Anego, or "Big Sis" (26)が登場すると、高校のクラスメートのあだ名が「姉御」? これは古いと感じ、次の公衆電話の場面でこの古さは決定的になった。

There was a pink public phone in the shop, and it was being used by a constant stream of people. A man in a business suit, another in a flashy checked suit who looked like he worked in a bar, a woman, probably a housewife who had come to shop in the department stores. They all took their turns putting coins in the slot and making calls. (28-29)

喫茶店に置かれたピンク色の公衆電話がひっきりなしに使用されている。しかも硬貨を使って。ケータイ電話以前の日本が舞台だったのである。まったく間抜けな話だが、ここでようやく書誌データの頁を調べ、Originally published in Japanese in 1989 by Shinchosha, Tokyo, under the title *Majutsu wa sasayaku*. と書かれていることに気づいた。この小説は、宮部みゆきが第二回日本推理サスペンス大賞を受賞した1989年出版の『魔術はささやく』を英訳した本だったのだ。舞台になっている日本が古いと感じるのは当然だ。前世紀のバブル期が描かれているのだから。

しかし、現代の物語と思って読み始めたのは筆者のせいだけではない。宮部みゆきの原書『魔術はささやく』(1989)と英訳版 *The Devil's Whisper* (2007)を照合してみると、すぐにその原因が見つかった。英訳版では Prologue の出だしを *Tokyo Daily News*, September 2, page 14: *Wedding Jitters? Woman Leaps from High-rise* (7)としているが、原文は「一九八X年九月二日付東京日報第十四版第二社会面より抜粋 挙式目前 マンションから飛び降り自殺」(7頁 以下、『魔術はささやく』の引用頁のみ記す)である。「結婚前の不安? 高層ビルから飛び降り」と明快に英訳しているところはさすがにうまいが、どういうわけか「一九八X年」を訳さずに削ってしまっているのだ。これでは1980年代の日本ではなく、出版された2007年現在の日本を扱った小説と思って読むのも無理はあるまい。実際、そう思って読んだ外国人読者も多いのではあるまいか。翻訳した岩淵デボラの単純ミスではないだろう。「一九八X年」は文字どおり冒頭に書かれているので見逃しようがない。おそらく、出版元の講談社インターナショナルの意向で、意図的に省略したのだろう。邪推すれば、18年も前に出版された小説を新しく見せたかったのかもしれない。ダスト・カバーに、1989年に出た本とは宣伝されていない。

本論では、*The Devil's Whisper* がまぎれもない1980年代日本の物語であることを原書の『魔術はささやく』

も使って回顧的に論証し、英訳ではこの古さを隠さずに、むしろ大々的にアピールすべきであったことを書いてみたい。

1. ケータイ電話以前

『魔術はささやく』が出版された 1989 年当時の日本と *The Devil's Whisper* が出た 2007 年の日本のいちばんの違いは何か。すでに書いたとおり、ケータイ電話（執筆している 2016 年現在では「スマホ」におされてこの言葉自体も古くなりかけている）の有無だ。「携帯電話」自体は NTT の登録商標として早くも 1987 年に発売されていたが、重さが 900 グラムもあり、基本使用料が 2 万円以上して普及には程遠かった（話題の達人倶楽部、139 頁）。2007 年に出た宮部みゆきの小説『楽園』には「携帯電話にかけてみると、敏子は律儀な人らしく、二回呼び出ただけですぐに出た」（上 110 頁）といった描写があるが、*The Devil's Whisper* にケータイ電話は一切登場しない。短編の「心とろかすような」（1990）には「自動車電話を持っているリッチな若者」（『心とろかすような マサの事件簿』60 頁）が登場するが、本作では、家の固定電話、「留守番機能のついた電話機」（142 頁）と数種類の公衆電話があるきりだ。ちなみに、『夢にも思わない』（1995）には、主人公の「僕」が金曜日の夜十時すぎに大好きなクドウさんへ、彼女の家の斜向かいにある公衆電話から電話するすてきな場面があるが、新品のテレホンカードの度数をあらかじめ使ったあとで「今やビジネスマンの手には携帯電話があり、若者の心には——もとい、直通電話を引くだけのお金のない若者の心には、公衆電話がある時代だ」（234 頁）と語られているから、ケータイはこの頃から広まっていったのだろう。1995 年 11 月から 99 年 10 月まで『週刊ポスト』に連載された『模倣犯』（2001）ではケータイ電話を持っていない被害者がいる一方、犯人はケータイ電話を使って警察を手こずらせ、ラストでは、立てこもったテレビ局の資材室から重要な電話をかける。『誰か Somebody』（2003）では、「携帯電話の特質とは何か。携帯できることだ。おかげで我々は、大事な情報がもたらされるかもしれない電話を待って、家や仕事場でじりじりしている必要はなくなった。」（344 頁）と主人公がその便利さを語り、「着信メロディ」が推理のヒントに使われている。短編「負の方程式」（2014）になると、「事務所に戻る途中で、秋吉氏から私のスマートフォンにメールが来た」（『ソロモンの偽証』（六）495 頁）と、スマホが活躍する。

『魔術はささやく』では、ケータイ・スマホ以前の電話機が物語を展開させる重要な道具になっている。主人公の高校生・日下守が暮らす親戚の浅野家に深夜電話が

かかり、タクシー運転手の大造が女性をはねたことが伝えられる。被害者の菅野洋子は、新聞記事の加藤文恵、三田敦子と同様、タクシーの前に飛び出て「自殺」したのだが、大造は警察に拘留されてしまう。家の電話には、*'Murderer. Anyone who kills a woman should get the death sentence.'* (35) といった嫌がらせの電話がかかってくるようになる。電話機は玄関に置かれた固定式なので逃げることはできない。さらに、女たちを殺した真犯人である謎の人物（原沢老人）からも謎めいた電話がかかる。読者の興味をかきたてるこの場面を英訳と原文の両方で引用しよう。

But the second caller was different from the others. "Thank you for taking care of Yoko Sugano." The voice sounded raspy and high with excitement. "I'm serious. Thanks for killing her. She had it coming." He hung up before Mamoru could reply. (36)

二本目は、ちょっと変わっていた。若い男の声だった。

「菅野洋子を殺してくれてありがとう」

いきなり、そうやってきた。せきこむような浮かれているような、うわずった声だ。

「本当にありがとう。あいつは死んで当然だったんだ」

驚きで返す言葉もないうちに、一方的に電話は切れた。（60 頁）

英訳では、推理小説の手がかりとしてフェアでない「若い男の声」を削除し、最初の「殺してくれてありがとう」で遠回しの taking care of を使うなど、岩淵デボラの翻訳センスが光っている。ただし、この謎の男が若い女性たちを自殺に見せかけて殺したことを電話で初めて認める場面で「すべては一本の電話で始まり、最後にはまた一本の電話に行きついたのだ」（290 頁）を訳さずに省略してしまったのは明らかに手落ちだ。小説中「電話」がいかに重要かを示している重要な文章なので、きちんと訳すべきだった。

原沢老人は、催眠術をかけて自殺させる殺人を繰り返していたのだった。女性たちが殺されるきっかけとなったある座談会を文章にまとめたライターの橋本も「ガスが適当に満ちたところを見計らって、彼に電話をかけ、キーワードを与えて煙草に火をつけさせたのだ」（407 頁）と「電話」が殺しの決め手となる。守は、橋本のアパートが爆発で消えてなくなっているのを見たとき、次は自分の番と勘違いして、居候する浅野家に危機を知らせようとする。

Mamoru had to find a phone and call his aunt. He ran for several blocks until he came across one. In a panic, he struggled to remember his own phone number. (153)

電話が見つからなかった。気がちがったように走りまわって、一区画先の電話ボックスに飛び込んだときには目が回りそうだった。焦るあまり、とっさに家の電話番号さえ思い出せなくなった。(287 頁)

ケータイ電話のない時代がいかに不便だったかよくわかる。実際、物語中、夫のタクシーにぶつかって亡くなった菅野洋子の葬式に出かけた浅野夫人が靴を投げつけられてけがをしたとき、同行した佐山弁護士は駅まで走ってタクシーを見つけねばならなかった。宮部みゆきの他の作品を調べてみると、『魔術はささやく』と同じ1989 年発表の短編「てのひらの森の下で」では、「あのね。事実はこのよ。あの朝、現場で死体のふりをしていたのは、やっぱり井波洋本人だったのよ。わたしと藤実さんが一〇番するためにいなくなったあと、彼は立ち上がって逃げ出した。事前に用意しておいた車を使ってね」(『心とろかすような』124 頁)と真相が明かされる。当時は戸外で警察に通報するときは公衆電話を探さなければならなかったのだ。逆を言うと、ケータイ電話があれば現場を離れることもなく、「てのひらの森の下で」の事件は成立しなかった。『ペテロの葬列』(2013)でバスジャック犯がまず最初に、乗客全員からケータイを取り上げることを思うと、隔世の感がある。

『魔術はささやく』の英訳版では、原作ほど古さを感じないように訳されている。Kazuko dialed the number and listened to it ring. (29)はさらりと読めるが、「和子はダイヤルを回した。呼び出し音を数えた」(46 頁)を見ると、電話番号の数字を一つ一つ回さなければならぬ文字どおりダイヤル式の電話機だったことがわかる。『今夜は眠れない』(1992)の「電話に近寄り、勢いよく受話器をあげると、うちの電話番号をプッシュした」(200 頁)と比べると、古めかしさは歴然としている。He came to a pay phone in the hall, and dropped in a coin. (118)もテレホンカードではなく硬貨を使っている点でじゅうぶん古く感じるが、「思いついて、あわてて通用口にある赤電話をかけた」(219 頁)という原文を見ると、現在のグリーンの公衆電話以前には、「ピンク電話」(45 頁)と「赤電話」があったことがわかり、昔を実感できる。

電話以外で時代を感じさせるのは、タバコだ。作者の宮部みゆきが愛煙家であることも関係するのだろうが、いろいろな登場人物がよくタバコを吸う。The boy finally showed up about four cigarettes later.

(41)「四本目の煙草に火をつけたとき、待ち人がやって来た」(70 頁)とか、Hashimoto chain-smoked as he listened. (93)「守が話し終えるまで、橋本はひっきりなしに煙草を吸っていた」(170 頁)など。欧米では嫌煙運動がかなり広まっていたが、当時の日本はまだまだ喫煙者が幅を利かせていた。『模倣犯』(2001)で「あなたと私、どちらも当節、肩身の狭いヘビースモーカー」(五)418 頁)と自嘲的なせりふを書き、『誰か Somebody』(2003)の中でようやく「十六のときから吸っていたんですが、娘が生まれたときにやめました」(65 頁)と、タバコに対する日本人の意識の変化を表わすことになる。

ワープロの普及も1980 年代後半を思い起こさせる。1987 年に宮部みゆきが第26 回オール讀物推理小説新人賞を受賞したデビュー短編小説「我らが隣人の犯罪」には、「叔父さん、ワープロを打てるんだね」「きょうびは誰でも打てるさ」(64 頁)という会話があるが、『魔術はささやく』と同じ年に発表された『パーフェクト・ブルー』(1989)にも、「蓮見探偵事務所」で調査員の加代ちゃんと、雇ってくれという進也が「だけどあなた、すさまじい誤字を平気で書くじゃない」「古いなあ。ワープロ時代だぜ、今は」(165 頁)と言い合う。いまでは完全に姿を消してしまったワープロ専用機も、当時は新しい製品だったのだ。『魔術はささやく』でも、フリーライターの橋本宅にはワープロがある。「部屋をほぼ半分に仕切って、境界線より端よりに大型のウォール・デスクがあった。その上にも酒瓶が二本。グレイのカバーがかかったワープロ。隣に別の独立したデスクがあり、そこにデスクトップ・タイプのパソコンが置かれている」(169 頁 以下、下線は引用者)。ところが、英訳版では The room was divided in half by a large desk, on top of which were more bottles and a computer with a gray cover. Next to it was a smaller desk holding a printer. (92)と訳されている。「グレイのカバーがかかったワープロ」はパソコンに変えられ、本来パソコンがある場所には代わりにプリンターがあったことにしている。21 世紀の外国人読者向けに工夫したのだろうが、消してしまった細部に1980 年代の日本が濃厚に感じられるのである。

このノスタルジーから *The Devil's Whisper* を読むと、公衆電話ボックスの場面は古臭さよりも味のある名場面に思えてくる。主人公の日下守は、父親が公金を横領したまま失踪したため、犯罪者の子として母親と差別に耐える子供時代を過ごした。夫を待ち続けた母が亡くなり、浅野家に引き取られると、今度は高校で、バイクを乗り回す不良の三浦に目をつけられ様々な嫌がらせを受ける。本筋からそれるエピソードのクライマックスは、三浦に

電話で猛烈に反撃する場面だ。“I’ve got the blood of a killer flowing through my veins.” (139) と大嘘について「お前の大切なバイク、どこに保管してあるんだ？ちゃんと鍵のかかる安全な場所か？走り出すまえにはよく注意してみろよ。百キロでスッとはしてる最中にブレーキがきかなくなってることを発見するのは、ゾッとしなないだろう？」(262 頁) と脅すと、三浦はすっかり怖気づく。Mamoru could almost hear the sound of Miura’s knees knocking together. (139) と三浦の膝の震えを感じとる一文が痛快だ。目的を果たし、受話器を叩きつけるようにして電話を切ったあと、Mamoru leaned against the glass of the phone booth and heaved a deep sigh. (140) という描写がつづく。「電話ボックスのガラスにもたれて、守は深々とため息をついた」(262 頁) ところは、忘れがたい映像として記憶に残る。受話器を叩きつけるようにして電話を切ることも、もたれることもケータイではできないので、現在ではあまり利用されていない公衆電話ボックスならではの名場面といえよう。ちなみに、『ソロモンの偽証』(2012) で 1990 年を小説の舞台にしたとき、宮部みゆきは、十代の若者が使う電話ボックスを「時代の最先端の心情」を見せる“窓”(一)12 頁) と見なしている。

この電話ボックスは本筋のクライマックスでも再び効果的に利用されている。催眠術を操る原沢老人から、大造のタクシーに非がないことを証言して守に近づいた新日本商事の吉武浩一が、守の父親を誤って車で轢き殺した犯人であることを聞かされ、催眠術で自殺に追い込む復讐を勧められる。しかし、守にはできなかった。飛び降り自殺する寸前の吉武を助けたあと、電話ボックスを見つけ、原沢に「僕にはできなかった。親父を殺したやつなのに、僕にはできなかった。殺せないよ。あんたにはわかるかい？僕にはできなかった。笑っちゃうよ」(452 頁) と報告する。

Outside, the snow had turned into a blizzard and it beat against the phone booth. It made a muffled sound. Mamoru rested the phone against his head and closed his eyes.

“Good-bye, boy,” the voice said. And then there was the sound of the phone being gently hung up.

(240)

ボックスの外は吹雪に変わっていた。雪がガラスを叩く、軟らかな音がする。

電話に頭をつけ、守は目を閉じた。

「さよなら、坊や」

ゆっくりと受話器を置く音が聞こえた。

(452-453 頁)

雪が降る中、電話ボックスから、殺人者になれなかったことを悔しさも込めて告白した守に、根っからの悪人ではない原沢が、沈黙をとおして深い同情と理解を示す。はったりを利かせた三浦への電話とは対照的な真情の吐露で、純粋な雪の白さが視覚的効果を上げている。本作中もっとも美しい場面だ。ケータイ以前、1980 年代末ならではの名場面といっても過言ではない。

2. インターネット以前

宮部作品では『模倣犯』で、捜査中の武上巡査部長がインターネットによる情報収集を知人から勧められる。インターネットはやっていないのかと訊かれ「娘は時々ぞいて見てるらしいがね。俺はよく知らん」(四)485 頁) と答える。ケータイ電話とインターネットが普及した 21 世紀の現代日本から、この二つがない『魔術はささやく』の世界を見ると、なんて不便だったのだろうと思わざるをえない。しかも『魔術はささやく』では、探偵役に、警察ではなく普通の高校生が据えられている。20 代前半女性の謎の連続自殺事件の真相にどうやって近づくのか注目すると、主人公の守が「じいちゃん」から錠前破りの技術を学んでいたことと、大型スーパー「ローレル」内の書店でアルバイトをしていることが、インターネット以前に、個人情報やマニャクな情報にアクセスするための苦肉の設定であったことがわかる。前者はもちろん、大造のタクシーに飛び込んで死んだ菅野洋子のアパートに忍び込んで、彼女が 300 万円以上を短期間に稼ぎ謎の人物(原沢老人)に脅されていたことを知るのに役立つ。それにしても、It had taken him twelve minutes. (74) とは！この英訳版と同じ 2007 年に出た『楽園』には「十六年前といえば、まだ自家用車の盗難防止装置なんて一般的なものじゃなかったし、中古車ディーラーとかが使っている汎用キーを手に入れば、意外と簡単に駐車場から車を盗み出せたそうなんです」(下 388 頁) というせりふがあるが、たった 12 分で開けられてしまうアパートも、1980 年代末という時代を思わずにはいられない。当時の新商品であった「留守番機能のついた電話機」はこの場面で登場し、脅迫者が、「菅野洋子を殺してくれてありがとう」と守に電話してきた男と同一人物であることを教えてくれる。巻き戻した「テープ」には、“I wanted to tell you I found another copy of *Information Channel* at a used bookstore. I feel for you, I really do, but you can’t escape.”(80) という言葉が残されていた。

『情報チャンネル』が次の目標になると、書店でのアルバイトが役に立つ。店員の佐藤に尋ねたことがきっかけで答えにたどり着く。佐藤が Madame Anzai (安西女史) に頼んでわかるのだが、その理由が、One of her

boyfriends was a freelance writer who collected magazines as a hobby. (ここまではいいとしても、) Someday he wants to open a library for magazines. (83)というのは、小説の設定としてわざとらしく無理がある。個人で雑誌専門の図書館を開設するためのたまたまデータ・ベースをつくっており、安西女史がこのフリーライターから『情報チャンネル』の the publisher's name and address (87)を教えてもらい、守はそこへ電話して、あっさり発行人の夫人と面会。当の雑誌を見ることになる。「イヤラシイ雑誌」(161 頁)を英訳版ではそのものずばり、a porn magazine(88)と訳している。*Information Channel* was the sort of magazine you'd go to a convenience store late at night to look through, keeping your back to the cash register. (90)という譬えがおもしろい。『魔術はささやく』は、ケータイとインターネット普及以前とはいえ、コンビニの成人雑誌コーナーはすでに存在していたのだ。守は、そんな雑誌の座談会に菅野洋子が出ていたことを掲載写真で知る。その後、編集者の橋本から他の出席者が加藤文恵・三田敦子・高木和子であることを教えてもらうが、読者が小説冒頭で知らされている加藤と三田の自殺を、守はどうやって知るのだろうか。ここでも、書店のアルバイトが役に立つ。たまたま「切り抜き雑誌」(278 頁)に目が留まり、“Woman Jumps to Death from Tozai Line Platform.” (149)というヘッドラインを見つけて三田敦子の死を知り、「雑誌を持ったままフロアの端のカード公衆電話に走った」(280 頁)のである。英訳版では the pay phone on the same floor(149)なので、「カード公衆電話」には感慨を覚える。喫茶店のピンク電話は硬貨を入れて使うが、大型スーパーにはテレホンカードの使える公衆電話が置かれていたのだ。守はここから切りぬき雑誌の発行元に電話して、加藤文恵も同じように謎の自殺を遂げていたこと、高木和子の名は見つからず、彼女がまだ生きていることを知る。こうして、謎の殺人者から和子を守る展開へ移っていくのである。それにしても、この「切りぬき雑誌」とは何か。英訳版で引いてみると、The editors cut out articles from newspapers, magazines, and tabloids, re-edited them, and printed them by genre. (148)だ。1980 年代には、このような雑誌が編集され、売られていたのである。情報量ははるかに少ないが、まさしくインターネットの代わりを果たしていたのだ。

もう一つインターネットの代わりを務めた有名なものをあげよう。自殺に見せかけて座談会の女たちを殺していった原沢老人の催眠術とは別に、守が働くローレルでも、暗示をかける万引き防止用ビデオが店内の大型ディスプレイで極秘裏に流されていた。そのことに気づいた

警備係の高野は、「サブリミナル広告」の原理を守と真紀に説明しようとして「現代用語辞典みたいなもの、持っていないか？」(334-335 頁)と尋ねる。英訳では、あっさり“Do you have a dictionary?”と訳しているので気にも留めないが、宮部の原文では、インターネット以前「現代用語辞典」が活用されていたことを明記している。そのあとは英訳版でもおもしろく読める。

Maki stood up and ran to her room. She came back with a dictionary the size of a phone book. (...)

“What are *you* doing with such a huge dictionary?”

“It was a bingo prize at one of the parties I went to. It was awful—I had to lug it all the way home.” (178)

いままらインターネットですぐ検索できるが、当時は、「電話帳のような用語辞典」を使うしかなかったのだ。しかも、柄にもなく真紀がこのような辞典を持っていた理由が「忘年会のビンゴ・ゲームで当たっちゃったのよ。持って帰ってくるの、大変だったんだから」(335 頁)とは。物語を展開させていくための仕掛け以外の何ものでもないが、この言い訳は、じつにわざとらしいご都合主義ゆえに気持ちよく笑える。ちなみに、この「現代用語辞典」とは集英社刊『情報・知識イミダス』のことである。巻末の参考文献(469 頁)にあげ、英訳版でも律儀に、The description of subliminal advertising was quoted from *Johochishiki imidasu*. (250) と訳している。外国の読者は日本語の書名が何を意味するのかわからないだろうが、『イミダス』を懐かしく思い出す日本人読者は多いにちがいない。

3. 1980 年代の人気映画

英訳版の *The Devil's Whisper* を日本になじみのないアメリカ人読者が読んだとしても、遅かれ早かれ 20 世紀が舞台であることに気づくだろう。『情報チャンネル』座談会の最後の生き残りである高木和子は言葉巧みに高額の商品を売り込み、女性客に Brooke Shields や Phoebe Cates のメイクを担当している会社にスカウトされたと嘘をつく(101)。1980 年代ハリウッドのアイドルスターの名前を見れば、年配の読者は当時を思い起こすはずだ。

作者の宮部みゆきは映画が好きで、見た映画の題名を小説に書き込む癖がある。1987 年のデビュー作「我らが隣人の犯罪」には「「そう。特殊関係人だよ」僕は答えた。「マルサの女」という映画を観て、この言葉を僕に教えてくれたのもこの叔父さんだ。税務署では、

「愛人」のことをこう表現するらしい」（23 頁）という箇所があり、第 11 回日本アカデミー賞を総なめにする伊丹十三監督の『マルサの女』（1987）がこの短編小説の元ネタであることを明かしている。『夢にも思わない』（1995）には「そんなとき、僕は、彼女を苛めるこの世のアホを、『エイリアン 2』のシガニー・ウィーバーみたいに、端から端まで火焰放射器で焼き払ってやりたくてしまうのだ」（91 頁）と、ジェームズ・キャメロン監督の『エイリアン 2』（1986）を比喻に使っている。SF 小説の『蒲生邸事件』（1996）では、主人公の孝史が銀座に出て「昨秋の超話題作」（26 頁）であるスティーヴン・スピルバーグ監督の『ジュラシック・パーク』（1993）を見る。彼は二・二六事件直前にタイムトリップすることになるが、タイムトリップでは空間的な距離を移動できないと言う時間旅行者に「『バック・トゥ・ザ・フューチャー』じゃ、どうだったかな……」（86 頁）と考え込む。

宮部みゆきはこのような映画ファンであるから、『魔術はささやく』にも映画への言及がある。オーウェルの『一九八四年』（1984 年には日本でも、1949 年に出版されたこの未来のディストピア小説が話題になった。『魔術はささやく』の舞台である日本は、1984 年を迎えて何年もたっていないことを意識する必要がある）を愛読する本屋の店員・佐藤は、導入された大型ビデオ・ディスプレイを見て監視装置を連想するが、「どうせビデオをかけるなら、あんな風景だけじゃなくて、『二〇〇一年宇宙の旅』でもやってくれりゃいいのに」（84 頁）と言う。2007 年の英訳版で、“As long as they’re showing videos, why don’t they let us see *2001: A Space Odyssey*, or something interesting like that?” (48) と読むと、2001 年を過去と感じてしまうが、この小説を正しく味わうには、出版された 1989 年当時から考える必要がある。『二〇〇一年宇宙の旅』はまだ、未来を象徴する映画だったのだ。

『二〇〇一年宇宙の旅』（1968）と『バック・トゥ・ザ・フューチャー』（1985）はいまのところ人気映画として記憶されているが、『魔術はささやく』が言及する当時の超話題作はどうだろうか。西太后の話から吉武が真紀に「お嬢さんは、『ラストエンペラー』という映画を観ましたか？」と訊くと、

「ええ、観ました。素晴らしかったわ」

観はしたものの、二時間を超える長い上映時間の大半を、彼女は居眠り半分ですごしたのだった。いっしょに行った守はよく覚えていたが、黙っていた。

(316 頁)

清朝最後の皇帝溥儀の波乱万丈の生涯を描き、人気絶頂だった香港生まれのジョン・ローンが主演、名匠ベルナルド・ベルトルッチが監督した『ラストエンペラー』

（1987）は、坂本龍一が甘粕大尉役で出演し、音楽も担当、満州国への郷愁もまだ残っていて、1988 年 1 月に公開されると日本でも大ヒットした。『魔術はささやく』が出版される年の 4 月には、テレビでも放送されて再び話題になった。ところが、いまはどうだろう。芸術的すぎるためか、若い世代でこの映画を知る人は少ない。“Have you ever seen the movie *The Last Emperor*?” “Yes, it was wonderful!” (168) とあうんの呼吸で交わされる会話が少々わかりにくいのではないか。英訳者はオーウェルの『一九八四年』を *Nineteen Eighty-Four* by George Orwell (48) と、きちんとファーストネームを補って訳しているのだから、ここでは、Bernardo Bertolucci’s *The Last Emperor* とか、*The Last Emperor* directed by Bernardo Bertolucci というように、監督名くらいは補足すべきだった。

『魔術はささやく』では、犯人が催眠術を使い、守がアルバイトをする書店でも万引きを防止するために「サブプリミナル広告」を利用していることはすでに書いたが、こんな会話が交わされている。

「『刑事コロンボ』に『意識下の映像』っていうのがあって、確かこれがトリックになってた」

「そうそう。あれだ」（336 頁）

『刑事コロンボ』シリーズの『意識下の映像』は、1973 年の作品だが、1980 年代にはテレビの洋画劇場枠で再放送され、理解の決め手になるほどよく知られていた。行動心理学の権威であるケプル博士が、販売促進用映画の試写会で社長のノリスを殺す。塩辛いキャビアをたくさん食べさせて、映画に冷たい飲み物のコマをはさんで潜在意識を刺激し、水を飲みに席を立つのを狙って、トイレで射殺する。ケプル博士の著書に学んだコロンボは、まったく同じ手法を使い、博士が犯行に使った銃の口径変換装置を手にしたところで逮捕する。ちなみに『魔術はささやく』では、公金を横領した守の父（自首するために山道を歩いていたことがあとで明かされる）を殺した吉武を自殺に追い込めなかった守のために、原沢老人は再び催眠をかけ、キーワードを用意する。警察に自首するよう守が口にする「魔術師の幻想」も、『刑事コロンボ』シリーズの有名な一作である。『魔術師の幻想』（1976）も 1980 年代にテレビで再放送され、元ナチス親衛隊の人気マジシャン・サンティニーニが、手錠をかけられ箱ごと水槽に入れられる魔術の公演中に、脅迫を続けるクラブのオーナーを地下室から殺しに行き、箱の中

に戻るスリリングな犯行場面は、まねしたくなる、ある簡単な手品と共に、視聴者に強烈な印象を残した。オーナーの部屋は鍵がかかっていてサンティーニが手際よくこじ開ける場面もあるので、守が錠前破りを特技とするのは、ひょっとしたらこのテレビ映画が影響したのかもしれない。

Mamoru was finally beginning to understand. “There was a *Columbo* episode called ‘Double Exposure,’ and that was the trick behind the murder.”

“Right, that’s what I’m talking about!” (178)

ヴィム・ヴェンダース監督の『ベルリン・天使の詩』（1987 日本公開は 1988 年）には、俳優のピーター・フォークが実名で登場し、街中で「コロンボ」と大歓迎される場面があったから、欧米の年配の読者はこの会話が理解できるだろう。若い読者でも 1980 年代の会話と知れば、当時絶大なる人気を誇った秀逸な刑事ドラマに関心を持つにちがいない。しかし残念なことに、英訳版では、吉武を最後に自首に追い込むキーワードが『刑事コロンボ』へのオマージュとは絶対にわかるまい。

Mamoru held out his right hand. “Shake my hand.” Yoshitake hesitated for a second and then held out his large right hand and firmly gripped Mamoru’s. His hand was cold but strong. At that moment, Mamoru leaned into Yoshitake as if to tell him a secret.

“The sorcerer’s illusion.” (249)

「魔術師の幻想」は“The sorcerer’s illusion.”と英訳されているが、『魔術師の幻想』は邦題で英語の原題は *Now You See Him* だった。だから翻訳上、『刑事コロンボ』とのつながりを示すことは不可能なのだ。英訳者に非はない。が、「魔術師」におどろおどろしい「魔法使い」をイメージさせる sorcerer の訳語は適切だったか。英訳版の書名が *The Devil’s Whisper* なのも気になる。原沢老人は「悪魔」ではない。『魔術師の幻想』のサンティーニのように、一見強そうでも、じつは無力な手品使いにすぎない。そこに読者の同情を誘う哀れさがある。書名中の *The Devil* は、本を売るにはインパクトがあつてよさそうだが、物語の内容からすると不適切と言わざるをえない。

4. 1980 年代の恋愛事情

The Devil’s Whisper は「一九八 X 年」を英訳せず省

いてしまったが、原書の『魔術はささやく』は 1980 年代末の日本を濃厚に描いた小説であることが、はっきりしてきた。1988 年 1 月に日本で公開された『ラストエンペラー』が話題になっているので、「一九八 X 年九月二日」とは、具体的には 1988 年か 1989 年のどちらかだ。事件の核心となる男女の恋愛観のギャップは、まさしくその頃の現象だ。若い日本人女性連続自殺事件の引き金になった『情報チャンネル』にはこう書かれていた。

“These high-earners use every sexy trick in the book to get what they want. Lovers-for-hire talk about their real feelings.” (...)

“We’re modern prostitutes: you pay us to fall in love with you.” (90)

「あの手この手の色仕掛け

身体を張って稼ぎまくる

恋人商法ギャルの本音座談会」（中略）

「あたしたち、『愛』を売る現代の売春婦」

(165 頁)

英訳の“talk about their real feelings”では気づきにくいだが、原文の「本音座談会」は 1980 年代のキーワードだった。斎藤美奈子は、女性の書き手が華々しく活躍した 80 年代の「先鞭をつけた」本として、現役女子大生の下森真澄と宮村裕子を書いた『ANO・ANO』（1980）の重要性を指摘している（『1980 年代』19-20 頁）。雑誌『宝島』に連載したものをまとめたこの本につけられた帯には「女のコのホンネがこれほどあけすけに語られたことがかつてあったら一か？」と「ホンネ」の文字があり、ページを開くとすぐに「女子大生⑧マスターベーション座談会」という章題が目にとまる。年上の林真理子は『ルンルンを買っておうちに帰ろう』（1982）で、「いまの女子大生作家の、なりふりかまわないエゲツなさ」（83 頁）を嘆いているが、先を越されたことに対する嫉妬が感じられる。この「座談会」には、それだけの衝撃があったのだ。「とにかくいままで女の人が絶対に書かなかったような本を書いてください」（230 頁）と林真理子が依頼されたのも『ANO・ANO』がよほど売れたからだろう。林は対抗して「一週間以上私を苦しめていた便秘を、大量の薬剤によってついに降服させた」と「大量の UNKO をする私」（47-48 頁）をさらけ出した。エゲツなさでは同レベルだ。

1980 年代は最初の年で流れが決まった。宮部みゆき流の歴史観で言えば、「歴史が先か人間が先か。永遠の命題だな。だけど私に言わせれば結論はもう出てるよ。歴史が先さ。歴史は自分の行きたいところを目指す。そしてそのために必要な人間を登場させ、要らなくなった

人間を舞台から降ろす。だから、個々の人間や事実を変えてみたところでどうにもならない。歴史はそれを自分で補正して、代役を立てて、小さなぶれや修正などをすっぱりと呑み込んでしまうことができる。ずっとそうやって流れてきたんだ」（『蒲生邸事件』213頁）。たとえば『ANO・ANO』が出なくても、林真理子や他の女性たちが別の本で同じ「本音」を語ることにしたはずである。

『情報チャンネル』に戻ると、この雑誌は a porn magazine である。1980 年に早くも『ANO・ANO』のような座談会が開かれている以上、より衝撃的にするには、high-earners になるために若い女性が、まじめな男性の純情を食い物にする精神のエゲツなさを「本音」として語らせる必要があった。田中康夫のベストセラー『なんとなく、クリスタル』（1981）の“なんとなく気分のいい生活”をするために、自由になるお金を得ようと思ってモデルになった」（72頁）由利は 1980 年代初頭では例外的存在で、『ANO・ANO』が出た頃の一般の女子大生はまだ貧しかった。「金の切れ目がエンの切れ目！「女は金に細かい」なんて言わないでよ 金がなくなっちゃ何もできない だって生活のベースなんでもん金によって心が動く、心が動くことによって金も動くー二一歳の女心と金、どーなってるか見てちょーらい」（『ANO・ANO』163頁）と宣伝は大胆だが、書かれているのはデートの費用などをめぐるささやかな内容だ。まだまだ男性側の主導権が強く、続編の『ANO・ANO II—『恋の教科書』』（1981）は、恋人とは別に男友達をたくさん作って遊ぶことをしきりと勧めている以外は、割とオーソドックスな恋愛指南書になっている。やはり、常軌を逸した金銭感覚と二股をかけて悪びれない恋愛観（もて男の田中康夫は『スキップみたい、恋みたい』（1986）で、恋人に秘密で他の男とつき合う女性たちを「僕はとてもかわいらしいと思います」（8頁）と応援した）は、バブル期を待たなければならなかった。

『魔術はささやく』は 1989 年 12 月に出版された。「一九八九年末という、バブル経済崩壊の直前です」というせりふが『楽園』（2007）に出てくるが、どんな時代だったか宮部みゆきの語りをつづけて引くと、「金余り社会などという、今では信じられないような言葉が通用した時代だ。国が全国津々浦々へ、小さな自治体にまで、ふるさと創生資金などと銘打って、一億円の金をばらまいても平気な顔をしていられた時代である」（下266頁）。『魔術はささやく』は日本のバブル経済を背景にした小説なのだ。

“Maki, have you ever heard of Shin Nippon Enterprises?” asked Taizo.

“Of course! (...) Shin Nippon used to deal

exclusively in expensive imported furniture and antiques, but about five years ago they expanded into condominiums and resort hotels. All their buildings are built with the best materials and furnished with the finest interiors. They've had a lot of success with them, and the company is doing well. They were behind that retro fad a few years ago.” (127)

「真紀、『新日本商事』という会社を知ってるかい？」大造が訊いた。

「モチよ。（中略）『新日本商事』ってね、もともとは輸入ものの高級家具や骨董品ばかりあつかつていた会社なの。それが、五年ぐらい前から分譲マンションやリゾート・ホテルの建設にも手をのばすようになっていてね。もちろん、全部高級資材で内装されて、つくりつけの家具も最高級品ばかりの億ションだけど、それがまたあたって、急成長しているの。ひところのレトロ流行りも、先鞭をつけたのはあの会社だわ」（236-237頁）

翻訳不可能と見なしたのかもしれないが、下線部の「億ション」が英訳版では消えている。億円単位の値がつくマンションを指す「億ション」こそは 1980 年代バブル期の景気のよさを示す造語だった。もちろん、誰にでも買えるものではなかったが、リゾート・ホテルは若者でも利用できるようになった。「彼は既に、新日本商事の経営方針を、もっと大衆的な路線まで拡大することを考えていた。大衆という言葉の意味が底上げされる時代が、必ずやって来る」（417頁）と吉武浩一は、バブル期の到来を予想し、この夢を実現するために守の父親をひき逃げしたのである。岩淵デボラが He was sure the day would come when “the masses” was no longer such a dirty word. (220) とうまく意識したとおり、一般大衆もバブルの恩恵にあずかる身分となった。三上博史と原田知世が主演したデート映画『私をスキーに連れてって』（1987）は、金持ちでもない普通の若者たちがなんとも優雅に見えたものだ。

『情報チャンネル』の座談会に出た女性たちは恋人との生活を楽しむ一方、恋人商法で自分のために大金を儲けていた。バブル期の金余り社会ならではのあくどい商売だが、被害に遭ったのがいわゆる「もてない男」たちであったのは注目に値する。1980 年代日本を代表した人物の一人と見なされている（杉田、41 - 64 頁）上野千鶴子は、出世作『セクシィ・ギャルの大研究』（1982）で、性的に自由化した社会における「もてない男」のルサンチマンについて警告している（223-225 頁）。『魔術はささやく』では、研究一筋で女性の意識

の変化に疎く、恋愛商法に引っかかって『情報チャンネル』を送りつけられてようやく事情を理解し、絶望して自殺した田沢賢一がもてない男として同情的に描かれている。死んだ彼の代わりに、夫人に出て行かれたフリーライターの橋本と、専門の催眠術を使って愛弟子の敵討ちをする原沢老人が、女性に対するすさまじい恨みを述べている。橋本は女性の側から言葉巧みに電話して来る様子や、連絡がなくなり、電話をかけてみると冷淡だったり別の男が出たりする様子を実演して、孤独な私生活に一方的に踏み込んできて大金を出させた後は用済みにする無情なやり口を告発して、こう断言する。「あいつらはクズだった。掛け値なしのクズだった」（179 頁）。英訳版でも人間のクズを表わす scum (98) という語を使っている。原沢老人のほうは、高木和子に本当に恋してしまった田沢の心の傷を代弁し、恋愛感情の神秘を説いたあとで、「彼女のしたことは単なる詐欺や欺瞞ではない。あれは冒瀆だったのだ」（403 頁）と言い切っている。英訳版では、It was an act of desecration. (213) と訳している。神聖なる恋愛感情を汚す行為だと言った老学者の怒りが感じとれる。

しかし、原沢教授のいう「正しい裁き」（401 頁）は、もちろん間違っており、やりすぎだ。自殺に見せかけて殺した3人の女性は、弟子の田沢とは直接関係がない。たまたま高木和子と同じ座談会に参加し、恋愛商法の手柄を楽しげに自慢していただけた。愛弟子を自殺に追い込んだ高木和子本人は、結局殺されなかった。作者が、裁きが正しいものではなかったことを読者に示した格好だ。しかし、もてない男に同情し、男心をもてあそんで得意がる同性への嫌悪は、はっきりと感じられる。『僕たちの好きな宮部みゆき』といった本が出るゆえんだ。

おわりに

男女関係が華やかになった 1980 年代にもてない学生時代を過ごした小谷野敦は、『もてない男』（1999）で初めて、もてない男の苦しみを告白した。『恋愛の昭和史』（2005）では、山田太一が脚本を書いた 1983 年のテレビドラマ『ふぞろいの林檎たち』で「もてない男三人組」を設定した「先駆性」を高く再評価する一方、「むしろ一人で孤独を抱えている男の姿は、あまりフィクションの世界では見かけない」（328 頁）と指摘している。巻末の「関係年表」の 1980 年代は田中康夫の『なんとなく、クリスタル』から始まっているが、1989 年は空白になっている（355 頁）。一人で孤独を抱える男を問題にした宮部みゆきの『魔術はささやく』こそは昭和、特に変化の激しかった 1980 年代の恋愛を扱った小説として重要な価値を持ち、この空白を埋めるにふさ

わしいフィクションといえるだろう。

『魔術はささやく』は宮部みゆきが女性の立場から「もてない男」の問題に光を当てた画期的な作品だ。『なんとなく、クリスタル』がブランド品に囲まれた女子大生の華麗な生活を描きながら、「三十代になっても、仕事のできるモデルになりたい」（222 頁）というどう考えても都合の良いすぎる夢（『33 年後のなんとなく、クリスタル』で案の定、夢は実現しなかった）と、出生率の低下による高齢化社会の到来を予測するデータで終わって予言的であったように、上野千鶴子が自著を振り返って「女性一般に無差別に恨みをもつような性犯罪が深刻化するだろうとわたしは予想したが、秋葉原の無差別殺傷事件の犯人、K 君が「非モテ」を理由に殺人を犯したと聞けば、この予想は正しかったのだろうか」（257 頁）と自問しているように、『魔術はささやく』も、女性に無縁の結婚できない日本人男性・ルサンチマン・女性嫌悪の問題を予見していた。それは未来が現在の延長線上にあり、宮部みゆきが 1980 年代当時の日本をきちんと正確に描いていたからだ。

朝日新聞社文芸編集部編『まると宮部みゆき』の「年表」によると、『魔術はささやく』が出版された 1989 年には宮崎勤の連続幼女誘拐殺人事件、前年の 88 年には足立区で女子高生コンクリート詰め殺人事件が起こっている。このマスコミを通して世間を騒がせておもしろがる劇場型の犯罪と、若い女性を監禁して痛めつけるサディズムは、宮部みゆきが『週刊ポスト』に4年間連載して1年半かけて本にした大作『模倣犯』（2001）で徹底的に扱うことになる。連続女性誘拐殺人事件の二人組の犯人は、子育てノイローゼで殺した娘の身代りにしようとした母親と、夫と金持ちの愛人に二股をかけて離婚した母親によって育てられていた。上田薫のいう「決して自身の弱さから逃げ出さない生き方」（『宮部みゆき』15 頁）を身をもって教えた『魔術はささやく』の守の母とは対照的だ。どんな理由であれ殺人を犯すなど言語道断だが、宮部みゆきには女性の生き方について確固たる倫理観があり、そこからはずれた同性にはかなり手厳しい。（『夢にも思わない』のクドウさんや『小暮写真館』の祖母さんの罪に対する主人公の厳しさは作者特有のものだ）。『模倣犯』で事件を追うフリーライター・前畑滋子の夫は鉄工所の若社長だが、高卒で、大卒の頭のよい妻に劣等感を抱いている。妻の仕事を応援し自慢の種にしている理想的な夫だが、妻の留守中に父親が倒れると、妻には家にいてほしいという本音がついに出てしまう（『模倣犯』（五）318-330 頁）。1980 年以来、女性の本音が自由に語られる一方、男性は不満があっても本音を胸の内に隠すようになった。その不満は突然爆発し、ときには、直接関係のない女性にまで危害を

及ぼすのだから始末が悪い。『魔術はささやく』の原沢老人などは、時代の流れに敏感で人間を男女ともによく観察している、宮部みゆきならではの見事な造形といえよう。

1989 年に出版された『魔術はささやく』は、当時の日本を活写してその未来を見通した小説だ。18 年もたつてようやく出た英訳版 *The Devil's Whisper* は、その古さを嫌って表面的に新しく見せようとした。冒頭の「一九八X年」を削り、1980 年代の物語である事実を隠してしまった。しかし本文を読めば、いずれケータイ電話・インターネット以前の 20 世紀を描いていることがわかる。ならば、最初から明示して、1980 年代日本の代表的小説として売り出すべきだった。

Under a pink neon sign by the subway he ran into two girls about his own age. They were both beautiful with long hair and eyes shining with excitement. *The night has just begun!* It was written all over their faces.

When their eyes met Mamoru's, both of them began to giggle.

"Hi!" called out one of them. "Isn't it a great night? Where you going?"

"I'm on my way home," answered Mamoru. (249)

これが *The Devil's Whisper* の締め括りである。1970 年代前後の時代設定ながら男女関係については「八〇年代後半の若者の生態を持ちこんだ」（黒古、122 頁）村上春樹の大ヒット作『ノルウェイの森』（1987）と一見、雰囲気そっくりだ。若い女性から、赤の他人である魅力的な男性に声をかけるこの軽さ・陽気さ・高揚感は、バブル期特有のものである。それが英訳版で外国人読者に正しく伝わるだろうか。日本人女性はいつでもこんな感じだと誤解されないだろうか。声をかけられた守の返事はそっけない。「すてきな夜じゃない？ どこへ行くの？」と声をかけられても、「うちに帰るんだよ」（469 頁）と相手にしない。この冷めた態度は、六本木を嫌い、深川という隅田川の東側から「東京」という大都会」（『チチンブイブイ』72 頁）を冷静に観察する作者・宮部みゆきの態度でもある。Under a pink neon sign by the subway という出だしで、英訳版は重要な固有名詞を省いてしまった。原文では、「アマンド」のピンク色のネオンの見えるところまで来たとき」（468 頁）と書いてある。アマンドは六本木の交差点にあるカフェで、バブル期にはよく待ち合わせに使われて有名だった。『なんとなく、クリスタル』の注釈ほどではなくても、簡便な訳注をつけるか、本文中に説明を追加するかして、

1980 年代末の日本を描いた小説であることをアピールしてほしかった。「宮部は、今日の世相を生写しにしようとしている」（214 頁）という中島誠の指摘は『魔術はささやく』にも当てはまる。バブル期の日本を生き生きと丸ごと写したこの作品は、歴史的価値を持つ傑作である。

使用テキスト

Miyabe, Miyuki. *The Devil's Whisper*. Deborah Stuhrlwabuchi, trans. Tokyo: Kodansha International, 2007.

参考文献

- 朝日新聞社文芸編集部・編『まるごと宮部みゆき』（朝日新聞社、2002 年）
- 上野千鶴子『セクシィ・ギャルの大研究——女の読み方、読まれ方・読ませ方』1982 年（岩波現代文庫、2009 年）
- 黒古一夫『村上春樹——ザ・ロスト・ワールド』（六興出版、1989 年）
- 現代女性作家読本刊行会・編『宮部みゆき』（鼎書房、2013 年）
- 小谷野敦『もてない男——恋愛論を超えて』（ちくま新書、1999 年）
- 『恋愛の昭和史』（文藝春秋、2005 年）
- 斎藤美奈子、成田龍一・編『1980 年代』（河出書房新社、2016 年）
- 佐藤文昭・編『僕たちの好きな宮部みゆき』（宝島社、2003 年）
- 下森真澄、宮村裕子『ANO・ANO』（JICC 出版局、1980 年）
- 『ANO・ANOⅡ——恋の教科書』（JICC 出版局、1981 年）
- 杉田敦・編『終焉する昭和 1980 年代』（岩波書店、2016 年）
- 田中康夫『なんとなく、クリスタル』1981 年（河出文庫新装版、2013 年）
- 『スキップみたい、恋みたい』1986 年（角川文庫、1988 年）
- 『33 年後のなんとなく、クリスタル』（河出書房新社、2014 年）
- 中島誠『宮部みゆきが読まれる理由』（現代書館、2002 年）
- 林真理子『ルンルンを買っておうちに帰ろう』1982 年

- (角川文庫、1985 年)
- 宮部みゆき『パーフェクト・ブルー』1989 年 (創元推理文庫、1992 年)
- 『魔術はささやく』1989 年 (新潮文庫、1993 年)
- 『我らが隣人の犯罪』1990 年 (文春文庫、1993 年)
- 『蒲生邸事件』1996 年 (文春文庫、2000 年)
- 『心とろかすような マサの事件簿』1997 年 (創元推理文庫、2001 年)
- 『今夜は眠れない』1998 年 (角川文庫、2002 年)
- 『理由』1998 年 (朝日文庫、2002 年)
- 『夢にも思わない』1999 年 (角川文庫、2002 年)
- 『模倣犯』2001 年 (新潮文庫、全 5 巻、2005-2006 年)
- 『誰か Somebody』2003 年 (文春文庫、2007 年)
- 『樂園』2007 年 (文春文庫、上・下 2010 年)
- 『小暮写真館』2010 年 (講談社文庫、上・下 2013 年)
- 『ソロモンの偽証』2012 年 (新潮文庫、全 6 巻、2014 年)
- 『ペテロの葬列』2013 年 (文春文庫、上・下 2016 年)
- 宮部みゆき、室井滋『チチンパイパイ』(文藝春秋、2000 年)
- 村上春樹『ノルウェイの森』1987 年 (講談社文庫、上・下 1991 年)
- 話題の達人倶楽部・編『懐かしの 80 年代にどっぷりつかる本』(青春出版社、2004 年)

Miyuki Miyabe's *The Devil's Whisper*: A Novel about Japan in the 1980s

Koichi YOKOYAMA

This paper is a minute study about *Majutsu wa sasayaku* written by Japan's most popular mystery novelist Miyuki Miyabe, and its 1980s' background. The novel was published in 1989, at the peak of the "bubble" economy in which the nation flourished more than ever, and many girls enjoyed luxurious lifestyles dating handsome boyfriends and sometimes some of them met other men for money or fun without conscience, more freely than ever. A keen observer, Ms. Miyabe critically described such tendency, focusing on the loneliness and suffering of the unfortunate who were not popular with girls; the serious but ignored problem was to be at last dealt with in 1999 by the male literary critic Atsushi Koyano in his bestseller *Motenai otoko* (A Man Unpopular with Girls). Therefore, *Majutsu wa sasayaku* deserves a wider recognition that it is not so much an interesting mystery novel of a hypnotist-killer as a precious document about Japan in the 1980s.

The English translation of *Majutsu wa sasayaku* came out under the title of *The Devil's Whisper* in 2007. Considering the fact that it was 18 years after the publication of the original, the release seems a bit too late. Maybe that was the reason that "198X," the very first word of the Japanese text in Prologue, was intentionally eliminated. Unless the readers of this English version know that it is the translation of the old book, they will tend to start reading it as a story of Japan in this 21st century. But of course, they will notice sooner or later that the scenes are those of the 1980s because there are neither cell phones, nor to mention smartphones, nor the Internet, and the 1987 movie *The Last Emperor* (directed by Bernardo Bertolucci) and American actresses such as Brooke Shields and Phoebe Cates are mentioned in the novel.

In conclusion, *The Devil's Whisper* would have been a much better book if it had included "198X," actually, either 1988 or 1989 according to the conversation about *The Last Emperor*, which was released in Japan in January, 1988. The English translator should have made it clear with both exact translations of proper nouns (like Almond Roppongi) and their explanatory notes that the novel vividly describes the so-called bubble period of Japan.

生源寺美子の児童文学 ——作品案内——

横山 孝一*

(2016年11月24日受理)

はじめに

生源寺美子(1914 - 2015)は、わが国を代表する児童文学作家だ。講談社児童文学新人賞とサンケイ児童出版文化賞を受賞した『草の芽は青い』(1966 年)で単行本デビューし、全国学校図書館協議会選定必読図書となった『マキオのひとり旅』(1973 年)で多くの読者を得た。『雪ぼっこ物語』(1977 年)で野間児童文芸賞を受賞し、1990 年代まで第一線で活躍した。主に小学生を対象に書かれたので、なつかしいと感じる大人も多いのではないかと筆者もその一人で、本稿は彼女の仕事を回顧する試みである。ウィキペディアの著書リストをもとに 72 作品のあらすじを掲げた。入手困難な古書がほとんどだが、図書館に保存されている本を読むことができる。小林与志、関屋敏隆、小林和子、中村悦子、笠原美子らによるすばらしい挿絵がついて眺めても楽しい。

生源寺は晩年、沢柳惺子を主人公にした自伝 3 部作(本稿 66、68、71 参照。以下、整理番号を記す)を完成させたが、早くもデビュー作(1)と『ふしぎなカセットテープ』(22)で過去を回想している。父親の転勤で引っ越しが多く、低学年を過ごした東北・福島への思い入れが強く、転校先の京都でいじめられた体験と友情が『友だちになるとき』(7)や『海へいこ!』(58)などの作品に影響を与えた。『はじめてのおこづかい』から始まる「はじめて」シリーズ(8、18、24、35、40、48、53)で児童心理を巧みに捉えている。ファンタジーも書き、『どうしておひるねするのかな』(12)『ミミイがとんじゃった』(26)など空想と夢が入り混じった子供の現実を描くのがうまい。『リリコふしぎな国にいく』(29)を読むと、生源寺が、繊細な「心」を描いた作家だったことがよくわかる。戦争の悲惨さを体験して、戦後の理想主義に共感し、犬や猫を愛し、古代エジプトに思いを馳せたこの小説家を忘れてはなるまい。不朽の名作『マキオのひとり旅』(5)と共に、最愛の亡母をモデルにしたらしい大人向けの隠れた傑作『あじさいの咲く家』(63)を推奨したい。

*人文科学系・英米文学/比較文学

1) 草の芽は青い(絵・山下大五郎) 講談社、1966 年

父が九州に単身赴任中、母の久子、兄の修一と有二と郡山近くの町で暮らす三枝文代。小学校では桂先生の「おはな」としてかわいがられたが、父が鉱山専門学校に転勤し、一家で秋田に引っ越すと、顔にやけどの跡があるとうわさされる未婚の橋本先生に嫌われる。巡査の子で自分の部屋のないあやと友達になる一方、掘立小屋で暮らす被差別民の正吾に同情し、父からもらった金でフルートを買って贈る。またぎになるつもりで山に入ろうとする正吾を追いかけて病気になるが、父が思いを汲んで、正吾の一家を学校の用務係として住めるよう手配する。(自伝的小説で、晩年の 3 部作の原型。)

2) 少女たち(絵・朝倉撰) 実業之日本社、1969 年

① 赤い帯

赤い帯が欲しいと父親にだだをこねて木に縛りつけられたことがある末娘のよねは、東京で見習い看護婦をしている。6 歳年上のキサ姉が結婚すると知り、お祝いに電気アイロンを買って帰郷。農地改革後も古いしきたりの残る農村で、背の低い大工と見合い結婚させられた姉に同情しながら、よねは、自分が求めているものを自分の力で勝ちとろうと決心する。

② マユミの実

戦争が終わって 7 年もたって戻ってきて、大学出なのにパートでホテルの守衛をしている要領の悪い父。朝子は、母が内職で作ったウサギの縫いぐるみを赤ちゃんへの贈り物として、級友の父親でもあるホテルの課長に父の本雇いを頼みに行く。その後、正式採用になって心から喜ぶ。(マユミの若木の成長と重ねて描く。)

③ 金いろの輪

片親の母を亡くし、腹違いの姉に引きとられ、美術グループで油絵を描きたいが水彩画でがまんしているユキ。東治兄がつかまえたナマズを料理したくない姉が死んだことにしたのを、困らせてやろうと蘇生させ、その生命力に帰ってきた東治と驚く。夜、絵のモチーフにした三重塔の相輪がライトアップされ、金色に輝いているのを

見て感激する。

④ ある姉妹

保子は、13歳で母を亡くし、母代りだった姉の郁子に赤ちゃんができたと聞いて神聖さをけがされたと思う。出産に立ち会い、姉の夫である柴さんが結核で咯血したと知ると、代わりにユタカを育てる決心をする（「雪の朝」）。16歳の保子は夜中に、おむつを替えミルクを温め、学校の礼拝に遅刻する。「ば」（お婆の意）と呼ばれて喜び、姉がユタカを引き取りに来ると寂しくなるが、姉の過労で再び預かることになる（「保子の“灯”」）。子供のいない柴の兄がユタカを養子にしたいと申し出るが、保子は反対する。ついに柴さんが亡くなると、聖書の言葉を引いてユタカの未来を守ろうと決意。父は、娘・保子の成長に感心する（「花びより」）。

3) もうひとりのぼく（絵・久米宏一）毎日新聞社、1971年

名門志多中学に入学した双子の兄弟。兄は親から期待される優等生の洋、弟は勉強のできない野球少年の健。二人は互いにコンプレックスを抱いている。同様の悩みを抱いて他校の不良グループに入った中西つとむとの、健の友情、侍の家柄ながら父をひき逃げされ母と東京に去ることになる小森晶子との、洋の恋愛（図書室で彼女の愛読書『智恵子抄』を借りて読む）を軸にした1年。兄弟は互いを認め合って、「にいさん」をやめ、洋、健と呼び合うことに決める。

4) いぬは王さま？（絵・くりたやえこ）講談社、1972年

5歳のアキラは、有名な詩人の妹で愛犬協会副会長のオールドミス、ヤマヤ＝マリの家にお手伝いとして働く母と住んでいる。母子は貧しい。5匹の飼い犬の豪華なえさを食べたくてアキラが犬のまねをするのを「かあさん」は厳しくとがめる。犬を溺愛する一方、使用人を酷使する「おくさま」を快く思っていない隣家のモノノさんは牛乳屋のユウさんと結託して、犬の太郎をさらって、以前行方不明になった太郎を助けた野良犬のブチに子供を産ませる計画を実行する。ブチのもとへ行きたい太郎は自ら頭をぶつけて死んでしまい、盛大な葬式が営まれる。母子は家から追い出されるが、犬たちが名残惜しんで、引っ越しを手伝うユウさんのライトバンを追いかけてくる。

5) マキオのひとり旅（絵・岩淵慶造）金の星社、1973年

4月に3年生になるマキオは春休み、母が手術を受けるので、名古屋から一人で新幹線に乗って東京のお婆の

家に行く。5歳のちあきと打ち解けた矢先、赤ちゃんのヒサオが急病で入院。過保護で育ったマキオは、いきなりちあきと二人で留守番をするはめになる。雨戸に巣をつくったムク鳥の卵を見る別れの日をクライマックスに、マキオが精神的に成長する5日間を描く。

6) マヒトよ明日がある（絵・市川禎男）あすなろ書房、1973年

① マヒトよ明日がある

集団疎開先で家族が東京大空襲で亡くなったと聞いたミチオは、戦後、親戚の家で肩身の狭い思いをして、上野で浮浪児になる。真人間の「マヒト」とあだ名され、拾い屋のガンさんの勧めで担ぎ屋として金を稼ぐ。警察の手入れで列車から逃げ、全財産の米を失ったと思ったが、金物売りの男がわざわざ届けてくれた。いま裁判所に勤めるミチオは、善意を受け継いで、青少年の補導に携わっている。

② 黄いろいうずまき

戦争中、父が出征し、親戚の豊造の家の二階に疎開した民子一家の肩身の狭い思いと、食料を入手する苦労。長生きしようと毎晩おまじないをかけていたひいお婆あちゃんは、母が保存していたスルメをこっそり食べてしまい、ばれると、死んでも構わないと開き直る。しかし、空襲騒ぎで小5の民子に助けられたあとは、死にたいと言わなくなる。（題名は、民子が見た爆撃後の光景。）

③ 帰ってきた兄さ

終戦後5年もたって帰ってきた兄の松雄は、口もきかずに百体もの仏像づくりに没頭。それをどこかに収めてから、ようやく畑に出ると言う。死んだ戦友たちの供養だったらしい。（妹の花枝の視点から描く。）

7) 友だちになるとき（絵・岡村紀子）あすなろ書房、1974年

東京から京都の小学校に転校した4年生のわたし（中川杉子）は、同い年の「おば」の横暴に耐えるゆりちゃんの味方になったり、授業中に窓から、級友で子役俳優のみちよが出る時代劇のロケを見たりして、新しい学校生活を楽しんでいたが、映画の約束に遅刻して満員で見れなかったことをきっかけにクラスでいじめられる。大好きなゆりちゃんにまで裏切られて、学校に行くのをやめようとするが、ゆりちゃんが謝りに来て、真の友情が芽生える。

8) はじめてのおこづかい（絵・小林与志）金の星社、1974年

小学1年生になったきこは、母親から週50円のおこづかいを初めてもらい、魅力的な商品がいっぱい並ぶた

なかやさんに買い物へ出かける。そこで、金持ちのさっちゃんから粘土消しゴムをもらう。学校に持って行って友達に触らせて、喜んでもらえたことに気をよくして、5人に粘土消しゴムを買ってあげると申し出てしまう。以後、代金の300円を貯めるために苦労して、12月、みんなが忘れた頃によりやく約束を果たす。すでに興味をなくし、だれも喜んでくれなかったが、母親は、お金の管理ができるようになったと評価。おこづかいを300円に値上げし、ひと月分をまとめて渡すと言って、きこを大喜びさせる。

9) さよなら泣きむしマミ (絵・田中槇子) ポプラ社、1975年

ひいおじいさんが残したおんぼろの家を壊し、地主に土地を半分返して、新しい小さな家を建てることに決まった。小学3年生のマミは、仮住まいの汚いアパートから初めて銭湯に行き感激したり、祖母との思い出が残るキンモクセイと別れ、古い家の取り壊しに涙する。「新しい家を建てるためよ」と励ますフキ子ちゃんはその後、転校。建て前のお祝いの前日、幼い弟と「あした天気になあれ」と祈る。

10) のびるのびるきこのみみ (絵・小林与志) 金の星社、1975年

小学1年生のきこは、食卓での両親の会話に興味津々。「ちょっとかわったひと」とおとうさんが評した、たえちゃんの父親をわざわざ見に行くほどだ。いとこのかおるねんさんがボーイフレンドを「おっちょこちょい」と言うのを盗み聞きし、どんな意味か知りたくて、かおるねえさんがまた来るのを楽しみに待っている。

11) ぼくのだいじなだいじなひみつ (絵・橋田美智子) 高橋書店、1975年

病気の祖母が贈ってくれたお金で父親がランドセルを用意。小学校に入学するタクヤは生まれてから病気がちで3月生まれのため、体が小さい。兄と姉から「幼稚」と言われることに慣れているが、内心心配している母親はその言葉に怒る。クマの縫いぐるみクマーの山の家を捜しに妹のあこと出かける旅は、空想と現実が入り混じる。タクヤはこの秘密の旅行で、クマーを正式にあこに譲る。(野崎孝訳 J・D・サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』の1人称の語りを大胆に取り入れ、オマージュとして麦畑を通り抜ける場面がある。)

12) どうしておひるねするのかな (絵・橋田美智子) 銀河社、1975年

おかあさんに無理やりお昼寝をさせられるきこは不満

で、ベッドを洗濯機に見立てて洗濯ごっこを始めるが、服が外に飛んで行ってしまふ。あとを追って空を飛び、引っかかったポプラの木から取り戻す。安心したきこは、服を着て、毛布を掛けてぐっすり眠る。

13) 星のとまり木 (絵・須田寿) あすなろ書房、1975年

① 星のとまり木

灯台にぶつかって死ぬ鳥を気の毒がって、ケヤキの木は星たちに頼んで枝にとまってもらい、渡り鳥に安全な休憩場所を提供する。

② 雪をふらせたポスト

新しい郵便ポストは投函されたつらい手紙をちぎって投げ捨て、それが雪になって降る。

③ 小さな水たまり

へとへとのアゲハチョウを救ったのは、高熱を出した母親のために女の子が運ぶ氷の水たまりだった。

④ ガンぶろ

足が不自由なスエオは、水かきをけがした渡り鳥に同情。介抱して見送り、くわえてきたらしい枝を保管する。

⑤ まさよとメーリー

戦後、北国の小学校に転校してきた西洋人風の女の子。ハーモニカを吹く姿を見て、まさよは勝手にメーリーと名づけたが、小森しげこという、母親は日本人で日本の家で日本食を食べることを知り、幻滅する。

⑥ みぞれがふったら

夜、雪の降る北の町。春に1年生になる男の子をもつ母親が、登校中に転び、雪にできた自分の顔の跡を病気がちの母の顔だと思って励まされた昔を思い出す。

14) ふたりと一羽 (絵・鈴木義治) あすなろ書房、1976年

親友と信じていたゆみ子がひそかにさっちゃんと遊んでいる。証拠の紙切れを拾って動揺した4年生の和代は、寄り道して、長身の転校生・江藤昌彦が池でアヒルと戯れるのを目撃する。その後再会。マンションに引っ越したため、空き家のぼろアパートに隠して学校の調理室の残飯で育てていたという。アヒルが死ぬと、和代は「自宅の庭に埋めましょう」と申し出る。昌彦は初めて和代に名前を訊き、アヒルを「ミドリ」と呼んでいたのは、自分がかわいがってくれたお手伝いさんの名前で、彼女がくれたからと明かす。

15) ふくろうのめがね (絵・山中冬児) 岩崎書店、1976年 ※1989年『みつ子とゆきちゃん』に改題

① ふくろうのめがね

魔法のめがねを拾い、昼を見たいという願いが叶った

フクロウは、夜眠れない悩みをかかえることになった。めがねをはずせば眠れることに、めがねを落としてようやく気づく。

② まるいきいろいあきばこのうた

母が病気で入院し、家政婦に来てもらっているヒサシは、彼女の子であるリョウちゃんが家に来て甘えるのがおもしろくない。欲しがるアイスの空き箱をわざとあげなかったが、その後考え直して、家政婦に手渡す。

③ みつ子とゆきちゃん

通信簿を計算してクラス順位を知ろうとしたみつ子は、ゆきちゃんの方が上と知ってショックを受ける。

④ ふゆの花はかざぐるま

ひとり暮らしのおばあさんが雪の中、花かと思って見つけた風車。夜中にさがしに来た姉弟は、2羽のヒワ鳥だった。（『あの子もこの子もよっといで』の原型。）

⑤ チョウはしらない

チューリップのなかで寝てしまったタテハチョウは、花瓶にさされ、猫や男の子や外の嵐の危険を何一つ知ることなく、翌朝、外に捨てられた花から飛び立つ。

⑥ から松林のなかで

病気のおばあさんを見舞った帰り、朱色のから松の美しさに見とれた5年生のわたしは、おとうさんが車に乗せた兄妹から、飼っていたウサギをうかつにも死なせてしまい、松林に埋めてきたという話を聞く。

16) なみだ星（絵・須田寿）あすなろ書房、1977年

① なみだ星

一人前の星になるためには、おかあさん星のもと、美しい夢を見なければならぬ。ところが、子ども星は、戦争を逃れて山を越えようとしている姉弟に同情して、涙を流し、行き先を照らす。その結果、いちばん輝く星になることができた。

② のはらのふみきり

草むらにある小さな踏切は、かつて銀鉱石がとれた頃、トロッコに乗るとうさんを見送った三兄弟を思い出す。今来たのは別荘の子供たちで、当時のことなど想像もつかず、おもちゃの国か遊園地があったのだろうと話す。

③ セロハンのふくろ

たんすの着物を守るナフタリンの入ったきれいなセロハンたち。ナフタリンがなくなると、捨てられると覚悟するが、小さい女の子が万華鏡の材料にしてくれた。

17) ななことみんな（絵・上條滝子）ポプラ社、1977年

① しっぽができた

縫いぐるみの動物たちに「尻尾がない」と批判されたななこはスーパーへ尻尾を買いに行くが、つけてもらっ

た尻尾はキツネのものと批判される。誕生日にきれいな着物を着たとき、赤い帯がななこの尻尾だとうやく認められる。

② はやくはやく

おかあさんが出産のため入院。ななこは、縫いぐるみたちのリクエストで、たらこのお弁当をつくって、一緒に花見に出かける。みんなはそれぞれ動物園の自分の本物のところへ行ってしまう、ななこは一人ぼっちになる。寝ているところをおとうさんに起こされ、赤ちゃんが生まれたと聞く。いつもは遅いのに、すぐ着替えて、縫いぐるみたちを驚かす。

③ 花火とネオン

1年生の夏休み。赤ちゃんが病気になり、ななこは、リスの縫いぐるみを連れておばあさんと田舎へ行き、初めて花火を見る。帰ってから、家族でレストランへ出かけたとき、ネオンとたくさんの人を見た赤ちゃんが泣いていることに気づく。花火を怖がった自分と同じだと思って励まし、縫いぐるみのみんなと早く一緒に遊べるようになればいいと思う。

18) はじめてのたんじょうかい（絵・山本まつ子）

金の星社、1977年

1年生ののぼるは、幼稚園でいちばん仲の良かったまさとの誕生日に野球ボールのプレゼントを用意するが、まさとは母親から家に呼ぶ人数を制限され、野球の下手なのぼるを誕生パーティーに呼ばなかった。ショックだった。4年生のおねえちゃんが代わりに抗議し、友情は壊れる寸前だったが、のぼるは、仲直りの機会を逃さなかった。まさとの呼ぶ声を聞き、外へ飛び出す。

19) 雪ぼっこ物語（絵・市川禎男）童心社、1977年

梅こけしに感銘を受け、「このこけしには何かある」と感じてわたしは福島県の山あいの村に作者の三谷チヨを訪ねる。最初は仕事場を見せてくれなかったが、通って話を聞くうちに中に入れてくれた。死去の報を聞き、チヨの生い立ちをまとめた。（あとがきでフィクションであることを明かしている。）チヨは貧農の娘で、酒を飲んで暴力をふるう父親におびえ、父が出稼ぎでいなくなると喜んで母に怒られる。祭りに着ていく着物もなく、きれいな千代紙にあこがれるが、小学校で交換するおもちゃもない。死んで生まれてきた妹の霊と地藏堂の前で遊ぶ。ヒルを怖がって田んぼ仕事を嫌がり父に殴られる。小学校を卒業すると、町に働きに行くのが嫌で山に家出し、恋愛結婚した夫婦に救われる。そこでこけしづくりを学んだ。家は妹が継いだ。チヨが独り身を貫いたのは、あの戦争で恋人を亡くしたからだろう、とわたしは想像する。

20) **人権・ねこ権** (絵・橘田美智子) P H P 研究所、1977 年

小4のマユミは犬を飼いたくてよその犬を給食の残飯で手なずけていた。そんなとき家でノミが大発生する。屋根裏に野良猫が住みつき子猫を生んでいたのが原因だった。マユミは級友の一郎と共に猫に変身して、猫にも母性愛や権利があると母猫から直接話を聞いて納得するが、かゆくて寝ることもできず結局、猫の出入り口をふさいで、燻煙でノミを退治する。

21) **ふしぎなカセットテープ** (絵・山中冬児) ポプラ社、1978 年

小2のこずえは中3の姉のようにおばあさんから少女時代の昔話を聞けないことを不満に思っている。最近、おばあさんは物忘れがひどいからだ。迷子になってお巡りさんに連れられて帰ることもあった。そんなハギノおばあさんの元に、昔を語るカセットテープが郵便で届く。警察署長の娘(末っ子)として転校先でのけものにされたこと、仲良くなった梅子にも特別視されボロ家を見せるのが嫌で遊び道具をあげて逃げたこと、田口カメオという女の担任の先生から通信簿をもらうとき、お姉さんと違ってアヒルばかりだと批判されたこと、美人のちづる子と仲良くなって自分の顔に劣等感を持ったこと、ちづる子の母は継母だと知ってしゃべるまいと誓ったことを思い出す。そのあとで、おばあさんは、忘れることはいいことだと思う。(おばあさんの思い出は自伝的。)

22) **だれかしらだれかしら** (絵・安井淡) 講談社、1978 年

おかあさんが保健所へ赤ちゃんの注射に出かけている間、きこが子猫のミミイと留守番を任される。玄関のチャイムが鳴り、絵本のオオカミが来たかと思って怖がったり、本物の電話を使って電話ごっこをしておもしろがったりしているうちに、疲れて寝てしまう。おかあさんに頼まれて様子を見に来た交番のおまわりさんが、ふとんをそっとかけて去る。目を覚ましたきこは、こびとの仕業かと不思議がる。

23) **ちゅうりっぷふじさん** (絵・武市加代) あかね書房、1979 年

赤ちゃんにかかりきりのおかあさんから「もう寝なさい」と言われ、1年生のななこはおもしろくない。ベッドを揺らして反抗し、縫いぐるみたちから非難される。一同はベッドのびゅーん号で夜空を飛び、ちゅうりっぷ富士山へ。ななこは高所恐怖症だったが、途中で下山できなくなったきりんを助ける。ななこが帰って眠りにつくと、きりんは「やっぱり、おねえちゃんだよね」と褒

め、縫いぐるみたちも一緒に寝る。

24) **はじめてのガールフレンド** (絵・山本まつ子) 金の星社、1979 年

小学校に入学したはるきは体が小さく不安でいっぱいだったが、となりの席の女の子ひろみに励まされ、学校が怖くなくなる。しかし、給食のときうるさく注意され、席替えで離れるとほっとする。自宅のとなりの空き地に家が建ち、引っ越してきた幼稚園児のゆかに「おにいちゃん」と慕われると、彼女の家遊びに行くようになる。その後、ひろみと再会。なんでもひとりでやれるようになったことを褒めてくれたが、「うるさいな、もう」とどなってしまふ。はるきは、ゆかと学校に通うところを想像し、「ゆかちゃんは、ぼくのガールフレンドかもしれないな」と頬を赤らめる。

25) **愛—Love—** (絵・金井塚道栄) ポプラ社、1979 年

① **おどろきの旅**

著者がエジプトのカイロを見物。ホテルのバルコニーからナイル河を眺め、博物館ではネフェルタリの像に見とれるが、「お墓にかえして」と悲痛の声を聞く。

② **祈り**

紀元前3世紀のエフィソス。女羊飼いだっただ母は息子を立派な学者にするため、都に出て〈花の家〉で働き、元老の愛人になる。貴族の学校に行くことになった少年は、女神アルテミスに小指の血を捧げ、母の幸せを祈る。

③ **緋色の馬**

古代アッシリアの都アッシール。侵略をつづける父王の後を継ぎたくない王子アムトは女神イシュタルに祈る。300人の奴隷の身代わりになった小国の王女ビビアに恋し、彼女の国に攻め込むとき身投げする。二人で分かち合った馬の彫像から、緋色の馬が二頭駆け出て天に昇る。

④ **野を駆けるろば**

自殺したアムトの弟アラムはイリサと結婚したかったが、父王から許可が出ぬまま、彼女は父親がスパイとわかり一緒に殺されてしまう。武人のアラムは兄のまねはできず、父王に反抗してマリ国の王座につく。が、力が分散したところをバビロンのハンムラビに攻め込まれ、父王は壮絶な戦死を遂げた。アラムは牢の中で後悔する。

⑤ **イナンナ讃歌**

4500年前のシュメールの王都ウル。デウーラはイシュルギとの結婚を楽しみにしていたが、13歳の王女が病死。彼は馭者として生きながら葬られるという。楽園入りをうらやましがる病人と入れ替えて、デウーラは彼とエジプトに逃れる。しかし、そこでピラミッドの奥殿の仕事をした彼はあつけなく殺されてしまう。デウーラはナイル河に身投げしようと考え、お守りの女神イナン

ナ像を投げ捨てようとする。が、そのとき、身ごもっていることを知り、生きようと心に決める。

⑥ 古代との対話

ピラミッドのナイトショウに知人と出かけたわたしが、いつのまにかはぐれて、「他人のものに手を出すな」とコプト人の群れに責められ、あわてて逃げだす。

26) ミミイがとんじゃった (絵・橘田美智子) 国土社、1979 年

初めておかあさんからはさみを使わせてもらったきこは、子猫のミミイを切り紙にしてみた。すると、こわい声を出したり、ミミイの声でおとなしくなったり、ついには「ミミイじゃないわよ」と逃げだす始末。窓から消えてがっかりしていると、当のミミイが切り紙をくわえて帰ってきた。似ていないところもあると言われ、きこは、朝食後の居眠り時をねらって、ミミイそっくりの切り紙をつくろうと思う。

27) 金色のランプ (絵・小坂茂) あかね書房、1979 年

娘に二番目の赤ん坊が生まれるというのに、自分の年齢を考えてもうチャンスはないと判断し、アラブの古代遺跡をめぐるツアーに参加。女学校で習った英語を駆使して国際交流し、ホテルのトイレに閉じ込められるハプニングもあったが、イラン、イラク、エジプト、トルコを精力的にまわり、今と変わらぬ人間の営みに思いを馳せる。(著者の幻想をまじえた「あかね紀行文学」シリーズの 1 冊。)

28) まほうのめがね (絵・山中冬児) 岩崎書店、1979 年

昼の世界を見たいフクロウが神様に祈り、昼も見える魔法のめがねを拾う。色彩溢れる光景を見てほかの動物たちと遊ぶことができたが、夜は眠れず、疲れ果ててしまう。コマドリにこづかれ、めがねが落ちたおかげで、また昼に眠れるようになる。(同名短編の絵本版。)

29) リリコふしぎな国に行く (絵・菊池貞雄) あすなろ書房、1979 年

ホームルームの議長としてみごとにクラスをまとめた原田くんが入院。3 年生最後の春休み、リリコは自分で買ったシクラメンをもってお見舞いに行く予定だったが、弟のマモルが花をむしってしまった。泣いて駆け出ると、青いトルコ石の人形を見つけ、お日さまに引き寄せられ、花はまた咲くと慰められる。光線に乗って「むかし通り」経由で地球に帰る。途中、さばきの広間で原田くん似の王さまと動物頭の人たちに心臓を秤にかけられ、平和なしずけき楽園に入るが、幸せそうな住人がロボット

のようだとわかる。心があれば、楽しいこともあるかわりに悲しいこともある。帰宅したリリコは、交番に人形を届ける前に、この旅を忘れないと話しかける。

30) みんなおひるね (絵・牧村慶子) P H P 研究所、1980 年

天気の良い 5 月、庭は静まりかえっている。幼いきこがベッドでお昼寝中なのだ。遊びに来た子雀たちは、汗をふいてあげたいと思う。すると、ハンカチに描かれたお猿がハンカチから飛びだして、きこの汗をふく。そのあとは、みんなお昼寝。

31) だれもしらないうきわのたび (絵・牧村慶子)

P H P 研究所、1980 年

砂浜に忘れられた黄色い浮き輪が、波にさらわれて沖に出る。トビウオのかあさんは子供たちに飛び越える練習をさせる。カニは、月の抜け殻と思う。嵐の中、浮き輪はカモメを助け、何ごともなかったかのように元の場所へ打ち上げられる。やがて、忘れた子供が取りに来て、波乗りを楽しむ。

32) ほんとのことが知りたいの一真木子の心の詩— (絵・田中槇子) ポプラ社、1980 年

5 年生のとき「小さい夢はピアニストになること、大きな夢はピアノの先生になって、だれにでもただで教えること」と答えた真木子。母方の祖父が残した家には、未亡人になった母の姉と大学生の息子も住み、鉄鋼会社勤めの父は肩身が狭い。ピアノにあこがれる真木子は、6 年生になり、祖父のドイツ土産というピアノを弾きに世田谷の家に入出入りしていたが、祖母が溺愛する末娘の千佐子が離婚。幼いといこの淳が夫の実家に引き取られると知って同情し、大人たちを激しく責める。貿易会社で英語を使うカッコいい叔母は、潔く自分の非を認めた。真木子は小学校を卒業。千佐子叔母からピアノを贈られ、「おとめの祈り」を弾く。

33) あの子もこの子もよっといで (絵・鈴木義治)

P H P 研究所、1980 年

ひとり娘のてるよが夫の転勤で北の海辺の町に引っ越してしまい、一人暮らしのときさんは寂しい思いをしている。冬に花を探しに出て見つけた風車は、ベニヒワの姉弟のもので、人間の子に化けて取りに来た。ときさんは「まごちゃん」の誕生を楽しみに、男でも女でもいいように帽子や靴下を 2 組ずつ編んでいる。テレビで見たしもやけのうさぎに同情し、毛糸の帽子を贈ったところ、木の葉の手紙で、靴下も欲しいと言ってきた。ときさんは、テレビを通り抜けて山のうさぎに届ける。帰ると、

てるよが、男女の双子の赤ちゃんを連れて帰っていた。北の国に行ったベニヒワが届けてくれた風車を持って。また転勤で戻ってくると聞き、ときさんは大喜びする。

34) いちぬけた いちぬけた (絵・関屋敏隆) フレーベル館、1980 年

おかあさんが家で英語を教えているため、くみこは、弟のゆうちゃんを連れて遊びに出る。そのため、せいこちゃん、なつえちゃんに頭が上がりず、おままごとでは、赤ちゃん役。ゆうちゃんがおもらしすると、ごさを洗って肩身の狭い思いをする。しかし、一人のときゴムだん遊びで二人がずるをするのを見ると「いちぬけた いちぬけた」と怒って帰る。せいこちゃんとなつえちゃんは、あわてて追いかける。

35) はじめてのなみだ (絵・阿部肇) 金の星社、1981 年

小学校に入学したてるみは泣き虫で「あめもり あめこちゃん」とあだ名をつけられ、泣くと遠足の日が雨になるとクラスメートに言われて涙を流さないように努力する。が、結局、遠足は雨で延期。そんなある日、校内放送で帰宅するよう言われ、家族に何かあったかと心配して全力で走る。歯医者予約があるおかあさんが弟の迎えを頼むためと知り、てるみは号泣する。家族の無事を知った「はじめてのほんとうのなみだ」だった。

36) まる池のひみつ (絵・竹江都志子) 国土社、1981 年

ルミコとコウちゃんは林の中のまる池が大好きで、ある日、年上の少年に導かれ、池の裏側の世界を訪れる。そこでは、各季節ごとに会議が開かれ、二つの工場で、男の子と女の子が、水面に美しい景色を映すため、いっしょうけんめいにダイヤモンドを磨き、小石や木の葉の繊細な音を出すためにパイプを調整していた。しかし、まる池はマンションを建てるために水を抜かれることが決まっていた。夜、ルミコは、池の精たちが遠くへ飛び去る音を聞く。

37) ママってずるーい (絵・小林和子) ポプラ社、1981 年

パパが外国の出張から2週間ぶりに帰ってくる。ママはまるでクリスマスか誕生日みたいにごちそうを作り、花を飾る。学校から飛んで帰ったまいこも一緒におしゃれをして、7時によりやく帰宅したパパをママと競うように大歓迎する。「パパだって、つかれてるんだから」とママに無理やり寝かされたまいこは飛行機が墜落する夢を見て目を覚ます。パパとママは二人でワインを飲ん

でいた。「ママってずるーい」と泣き、パパに甘える。

38) 知っているのはぼくだけさ (絵・田沢梨枝子) 講談社、1981 年

ぼく(3年生のクニオ)は6年生になる姉のカズコの様子が変だと友人に言われ、本人から幽体離脱ができると打ち明けられる。姉は、指に電気を流して合図を送ってくれた。魔法のペイントで育ちの遅い桜の蕾を塗り、軽気球に乗って空に色鮮やかな虹を描き、海辺のうす汚れた松林を緑に染める。最後は、三日月をきれいに塗って、その上に飛び乗り、姉は居眠りをはじめた。

39) はだかの王様Vサイン (絵・大坪幸子) あすなろ書房、1982 年

2年生の3学期。背が低くやせっぽちのさとしはジャンケンに負けて、学芸会で「裸の王様」を演じることになった。母と姉は嫌がるが、お父さんは「がんばれよ、さとし」と応援。おとなしい性格で普段あまりしゃべらなかつたのに、本番ではアドリブも入れ、やせっぽちの裸を堂々とさらす。「はだかだっていいじゃないか」と高々とVサインを掲げ、観客と級友から喝采を受ける。

40) はじめてのおとまり (絵・山中冬児) 金の星社、1982 年

かやこは、空き地のチューリップの花を折って持って行ったしのちゃんが苦手だった。おとうさんと中華料理店に行くときも、ずうずうしくワンタンメンをねだった。しかし、運動会の競走で、しのちゃんが交通事故で入院中のおとうさんに見せるため1等の写真を撮りたかつたと聞き、勝って喜んだことを後悔。いなかの親戚の家にやられたしのちゃんが逃げてきたことを知ると、かやこは、一緒に寝ようと声をかけ、自分の家に泊まれるよう親に頼む。

41) にじいろのさかな (絵・山本まつ子) 佼成出版社、1982 年

2年生のあこは、家の砂場でゆみちゃんとおだんごを作っているときに3センチほどの7色に光る宝石の魚を見つける。魚は生きていて、昔、美しい入海に住んでいたが、町が真っ赤に燃え、海水も熱くなって逃げてきたのだと語る。海に帰りたいという願いを聞き、あこは、川へ魚を放してやる。

42) 王宮のひびきヘンデル (絵・恩田和幸) 音楽之友社、1982 年

中学受験に失敗した友也を励ますため、天才でも努力し苦勞するものだと、大学生の高志がテープにヘンデル

(1685-1759)の生涯を吹き込んで送ってくれた。医者
の父が 63 歳のときの子で、法律家になれと厳命されて
育つ。音楽の才能を公爵からも認められるが、父の死後、
法学部に進学。どうしても音楽家になりたくて修業の旅
に出る。英国に帰化し、敬虔なクリスチャンだった母の
死に触発され『メサイア』を作曲し、大成功をおさめる。
晩年は、白内障で失明したが、音楽家として活動をつづ
けた。——友也の母は『メサイア』が大好きで、おとう
さんと聴きに行ったことがあると話す。

43) おねえさんがほしいの (人形製作・米山京子、写真・三科博) あかね書房、1983 年

「このワンピース、おねえさんがぬってくれたのよ」
と、まりちゃんが自慢するのを聞き、あたし(えり)は、
おねえさんにあこがれる。るいちゃん、まどかちゃん、
焼き芋をくれたジーパンのおにいさんにもおねえさんが
いる。おかあさんにねだると、赤ちゃんが生まれると明
かされる。自分自身がおねえさんになることを知り、ど
んなおねえさんになろうかと考えて「なんだかだんだん、
あたし、どきどきしてきちゃったわ」。

44) いやいやーねんせい (絵・伊勢英子) PHP 研究
所、1983 年

3 日目から一人で通学する 1 年生、りなちゃん。毎日、
学校を休むと言い張るが、カレンダーの黒い字は休めな
いのよとか、雨で赤い雨具が使えるわよと、おかあさん
になだめられて通学をつづける。先生に注意されて学校
に行きたくなくなったときは、友達になったばかりの林
まりちゃんが迎えに来てくれた。まりちゃんとは、ちょ
うちょうごっこでけんかになり、おかあさんが心配する
が、小さい雲が 1 つになるのを見たりなちゃんは、翌日、
まりちゃんを誘って学校へ行く。

45) ごめんね日記みちゃった (絵・立木じゅん) ポプ
ラ社、1983 年

コアラの縫いぐるみと寝る 4 年生のぼく(ユウ)は、
高木家の跡取りとして一人部屋をもらっていたが、中学
2 年生のゆずこと 6 年生のみちこは同じ部屋。学校で、
田辺くんからゆずこねえさんがカンニングをしたと言わ
れ、ぼくは必死で反論。みちこねえさんが日記を勝手に
見て、隣のかわいい男子の不出来に同情して答えを見
せたいと思ったが、実際には見せていなかったことが判
明する。ぼくは、一人になりたいと書いていたゆずこね
えさんに部屋を譲る。あとで日記を見たことを怒られる
が、おかあさんが仲裁に入ってくれた。田辺くんの誤解
はホームルームで解決。学級委員の森本さんは、ぼくに
感心したのか、バレンタインデーのチョコを家に持って

きてくれた。二人のねえさんもチョコを用意してくれて
いて、このときばかりは、やさしいユリの花のように見
えた。

46) なのはなおつきさん (絵・鈴木義治) ひくまの出版、1984 年

春の夕暮れどきに、姉さんと妹が散歩をしている。
「きえきえ(きれいきれい)」と、まだちゃんとしゃべ
れない妹の言葉を直し、お花や実とはってはいけない、
それをご飯とする蝶や小鳥は例外と教える。姉さんは落
ちていた菜の花を妹にあげるが、ヤツデの葉を拾うと今
度はそれを欲しがって、菜の花を投げ捨ててしまう。泣
きやまぬ妹を見て、姉さんは天狗のうちの魔法を使う。
月がいつもより早く出て菜の花色に輝くと、妹はようや
く満足する。

47) 与謝野晶子 (絵・鮎川万) さ・え・ら書房、1984
年

堺市で菓子の老舗に生まれた晶子は、市議会議員の父
の蔵書を読んで育ち、弟の勧めで浪華青年文学会に入り、
与謝野鉄幹の『明星』にデビュー。妹分の山川登美子と
ともに妻子もちの鉄幹に恋し、妻の座を得る。「悪魔」
と中傷されて名前を寛に戻した夫を助け、第一歌集『み
だれ髪』で人気を博し、11 人の子の母となる。夫を立
ち直らせるために渡仏の費用を稼ぎ、パリで合流するも
子供が心配で先に帰国。しかし、里子に出した子供はな
つかなかった。夫の死後、1938 年に、関東大震災で一
度原稿が焼失した『新々訳源氏物語』を刊行。その後、
脳溢血で倒れ、1942 年、65 歳で亡くなった。(著者は、
女学生時代から与謝野晶子に傾倒していたという。)

48) はじめてのテスト (絵・阿部肇) 金の星社、1984
年

につた先生は「テスト」という言葉を避けて、数字の
代わりに絵を描いて算数の初めての確認問題を用意した
が、かつやがテストだと騒いだため、恐れをなした、と
もはるとまちこが学校を休んでしまう。棒グラフで成績
を貼り出されると兄から聞いたと受験を拒否する子まで
出て、先生はよく話し合うべきだったと反省。テストは
中止となる。かつやとみすずは、欠席した二人が風邪か
どうか、宝物のハチの巣とピーター・ラビットの下敷き
を賭けて、帰りに二人の家を訪問する。

49) アリの町の天使 (絵・鴫田幹) PHP 研究所、1984
年

1950 年、高崎経済大学教授の娘・北原怜子 21 歳は、
他人のために祈るよう言って聖母マリアのカードをくれ

たゼノ神父の姿を見かけ、後を追い、廃品回収のばた屋が集まるアリの町に深く関わることになる。洗礼を受けて以来、人の役に立ちたいと思っていたのだ。片親が多い子供たちのためにクリスマス劇を企画したり、ドラム缶の風呂に入れてやったり、勉強を教えたり、費用を稼いで夏休みに箱根旅行へ連れて行ったりした。胸の病気で療養生活に入り、自分の代わりがいることにショックを受けるが、最後はアリの町に移り住んで、1958年に三畳の部屋で亡くなった。

50) わたしにだけおしえてね (絵・長谷川知子) ひくまの出版、1985年

2階の赤ちゃん用ベッドで赤ちゃんを待つエコ。チューリップやベコニアが咲く庭には、いろんな鳥が飛んでくる。ちびっこスズメから、ほんとうは弟になるはずだったと聞いて納得し、メジロから今度赤ちゃんに生まれてくると聞いて楽しみに待つ。実際、1年生になる前に妹の赤ちゃんができた。この話をすると、パパは「うそっこ」ではないと信じてくれた。

51) 少女たちの季節 青い木の実たち (絵・大島洋子) ポプラ社、1985年

① ほたる

戦後10年、東北から東京の昌子の家に女中奉公に出た中卒のカヨは、初めて自由を満喫する。しかし、容姿に劣等感を抱き、生活が荒れ、中年男に誘われて妊娠。中絶費用を工場のきつい労働で稼ごうとするが、妊娠していなかったことがわかり、希望がわく。そんなときにホタルを見た。

② ねこ

勝気な母が亡くなり、家事を任されている中学生の幸枝は、迷い猫のジローに癒される。短大を出てディスコなどで遊ぶ姉の光枝から、父に女がいると聞かされ衝撃を受けるが、見合い話があるだけだった。父親から付き添いを頼まれ、幸枝は満足する。

③ 花を……

陸軍の主計官になった兄の竜一に日本最後のお正月を味わわせるため旭川に行った妹の笹子。ひそかに愛しているいとこの森夫が海軍兵学校に入り、お国のため後につづくと手紙を寄越しているのを見て、みんな戦争のせいと憤るが、せめて無事を祈って花を飾ろうと思う。

④ 幸福

母を亡くした冬子は、すでに両親のいないすが子(結核にかかり退学することになる)と思いを共有し、銀行の頭取の娘で美人の早苗にはわかるまいと思う。しかし、父の転勤で関西に引っ越す前、家を訪ね、手伝いの女性から、早苗の母親が精神病だと聞く。

⑤ 輪唱

13歳のシゲルは、未熟児で生まれた盲目の妹ミチをずっと熱愛していたが、ミチは白血病であっけなく死亡。医師を呼びに行くとき、自然を憎み、完全な虹を見てもミチが渡って天国に行く姿を空想することができない。しかし、一緒に歌った「かあさんおかたをたたきましょ」の声の幻は、はっきり聞こえていた。

52) パーティーはけんかのあとで (絵・阿部肇) あすなろ書房、1985年

3年生のタミオは、乱暴でわがままなヨウヘイが試験中にタミオの消しゴムを使い、消しカスを吹いてくるのを怒り、けんかになる。両成敗した担任の石田先生はまだお嫁さんがいず、二人を回転寿司に誘う。ヨウヘイは元気にたらふく食べたが、クリスマスをしたこともプレゼントを交換したこともなく、先生とタミオの話に嫉妬して帰ってしまう。親が共稼ぎでお金のプレゼントしかもらったことがないのだ。その後、クリスマスケーキのクルミを買いに行かされたタミオは、ヨウヘイと偶然会い、家のクリスマスパーティーに誘う。ヨウヘイは大喜びする。

53) はじめてのまっしろパンツ (絵・笠原美子) 金の星社、1986年

1年生のもとこは学校でおしっこをもらしてしまったが、機転のきくやさしい山川先生にまっしろパンツをはかされて元気に帰ってくる。ところが、3年生のおにいちゃんのたつみが、「おまえもくさいぞ」と学校でからかわれたと妹に腹を立てる。さらに、もとこは、おままごとで、おもらしをするから赤ちゃん役と言われ、泣いて家に帰る。それを見たたつみは、妹を元気づけるため、水族館に行ったとき、小さなサボテンをおみやげに買ってくる。

54) コアラはぼくんだからね (絵・山中冬児) あかね書房、1986年

お父さんからおとしのクリスマスにももらったコアラの縫いぐるみといまだ一緒に寝ている2年生のぼくは、幼稚園の妹ミネコに何かとばかにされている。実際に、計算がぼくより速いので、ミネコがスーパーガールに見えてしまう。そんなとき、おばあちゃんがぼくの誕生日に栗の木の枝を持っていなかからやって来た。「いのちのもと」をくれたおばあちゃんが夜道を安全に帰れるように、買ってもらったばかりの小さな懐中電灯を持たせてあげると、妹もすなおに感心する。ぼくは、ミネコをかわいいと感じ、クリスマスにあのコアラをあげようと思いつく。

55) フルートふいたのだあれ (絵・山中冬児) 教育画劇、1986 年

北風のせいでボールをなくし、アサコは、冬って嫌いと文句を言う。梅の花も咲くのをやめるくらい寒く、冬を心底嫌うが、家のカーテンを閉める仕事をしていると、小さな人の姿をした蛾が、冬の使者として現われ、冬の弁護を始める。銀色のフルートで美しい冬の音を奏でるのを聴き、色とりどりの蛾がカーテンを美しく飾る幻を見て、アサコは、もう冬の悪口を言うのはやめようと決める。

56) リカちゃんとおぼくのひみつ (絵・藤本四郎) 草炎社、1987 年

夏休み。初めて会ういとこのリカちゃんが一人で高原の町へやって来る。同じ2年生のシンゴは、賢い東京の子と比べられるのがおもしろくない。案内した北ボッチ山で、珍しいハルゼミをめぐってとうとうケンカになるが、逃げたセミがヒョドリに無残にも食われてしまうのを見て二人は呆然となる。シンゴは、この一件を秘密にしようと提案し、やっと仲間意識が芽生える。

57) ふしぎなねこはあんずいろ (絵・立木じゅん)

ひくまの出版、1987 年

担任の小谷先生が身の回りの古いものの起源を調べてレポートを書くよう指示。佐々木ミホは、貨物船の船長をしている関口のおじさんからもらったエジプト猫マウについて調べたいと思うが、「血統書つき」と言ったのを、そんな猫はいないと医者の娘で、美人で何をやっても一番の夏原ちはるに批判される。じつは、ミホの描く絵を見て自信をなくし、絵を習うのをやめたいとまで思い詰めていたのだった。ミホはちはるを元気づける一方、テレビに映った幻で、運命を恐れるツタンカーメンと妃の悲恋と、二人の墓に供えるため代々ヤグルマギクを探す雌猫タミトのことを学ぶ。マウはその子孫で、夕焼けのなかに姿を消す。

58) 海へいこ！ (絵・中村悦子) あかね書房、1988 年

2年生のなつよは、チビコロとあだ名がついている転校生のえつこのスリッパをスカートに入れてあげたお礼に、ウミホオズキをもらい、鳴らし方を教えてもらって友達になる。気仙沼の田んぼで発見されたアザラシをテレビのニュースで見て、よく似ていると思ったが、実際、えつこは水泳が得意だった。母の里方の海で、元海女の祖母から習ったという。その後、思い出の母の実家は、工場建設のため取り壊されてしまう。お父さんが会社の松風荘の予約をとったので、なつよは、落ち込むえつこを海に誘う。二人は手をつないで渚へ走る。

59) おとなりどうし赤信号 (絵・福田岩緒) 偕成社、1988 年

5年生のわたし(水原るいこ)は、お父さんのすてきな妹ユリコお婆さんの娘である泉ありさとピアノの発表会で連弾をすることに決めたが、この美人のいとは馬が合わない。祖父が残した土地に並んで立つ家ではプライバシーなどなく、学校でも嫌な思いをしている。ありさのパパがおみやげに買ってくれたお揃いの青いノートに「くさいなもの>〇〇〇という女の子」と書いたのを、ありさが自分の名を鉛筆で書き込んで机に置いているのを盗み見てしまい、余計に仲がこじれる。電車の故障で線路を一緒に歩いたとき、東京に来る前の故郷の話聞き、見つけたウツボグサを庭に植えて競うことになって、仲良くなれそうだったが、境界線をめぐり割り込んだありさの弟を泣かせたことから、関係はさらに陰悪となる。しかし、青いノートの書き込みを黙って消して、今回もありさに味方しなかったユリコお婆さんの大人の対応に、二人は学ぶ。仲直りして、連弾もうまくいさうだ。

60) ルミのひみつのいぬ (絵・笠原美子) 偕成社、1988 年

なかくんの残した給食の肉をこっそりポケットに入れて、帰宅途中、他人の家の庭にいる犬たちに食べさせるルミ。自宅マンションで犬を飼えないので、えさで手なずけて自分の犬にしているのだ。なかくんは、目の悪いルミを「めがねざる」とからかっていたが、「犬はめがねを見ても笑わない」と書いたルミの詩を読んで、からかうのをやめ、残飯をルミの机の中に入れてくれるようになる。(『人権・ねこ権』の出だしを再利用。)

61) あしたはいいな1ねんせい (絵・吉村明子) 金の星社、1988 年

一人っ子のななこは、両親と祖父母に入学を祝ってもらう。自分の部屋では、動物の縫いぐるみたちが1年生になるにあたっての心構えを演説し、お別れ会を開いてくれたが、ななこはこれからも一緒に寝ると言って安心させる。就寝後、おかあさんがのぞきに来る。

62) でもやっぱりいるさ (絵・吉村明子) 偕成社、1989 年

① そらいろのベビーカー

妹のみなちゃんが生まれ、みんなが夢中になるなか、たつみは、ベビーカーに愛犬のロンを乗せて家出する。ロンに勧められ、自身もベビーカーに乗ってみる——心配されて帰宅。いつしか赤ちゃんがかわいくなり、ロンがいなくなったことに責任を感じる。

② しましまのくつした

たつみは、5歳上の双子のいとこのお下がり喜んでもらっていたが、流行遅れの靴下を笑われ、もうはかないと部屋中にばらまく。夜、靴下が透明の電車に乗って思い出の国に去っていくと、たつみは別れを惜しむ。

③ でも、やっぱりいるさ

サンタクロースはいるか。ホームルームでもない派が主流だ。たつみ自身、正体がお父さんと知ってしまいショックを受けるが、信じているけんじとトモコのために自分がサンタになろうと決心する。大事に集めたテレホンカードから贈り物を選び、楽しい気分に入る。

63) あじさいの咲く家（絵・吉村明子）小峰書店、1989年

43歳になる落子は、執事だった水木から手紙をもらい、没落して跡形もない戸山家の当主・速人伯父の墓参に行く。6歳のとき母と一緒に大邸宅を訪れて初めて会った。2年生のとき一人で遊びに出かけ、酒造りと音楽室を見せてもらった。大地主のあとを継いだが、子供も仕事も理解者もなく、情熱を傾けた県議会議員選挙も落選。趣味のピアノとヴァイオリンを褒めたのは落子だけだった。乗馬中に崖から落ちて亡くなったとき、13歳の落子が葬式で位牌を持った。そしていま、伯父の好きだったあじさいを墓に供える。

64) それゆけヘディングシュート！（絵・吉村明子）金の星社、1990年

とうさんがコンピューター会社で過労死し、竹中一家は、東京からかあさんの故郷へ引っ越す。祖父母はなく、かあさんは村の小学校教師をして女手一つで育てようとするが、かまってもらえない幼いチエが病気になってしまう。そこで自宅を塾に改造しはじめるが、運悪く近所に東京から引っ越してきた清野家が立派な塾を開くことに。4年生のひろきは、人気者の転校生サチオに意地悪し、大いに苦悩する。事情を知るきくえがサチオにすべてを語り、サチオが家族と相談した結果、「清野塾竹中分室」という名案ですべて解決。校内サッカー大会では、ひろきとサチオが仲良く大活躍する。

65) おかしなかくれんぼ（絵・吉村明子）国土社、1991年

1年生になったななこは、弟の赤ちゃんができたが、寝てばかりでまだ一緒に遊べない。おなじみの縫いぐるみたちに、あんたたちには飽きあきしているのと言って、隠れてしまった彼らを部屋のあちこちから捜しだすはめになる。寂しいのはもうこりごり。ななこは、また縫いぐるみと寝て、弟をもっとかわいがろうと反省する。

66) やさしく川は流れて（絵・藤本四郎）ポプラ社、1992年

沢柳柊子を主人公にした作者の自伝的小説。沢柳信太郎の一家は、汽車で奈良から福島に引っ越す。造り酒屋を営む大地主の娘として、東京のキリスト教系の学校に遊学した経験のある母みゆきは、20歳で双子（長雄、広雄）を出産し、早江、柊雄、柊子と合せて5人の子がいる。姑のシズと夫の一番下の弟で中学生の亮と同居して、二人が東京に去るまで苦労する。夫が九州に単身赴任すると、郡山の永見台で父親不在の家を守る。広雄が学校で禁止されている映画館に入り浸るなどの問題が起こる。小学校に入学した柊子は、呉服屋の娘で美少女の百合子にあこがれる。彼女やきょうだいとの比較で、自分の容姿と学力が劣っていることを痛感する。柊子は長いこと乳離れができなかったお母さん子で、両親を亡くしたおヨネがカネお婆さんの養女になった経緯と二人の葛藤、川の事故で息子の太郎を亡くしたおスミさん（遺体に着せた白いさらしの着物は母みゆきが縫ったものだった）の悲しみに関心を持つ。父親の秋田転勤で一家の引っ越しが決まり、3部作の第1部は終わる。

67) あこちゃん、へいきだもん（絵・吉村明子）ポプラ社、1992年

1年生のあこちゃんは、3歳の妹せこちゃんと二段ベッドで寝ることになった。夜中にトイレに起こされたりして、おねえちゃんであることを意識するようになる。九州からママのおねえちゃんである「おばちゃま」が来ると、せこちゃんはべったりついてまわるが、夜になるとどうしてもママの元へ行ってしまう。ママに甘えたいあこちゃんはうらやましくなるが、おばちゃまも同じだったと聞いて、うれしくなる。

68) きらめいて川は流れる（絵・藤本四郎）ポプラ社、1993年

秋田で父信太郎が校長をする師範学校の付属小学校に転校した沢柳柊子は、井上カメオ先生に作文だけは才能を認められる。おじの亮は結核で死去。カネお婆さんの養女おヨネは、恐山で亡き実母と話ができず、継母をようやく受け入れる。双子の兄はライバルとなって猛勉強するが、まだ高校には合格できない。長雄は結核になってしまい自宅で療養を始める。学生がマルクスの読書会を開いていたことを知った信太郎は責任をとって辞任。一家は京都へ。体の弱い母みゆきが過労で倒れる。柊子は初めて陰湿ないじめを体験する。初めての男の担任の先生が対応してくれて一段落ついたとき、父は朝鮮総督府に転勤が決まり、沢柳一家は、異郷の京城へ引っ越すことになる。

69) **キュリー夫人** (絵・バラルディ) 小学館、1982 年新訂版オールカラー世界の伝記、1993 年

マーニャは姉よりも本が読めた。母は結核で死んだ。姉を医者にするために家庭教師として働き、1891 年自らもソルボンヌ大学に留学。名前をマリーに変え、物理学者ピエール・キュリーと結婚し、娘イレヌを生む。放射能とポロニウム (祖国ポーランドから) の命名者となる。1903 年に夫婦でノーベル物理学賞、夫の死後、ソルボンヌの教授になり、1911 年ノーベル化学賞を受賞。1934 年、放射能のせいで白血病にかかり死去。

70) **あなたの光は大地をてらし** (絵・吉村明子) 草炎社、1993 年

カイロの大学で客員教授をしているパパからアサコに手紙が届く。「そよ風のまつり」で会った古代エジプト人の血を引く姉妹に糸まりをプレゼントし、そのお礼にもらったというスカラベの指輪を送ってきた。青山に住む光田さんに調べてもらうよう書いてあった。アサコはバスに乗るが、気づくとエジプト。アメン (人間が造った、羊の頭を持つ神とパパから教わった) を退け、太陽アトンを信仰して平和主義を広めようとしているイクナトン王を暗殺せよと、アメン大神官の妻から命じられる。王妃として式典中に毒液を飲ませろというのだが、先にアトンの珠を砕き、毒入りブドウ酒をわざと落とさせる。スカラベの指輪の魔法で脱出したアサコは、太陽の光の中へ消える王を目撃し、これでよかったのだと思う。元の世界に戻ると、指輪の力はわかったので家に帰る。

71) **そして今日も川は流れる** (絵・藤本四郎) ポプラ社、1996 年
沢柳信太郎が総督府学務局で働くため、一家は朝鮮へ。

京城第一高女に合格した柊子は、新任の泉悠史先生を好きになり、朝鮮人の日常を観察した作文を褒められる。ヤンバンの家柄の金達英と崔螢玉とも友達になるが、新聞を見て急に怒りだすお手伝いや神社参拝に反抗する男子学生を見て、朝鮮人の不満を肌で感じとる。母みゆきは偏見がなくキムチづくりにも出かけたが、なついていたテイちゃんも独立運動にかかわって姿を消す。長兄の長雄は東京の大学へ。広雄はきょうだいの学費を助けるために、京都の染物屋の婿養子になると言います。早江は、母が遊学した私学の流れをくむ東京の女学校へ進学。母みゆきは 43 歳の若さであっけなく死んでしまう。柊雄は、遊郭の息子ヒロシから教えられたレコードをかけて柊子とその死を悼む。柊雄は、ヒロシと京城大学で朝鮮の真の歴史を調べたいと言う。父も植民地統治に矛盾を感じ、東京で新たな仕事に就く決心をする。親友のすが子が胸を病んで亡くなる。美人であこがれていたもう一人の友・彩子には母を亡くした悲しみはわかるまいと思っていたが、留守宅を訪れ、お手伝いから、母親が脳の発作で入院していることを聞く。泉先生は北鮮へ転任。身ごもったクラスメートの吉川あぐりが後を追う。神社で安産のお守りを買ったという達英と螢玉と一緒に、柊子は漢江を眺め、先生の妻になるあぐりの幸せを祈る。

72) **はるのてがみはなにいろ?** (絵・二俣英五郎) 教育画劇、2002 年

入海の底で春を待ちわびる鯛のぼうや。かあさん鯛という「春の手紙」とは、滝から雪解け水と共に流れる椿の花のことだった。ついに春が来て、ぼうやは、かあさんに励まされつつ外海をめざすが、桃色の滝を見にまた戻ってきたいと願う。「どうぞ、それが かなえられますように!」

A Guide to the Works of Haruko Shogenji, One of Japan's Leading Authors of Children's Books

Koichi YOKOYAMA

This paper is a complete guide to the 72 books written by Haruko Shogenji (1914-2015), one of Japan's leading authors of children's books. According to the trilogy of her autobiographical novels, she spent most of her childhood in the Tohoku region, and then, due to her father's job transfer, her family moved to Kyoto, where she was bullied by her classmates, which was to turn into several novels, then they went to Korea under Japan's colonial rule, where she felt uncomfortable, thinking it wrong to live happily in the foreign land. Experiencing the misery of World War II, Shogenji wrote, in her early career, about a girl who felt miserable with her family members staying at their relative's home, always hungry during the war, and about a boy who lost his parents in an air raid, suffering a lot to live on his own. Some idealism after the war seems to have permeated all her works. Haruko Shogenji was good at describing the sensitive workings of children's mind; their happiness as well as their sorrow. She wrote not only realistic fiction but also fantasy, for example, about ancient Egyptians she was very interested in.

Helbling Young Readersと e-future Graded Comic Readers ——グレイディッド・リーダーの新しい形——

横山 孝一*

(2016年11月24日受理)

はじめに

独創的な英語絵本を揃えたヘルブリング・ヤング・リーダーズ〈フィクション〉と、ジャックとベラを主人公とするマンガ形式の e-フューチャー・グレイディッド・コミック・リーダーズ (*Magic Adventures* と *School Adventures*) の概要と各本のあらすじを紹介しよう。英語学習者向けに名作のリライトを主としていたグレイディッド・リーダーが進化して、単なる英語教材から、娯楽用の絵本・マンガとして価値を持ちつつある。おもしろい本を英語で読みたい人・聴きたい人に、役に立つ情報を提供したい。

1. Helbling Young Readers (2014)

ヘルブリング・ヤング・リーダーズ〈フィクション〉は、レベル a から e の 5 段階 24 冊からなる初級者向けのグレイディッド・リーダーだ。イソップによるおなじみの寓話「ウサギとカメ」(⑤ 以下、整理番号を記す)、怪物ミノタウロスを退治する英雄テセウスを主人公とするギリシャ神話(⑩)、ディズニーのアニメ映画で有名なヨーロッパの伝説「美女と野獣」(⑫)などが Retold と断って 5 冊まじっているが、他は書き下ろしの読み物である。既成の物語のほうがプロットと人物像がしっかりしているので、グレイディッド・リーダーで好まれるのは周知のとおりだ。ケンブリッジ英語リーダーズ(本誌第 31 号参照)を例外として、大概の出版社が、よく知られる名作・伝説のリライトと、あまり知られていない作家によるオリジナル作品の二本立てで、グレイディッド・リーダーのシリーズを出している。その意味で、ヘルブリング・ヤング・リーダーズはごく普通の編集方針といえよう。

頁数と使用語彙が極端に制限されたフルカラーの絵本なので、フィクションといっても、おもしろい物語に

まではなかなか発展しにくい。ヒマワリを都会で育てる少年(⑬)やザトウクジラの子を救出する少年(⑮)の話は実話を思わせる単純さだ。風揚げをきっかけに子供同士が仲良くなり仲の悪い親同士を引き合わせようとする *The Kite* (⑥)などは、たわいない話である。動物を安易に擬人化した作品(⑨⑬)も物語としては物足りない。*Moony Goes on Holiday* (⑰)は Mario Onnis の挿絵の奇抜さが目を引くが、月で独り暮らすムーニーの設定はナンセンスで、地球の騒々しさにうんざりして月に帰るオチはひねりが無い。ファンタジーでは、魚が空を飛び、ネズミが猫を追いかける *Upside Down* (⑳)の出だしがポール・ジェニングスを髣髴させて、なかなか刺激的だが、家にある本の逆さになった文字を入れ替えると元の世界に戻る結末が急すぎて納得がいかない。

しかし絵本と考えれば、このような欠点を補って、どれもそれなりに楽しめる。日頃寝てばかりの飼い猫が、家に忍びこんだ泥棒を、毛糸を張り巡らせてとっ捕まえる *Fat Cat's Busy Day* (⑱)などは、単純な物語が、Lorenzo Sabbatini のユーモラスな挿絵で引き立っている。挿絵画家たちはそれぞれ個性を生かし、眺めて楽しい本になるよう尽力している。中には、コラボレーションが成功して、読み応えと見応えを併せ持った本もある。家族で海水浴に出かけた少女と、難民船で家族と新天地にたどり着いた異国の少女の出会いで終わる Rick Sampedro の物語 *The Beach* (③)は、Agilulfo Russo の淡い水彩画とよくマッチして洗練された 1 冊に仕上がっている。*The Sun is Broken* (⑭)の挿絵を担当した Catty Flores は、亡き祖母と電話で話す 7 歳の女の子の旺盛な想像力そのものを絵にすることに成功している。母を亡くした幼い娘が奇抜な理由で父親をパパ専門店で売りとばすと言いつつ *Dad for Sale* (⑦)は、Enrique Martinez が大胆にデフォルメした絵で奇抜な物語を奇抜に表現している。

英語教材なので、絵をふんだんに取り入れた練習問題

や、ネイティブスピーカーの子供たちが独特なリズムでリピートさせる「チャント」などいろいろな工夫が見られるが、物語作家と挿絵画家はあくまでも、読者をあつと言わせる「作品」を完成させることに傾注しているようだ。そう感じさせる最高の2冊を紹介しておこう。*Henry Harris Hates Haïches* (16) は題名からして凝っている。H で頭韻を踏んでいるが、主人公ヘンリー・ハリスはHを発音することができず、エイチ恐怖症にかかっていたが、ある出来事をきっかけに、親友の名前をアリーではなくちゃんとハリーと呼べるようになる。風変わりな設定とさわやかな結末は、本シリーズ中、出色の出来栄えだ。グレイディッド・リーダーを読む楽しみは、単なる英語学習を越えて、こうした一般に知られていない作品を発見することにある。グレイディッド・リーダー作家の旺盛な創作意欲は、Language Learner Literature Award がきちんと評価している。グレイディッド・リーダーも、関係者の間では「文学」と認知されているのだ。ヘルブリングのシリーズ中、Maria Cleary が書いた *Skater Boy* (15) がこの荣誉ある文学賞を受賞している。子供たちを魅了する謎のスケボー少年が主人公。彼は街で最速を誇り、通りを猛スピードで駆け抜け、母親たちが危険視している。ところが、ある日、公園のジャングルジムから赤ちゃんが落ちたとき、われらがヒーローはどこからともなく現われて、スケボーに乗ったまま両手で赤ちゃんを受けとめる。スケボー少年を崇拜して日頃公園でまねていた子供たちは喝采し、母親たちは初めて信頼の目を向けるが、サングラスをかけた少年の正体は謎のままだ。作者の Cleary は絵本であることを意識して文章を短く切りつめ、Lorenzo Sabbatini の挿絵を最大限に利用した。魅力的ヒーロー像は、結末の忘れがたい絵とともに完成している。

以下は、ヘルブリング・ヤング・リーダーズ〈フィクション〉レベル a から e の5段階全24冊の要約である。好きな絵から読みたい本を選んでもいいが、あらずじで好みの作品を探すのもいいだろう。どの本にもCDがつき、音声からも物語を楽しむことができる。

LEVEL a

- ① *The Big Wave* (Stefanella Ebhardt, Illustrated by Anna Crema)

パットは金魚のアーミーを連れて海へ行く。大波にさらわれたアーミーは水中でたくさんの魚を見て喜ぶが、大波に乗って、海より好きなパットの元へ戻ってくる。

- ② *Can I Play?* (Rick Sampedro, Illustrated by Valentina Mai)

ビリーは入学して初めての休み時間に「一緒に遊ぼう」と声をかけるが、英語がことごとく通じない。泣けてきたとき、ロレンゾがようやく英語で誘ってくれた。

- ③ *The Beach* (Rick Sampedro, Illustrated by Agilulfo Russo)

きれいに晴れた日に、アンナは家族と海水浴へ出かける。一方、ニーナは難民の船で岸をめざしている。船がたどり着いたとき、アンナとニーナは友として出会う。

- ④ *The Big Fire* (Rick Sampedro, Illustrated by Giacomo Moresi)

動物たちが幸せに暮らすジャングルで火災が発生。小さな青い鳥がたった一羽、くちばしで水を運ぶ。やがてフラミンゴやゾウたちが手伝い、火を消し止める。

- ⑤ *The Hare and the Tortoise* (Retold by Richard Northcott, Illustrated by Estella Guerrera)

ウサギに「遅い」と言われたカメが競走を申し出て、スタート。余裕のウサギはニンジンを食べ、木の下で休み、気がつくと、カメがゴール。遅くても勝者になれる。

LEVEL b

- ⑥ *The Kite* (Rick Sampedro, Illustrated by Stefano Misesti)

フェンスを境にいがみ合う隣人。子供はどちらも風揚げが大好きで、庭に落ちた赤い凧を拾って返したことで仲良しに。大会を開いて、父親同士も仲良くさせる。

- ⑦ *Dad for Sale* (Andrés Pi Andreu, Illustrated by Enrique Martinez)

娘が父に、友達のロージーのように自由にさせてくれないから、父親を販売する店に売りに出すと言い放つ。売れるよう宣伝文句を考えて、結局は自分が買うと言う。

- ⑧ *The Leopard and the Monkey* (Retold by Richard Northcott, Illustrated by Cristiano Lissoni)

井戸から助けてくれた子ザルを食おうとするヒョウ。通りかかったカメの機転で、救出を再現するよう仕向け、ヒョウは自ら井戸の中に戻る。

- ⑨ *A Christmas Present for Barney Bunny* (Maria Cleary, Illustrated by Lorenzo Sabbatini)

クリスマスイブ、外で遊ぶウサギの子供たち。様々な遊びをするが、バーニーはどれも苦手。かくれんぼでは納屋で怖い思いをし、翌朝に懐中電灯を贈られる。

LEVEL c

- ⑩ *The Thirsty Tree* (Adrian N. Bravi, Illustrated by Valentina Russello)

夏の日差しで乾ききった木が Cloudbreak に助けを求める。小鳥は、風に雨雲を運んでもらい、鋭いくちばしでいくつも穴をあけて雨を降らせ、木に緑に戻る。

- ⑪ *Freddy the Frog Prince* (Maria Cleary, Illustrated by Agilulfo Russo)

カエルのフレディは、舞踏会で踊る相手のいない王女にさらわれる。愛するフランチェスカに助けられ、親になると、子供たちに、王女には気をつけろと教える。

- ⑫ *The Fisherman and his Wife* (Retold by Richard Northcott, Illustrated by Andrea Alemanno)

漁師が一度逃がした魔法の魚に、欲深い妻が、立派な家・城・女王の座をつぎつぎに要求。それでも満足できず、太陽と月の支配を求め、魚はついに愛想を尽かす。

- ⑬ *Sam and the Sunflower Seeds* (Maria Cleary, Illustrated by Lorenzo Sabbatini)

おじいさんの農場で大好きなヒマワリの種をもらったサムは都会の自宅で育てようとするが、うまくいかない。日光が必要だと教わり、ヒマワリは大きく成長する。

- ⑭ *The Sun is Broken* (Andrés Pi Andreu, Illustrated by Catty Flores)

7歳の誕生日を迎えた女の子は想像力が豊かで、亡き祖母が「ハッピー・バースデー」と電話をくれたと信じ、日没時の太陽も「壊れて半分が海に落ちた」と表現する。

LEVEL d

- ⑮ *Skater Boy* (Maria Cleary, Illustrated by Lorenzo Sabbatini)

街をスケートボードで駆け抜けてゆく謎の少年。子供たちはあこがれ、母親たちは危険視していたが、颯爽と現われ、遊具から落ちた赤ちゃんを救い信頼を得る。

- ⑯ *Henry Harris Hates Hatches* (Maria Cleary, Illustrated by Lorenzo Sabbatini)

ヘンリーはHを発音できずからかわれていたが、穴に落ちた親友のハリー（「アリー」と呼ぶ）を必死に助け出し、「ハリー」と言えるようになって大喜びする。

- ⑰ *Moony Goes on Holiday* (Dilys Ross, Illustrated

by Mario Onnis)

月で独り暮らすムーニーは退屈し、やって来た宇宙船に乗ってあこがれの地球へ。しかし、お金がなく食事もできず、騒々しい都会に嫌気がさし、静かな月に帰る。

- ⑱ *Theseus and the Minotaur* (Retold by Richard Northcott, Illustrated by Stefano Misesti)

クレタ島のミノス王は、迷宮で飼うミノタウロスへの生贄を要求。テセウスは、ミノス王の娘アリアドネに助けられ、剣で怪物を退治し、糸をたどって生還する。

- ⑲ *Fat Cat's Busy Day* (Maria Cleary, Illustrated by Lorenzo Sabbatini)

朝、家族が慌ただしく出かけていく間も、ゆっくり寝ていた飼い猫が、家に泥棒が入ってくるのを見て大活躍。編み物用の毛糸を使って、みごと、泥棒を捕まえる。

LEVEL e

- ⑳ *Lola in the Land of Fire* (Rick Sampedro, Illustrated by Catia Girolametti)

マゼランが南米南端の島をティエラデルフエゴ（火の土地）と呼んだ由来を、南極大陸の近くにある故郷から単身、学びに来ていた少女ローラの視点で描く。

- ㉑ *Lost on the Coast* (Rick & Steve Sampedro, Illustrated by Cristiano Lissoni)

ザトウクジラの子が石油流失事故で母親とはぐれ岸辺に打ち上げられる。人々は物珍しそうに見物していたが、クジラに詳しい12歳の少年が指揮をとり、海に帰す。

- ㉒ *Beauty and the Beast* (Retold by Richard Northcott, Illustrated by Catty Flores)

父が庭のバラを勝手にとったために、娘のビューティは城で野獣と暮らすはめになる。父の病気で実家に帰って愛に気づき、王子の姿に戻った野獣から求婚される。

- ㉓ *Food for the Winter* (Rick Sampedro, Illustrated by Estella Guerrero)

異常気象の森で、シマリスのチップー一家は木の実を独占するが、落ちた枝の下敷きになったわが子を助けてもらい、やせこけた同胞たちに食糧を分け与える。

- ㉔ *Upside Down* (Rick Sampedro, Illustrated by Cristiano Lissoni)

ハッピータウンを異変が襲う。魚が空を飛び、ネズミが猫を追い、老人が宙返りする。ケイトとチャーリーは

本の逆さになった文字を直して、正常な世界に戻す。

2. e-future Graded Comic Readers

韓国の出版社が「自信を持って提供する (proudly present)」このグレイディッド・リーダーのシリーズは、楽しいファンタジーの続き物という点で、オックスフォード・リーディング・ツリー (本誌第 30 号参照) と似ているが、ただの絵本ではなく、子供が喜ぶ読みやすいコミック形式を取っているところに特色がある。登場人物は英語を母語としてしゃべる白人の子供だが、日本のマンガの影響も顕著で、豊かな目の表情などはわが国でおなじみのものだ。英語を学びたい子供にとっては、挿絵入りの普通のグレイディッド・リーダーや絵本のグレイディッド・リーダーよりも、はるかに親しみやすいにちがいない。Jason Wilburn と Casey Kim の合作である物語は、最初のシリーズ *Magic Adventures* の場合、娯楽そのものといえる。

第 1 部 Jack's World では、転校してきたオリビアが魔女を思わせる帽子をかぶっていることから、意地悪な男子 3 人組のいじめの標的になる。ジャックは正義感からオリビアに味方する。仲をうわさされて一時避けたりするが、隣の家に引っ越してきたと知り、関わらざるを得なくなる。か弱いオリビアを助ける「学園もの」かと思わせて、“Bad Frogs” (④) で急展開し、オリビアが実際に魔法を使い、本物の魔女であることを明かす。蛙に変えられたことに懲りて、少年たちのいじめはあっさりやむ。ジャックが住む現実世界の物語は、オリビアが魔法の国から来たと告白したことで、ファンタジーへと切り替わるのである。

こうして、第 2 部は *Magic Land* の題名のとおり、別世界であるオリビアの故郷が舞台となる。冒頭、オリビアが行方不明になり、ジャックは、彼女の家の中にできた空間の裂け目から魔法の国へ移動する。(読者はわくわくするはずだ。) しかも、妹のベラが化物にさらわれてしまい、同行する愛犬のエースが魔法の薬を飲んでしゃべりだす。(あとで、エースとオリビアの意外な関係が明かされる。) ジャックは、洞窟で水晶を掘らされている妹を助けたあと、牢獄に閉じ込められていたオリビアを救出し、彼女が魔法の国の王女であることを知る。王国を乗っ取るつもりでいる魔法使いダークと対峙するが、ダークは、強力な魔力を秘める水晶を持って地球へ逃げ去ってしまう。

第 3 部は、ジャックたちが元の世界、地球に戻るところから始まる。ところが、家の明かりが点灯せず、空は暗く、すでにダークの闇の力が及び始めている。パリのエッフェル塔で対決するも、ダークの水晶が砕け散り、

その破片が人々の体内に入り込んで、邪悪な環境破壊へと駆り立てる。(このあたりの設定が現代にマッチしてユニークだ。) アフリカや南極に出かけて行って水晶のかけらを回収するエピソードは、環境問題における個人の良心を扱い、それぞれ興味深く読める。心の葛藤の末、良心が勝つと、水晶の破片は自然と体外へ排出される。これは、アニメに近いフルカラーのマンガ絵で描かれる。最終巻の “Olivia's Big Fight” では、ダークとオリビアの魔法対決となり、そこへジャックとベラが加勢して大団円となる。英語の教材であることを忘れて、純粋なファンタジー・マンガとして堪能することができよう。

もちろん、英語教材としても優れている。この *Magic Adventures* に付属する CD には、マンガの全文が録音してある。各キャラクターを担当する声優たちが吹きだしのせりふをしゃべる。ナレーションがないため音声だけだと展開がわかりにくいだが、絵を見ながら聴けば、アニメを見ているような気分になれる。グレイディッド・リーダーの CD として特に優れているのは、全文を聴いたあと、感情のこもったセリフをもう一度順番に流し、それを別のネイティブスピーカーが話し方まで完全にまねてみせるのを聴いて、リピート練習できるところだ。最終的には、マンガ全部を学習者が声に出して演じるようにつくられている。魔法がらみの英語表現は実社会で直接役立つことはなさそうだが、英会話のリズムはしっかり身につくそう。

この *Magic Adventures* と比べると、夏休みキャンプで集団生活を営む、次のレベルの *School Adventures* 第 1 部 Camp Days は、明らかに娯楽の要素が減り、学習を前面に押し出した内容になっている。これは、CD 冒頭に収録された主題歌の歌詞にも読みとれる。前作では、ジャックとベラの協力を得て戦う魔法使いのオリビアを歌っていたが、新しい主題歌は、ジャックとベラの助けで英語の勉強を根気よく続けていこうと学習者を励ます歌に代わっている。主人公は魔法の世界で活躍したジャックとベラで、キャンプ地に車で送る両親も同じだが、魔法の要素は完全に排除されていて、あたかも英語教材のガイド役として再登場させた感がある。ここでは、ジャックの父親は *Magic Adventures* で南極まで一瞬で飛ぶポップアップをつくった発明家にはとても見えないし、冒険を楽しんだ兄妹のヒーロー的性格もすっかり薄れてしまったように感じられる。教材としても、CD の感情のこもったセリフをまねる練習は、長すぎるからだろうか、残念なことに廃止されている。3 週間のキャンプ生活の第 1 日を描く “Arriving at Camp” で、前シリーズと比べてつまらなくなったりと感じずにはいられないが、原作者もマンガ家も同じである。読み進めていくと、まるで自分が夏休みをキャンプ地で過ごしているかのよう

な追体験的物語であることがわかる。集団生活で学ぶ思いやりや協調性は教訓的で鼻につくところもあるが、芽生えた友情と別れは、子供時代の思い出として新鮮な感動がある。したがって、Camp Days は現実世界を扱った独立した物語として読むことをお勧めしたい。

School Adventures の第2部 Storybook Mysteries は、再びファンタジーとなり、面食らう。ダークは魔法の国で刑務所送りになったはずだが、児童文学全集のセールスマンとして再登場する。無料の見本をジャックの家に持ち込み、名作の世界にジャックとベラを引きずり込んで魔法の水晶のかけらを二人から取り戻そうというのだ。第1部 Camp Days を読んだあとでは、二人がそんなものを持っているとは思えないが、*Magic Adventures* のパロディとして楽しめる。『ピーター・パン』『不思議の国のアリス』『80 日間世界一周』『オズの魔法使い』『タイムマシン』『ロビン・フッド』の登場人物をジャックとベラに演じさせて語り直すアイデアに、e-フューチャー・グレイディッド・コミック・リーダーズの独創性と斬新さを感じる。これらの名作は、他の出版社が好んでグレイディッド・リーダーにしてきた題材である。しかし、テレビゲームばかりしているジャックが読書を毛嫌いして母親に言われて嫌々本を開くように、現代の子供たちは、昔に書かれた童話などなかなか読もうとしないのだろう。そんな現実を踏まえながら、e-future はマンガという手段を使ったわけだ。*Magic Adventures* でおなじみになったジャックとベラが活躍するとなれば、古典的物語にも親しみがわくにちがいない。ジャック版ピーターパンや、ベラ扮するアリスとドロシーは適役で、感情移入しやすい。元の名作だけでなく、水晶のかけらを狙うダークとの戦いというファンタジーも外枠で楽しめる。『タイムマシン』でベラを残したまま現実の世界に戻ってしまったジャックは、『タイムマシン』の主人公のウィーナへの思いと呼応しながら、次の本を読みたくさせるサスペンス効果を發揮している。Storybook Mysteries の締め括りとなる『ロビン・フッド』の最終話はとりわけ秀逸で、まだ子供のジャックとベラが物語中の恋愛劇にぞっとするところが大いに笑える。(こういうところは大人の読者のほうが楽しめるかもしれない。) ベラの性格を熟知する読者は、彼女のおもしろい反応を予測できる。ロビン・フッドに愛されるマリアン役にうろたえ、とまどい、最後は、「どうせ物語にすぎない」とドライに割り切る様子は、表情豊かなマンガ絵に多くを負っている。この明快さは、グレイディッド・コミック・リーダーズの最大の利点といえよう。

以下は、e-フューチャー・グレイディッド・コミック・リーダーズの *Magic Adventures* 18 冊と *School Adventures* 12 冊の各本のあらすじである。

Magic Adventures (Jason Wilburn & Casey Kim, Illustrated by Jaehwan Jung, 2012)

Beginner Level 1 Jack's World

① A New Girl in School

オリビアという女の子が転校してきた。魔女のような帽子を男子3人組がからかう。抗議したジャックは仲を噂され無関心を装うが、彼女は隣の家に越してきた。

② Olivia and the Bad Boys

ジャックはオリビアに会わないように登校。3人組のいじめはつづく。ジャックは関わらずに逃げてばかりだが、妹のベラはオリビアの友達になっていた。

③ Jack's Date

母に命じられて、ジャックはオリビアを街に案内する。3人組の姿をあちこちで見かけ、その度に隠れる。オリビアはアイスクリームを食べ、本屋にも行けて満足する。

④ Bad Frogs

一緒に帰る二人を3人組がじゃまする。ジャックが押し飛ばされ、オリビアは魔法の薬を使う。魔女だったのだ。蛙に変えられた3人は、元に戻ると態度を改める。

⑤ Bella's Big Day

3人組はオリビアにおべっかを使いキャンディーを差し出す。ベラの誕生会に呼ばれたオリビアは、ジャックの父が発明した不完全なピザ製造機を魔法で助ける。

⑥ A Trip to the Lake

ジャック一家と車で湖へ出かけたオリビアは、ホームシックになり、涙を流す。ジャックとベラは、キャンプファイアでオリビアを元気づける。

Beginner Level 2 Magic Land

① Olivia is Gone!

学校を休んだオリビア宅へ。反応の鈍い両親はダミーだった。彼女は行方不明。寝室の空間にできた穴へ犬のエースとベラが消え、ジャックは決心してあとを追う。

② Where is Bella?

オリビアの故郷である魔法の国に来た。おもちゃの住民が暮らし、犬のエースは言葉をしゃべり出す。空飛ぶ化物にベラをさらわれ、ジャックは愛犬と救出に向かう。

③ Jack and the Red Lion

ジャックとエースはおもちゃの車に案内され、腹をすかせた赤いライオンのなぞなぞ（まちがえると食われる）に無事答え、洞窟で働かされていたベラを救出する。

④ The Jail of Magic

影の化物を従えるダークを懐中電灯で退散させ、おもちゃの兵隊を連れて、魔法の牢獄へ。数字を並べ替えるパズルを解き、閉じ込められていたオリビアを助け出す。

⑤ The Story of Dark

オリビアは王女だった。エースの正体はヴァンス先生。水晶で影の化物をつくって王座を狙うダークの陰謀を知り、犬の姿でジャックの住む世界に飛ばされたという。

⑥ The Crystal of Power

影の山に登り、熊犬を魔法で追い払ったオリビアは、囚われていた両親を解放。強力な水晶を奪ったダークは、おもちゃの兵隊を前に地球へ逃亡する。

Beginner Level 3 Dark's Hearts

① Dark of the Earth

オリビア、ジャック、ベラ、犬のエースは、ダークを追って地球の家に帰る。部屋の明かりがつかず、黒い雲が空を覆う。出現した影の化物を懐中電灯で退散させる。エースは魔法が切れ、もうしゃべれない。

② Dark in the City of Lights

ニュース速報で、パリも光を失いつつあることを知り、パパの発明したポップアップに乗って瞬間移動。エッフェル塔で暗雲を呼ぶダークを阻止。水晶が砕け散る。

③ The Dark Woods

美しい湖で一息入れるつもりが、リサイクルセンターの男が大量のごみを捨てて環境を破壊しようとする。水晶のかけらのせいだ。涙で流れでると、正気に返る。

④ Dark's Africa

水晶のかけらを求めてポップアップで次に飛んだ場所はアフリカ。国立公園管理人のベムが良心を失い密猟を行っていたが、愛猫の助けで体外へかけらを排出。

⑤ Dark Ice

ポップアップで着いた先は北極。普段着で来てしまい、ロシア人に助けられる。研究センターの科学者がダイナマイトで氷を破壊。彼から最後のかけらを回収する。

⑥ Olivia's Big Fight

かけらが揃い、その水晶の中にダークがいることがわかるが、魔法の国に戻ってすぐ、影の化物に奪われる。洞窟に行くと、中身が空になったかけらが残されていた。ダークはオリビアの寝室に現われ、闇と光の魔法対決。ジャックとベラが加勢し、シーツをかぶせてダークを捕獲。駆けつけた父王が魔法で牢獄送りにする。兄妹は、「ポップアップでいつでも遊びに来れる」と、魔法の国で魔法の勉強をするというオリビアに別れを告げる。

School Adventures (Jason Wilburn & Casey Kim, Illustrated by Jaehwan Jung, 2014)

Level 1 Camp Days

① Arriving at Camp

夏休み、ジャックとベラが両親に送られて、3週間を過ごすことになるキャンプ場にやって来る。最初は気乗りしなかったが、友人ができ予定を知り、楽しみになる。

② Unhappy Camper

カウボーイの衣装で初めての乗馬に張りきるジャックは、いじめっ子のクリスから嫌がらせを受ける。友人の励ましと指導員の助言で、堂々といじめをはね返す。

③ Bella's Big Fear

ベラは馬に乗ったことがなく、落馬でけがすることを恐れていた。悪夢にうなされるほどだったが、指導員のサニーのおかげで恐怖を克服する。

④ Jack the Paddle Ace

カヤックのレースで1位になったジャックは、下手なデニスと組まされ、次は最下位になるが、協力する大切さを学び、勝ったクリスも自慢できなくなる。

⑤ Bella the Sore Loser

400メートル走で転んだベラはマイアに負けたことを認めず、負け惜しみを言う。指導員に諭され、謝罪して仲よく一緒に練習に励み、次は最高の気分で2着になる。

⑥ Summer's End

3週間のキャンプが終わる。ジャックは、お掃除コンテストで逃したTシャツを友人たちのおかげでゲット。キャンプファイアで今夏の体験を噛みしめ、再会を約束して、家族のもとへ帰る。

Level 2 Storybook Mysteries

① Jack Pan

ダークがセールスマンになって名作全集の見本を置いていく。以前ほどの魔力はないが、罌を張って水晶を取り戻そうと企んでいた。本が嫌いなジャックは母に勧められ、嫌々『ピーター・パン』を開くと、自分が主人公になっている。自由に空を飛び、妖精のティンカーベルの魔法で飛べるようになったウェンディらを引き連れてネバーランドへ。ダークが海賊のフックになって敵対するが、原作のとおりピーター・パンには勝てない。

② Bella in Wonderland

ベラはママのお気に入りの1冊という『不思議の国のアリス』を開き、本の中へ。白兎を追って穴に落ちて、アリスの夢想的冒険を追体験。ダークが化けたトランプの女王ならぬ王様に裁判にかけられるが、魔法のマッシュルームで巨大化し、原作どおり姉の元で目を覚まし、そこから家に戻ってくる。

③ Jack's 80 Days

ジャックは父のお気に入りの本『80日間世界一周』を読みはじめ、1872年の世界へ。飛行機の発明以前で、「80日で世界を一周する」と賭けをしたフィリアス・フォッグの召使パスパトゥーとして慌ただしい旅行に同行。ダークはフォッグを銀行強盗と勘違いして追う刑事役で登場し、ジャックが首から下げる水晶のかけらを奪うが、嫌疑が晴れたフォッグに殴り倒される。ジャックは水晶を取り戻し、時差のオチで賭けに勝つ主人を見届けずに、元の世界へ戻る。

④ Bella and the Wonderful Wizard

『オズの魔法使い』を読みはじめたベラは、(ハリウッドのミュージカル映画と同じく「白黒」で描かれる)カンザスへ。家ごと竜巻に飛ばされて「カラー」の美しいマンチキンの村に来る。カンザスに帰るため、脳みそが欲しいかかし、心が欲しいブリキの木こり、勇気が欲しい臆病ライオンと、エメラルドの都に住むオズの魔法使いに助けを求めに行く。ダークが化けたオズの魔法使いは、交換条件として、西の悪い魔女を退治するよう命じる。この魔女は、空から落ちてきたドロシーの家の下敷きになって死んだ妹(東の悪い魔女)の敵としてベラ演じるドロシーを恨んでいた。ところが、かかしに火をつけたのが失敗だった。ベラが助けるためにかけたバケツの水を浴びて、魔女はあっけなく溶けてしまう。オズに化けたダークは、ドロシーの仲間たちに「願っているものはすでに持っているだろ」と言葉で納得させ、故郷

に帰す気球の修理に必要だと、ベラの水晶を取り上げる。飛び立つとき、犬のトトが水晶を取り返し、ベラは一緒に地上に逃れる。ベラは東の魔女の銀の靴の力で、元の世界へ戻る。兄のジャックと「もうおかしな本はこりこり」と話すが、教育熱心なママがむりやり二人に『タイムマシン』を読ませようとする。

⑤ Jack's Time Machine

母親が監視する中、仕方なく『タイムマシン』を読みはじめたジャックとベラは、本の中へ消える。主人公になったジャックは、発明したタイムマシンで未来へ飛ぶ。地上には元金持ちがひ弱なエロイとして、地下には労働者の末裔が凶暴なモーロックとして生活していた。モーロックはエロイを食料として食う。ジャックはエロイの少女になったベラを助けるが、モーロックの首領になって待っていたダークが、タイムマシンで逃げるときに、水晶を首からぶら下げたベラを力づくで捕まえてしまう。ジャックのみが元の世界に帰り、母も心配する。

⑥ Jack and Robin Hood

ベラを救うため『タイムマシン』の頁を開こうとするが、一度読んだ本はどれも閉じたまま。唯一開いた『ロビン・フッド』の本に吸い込まれ、ジャックはリトル・ジョンとして、貧しい人々を助ける主人公に同行。ベラは、ロビン・フッドが愛するマリアンになっていた。弓矢コンテストの優勝者への賞品として、ダーク演じる悪いジョン王子の罠に利用されたが、優勝して捕まってしまったロビン・フッドと兄ジャックを助ける。ダークはやっと手に入れた2つの水晶のかけらをロビン・フッドに奪われてしまい、本の選択を誤ったことに気づく。兄妹は元の世界に戻り、母親は泣いて喜ぶ。本はもうこりこり。家族で公園へ出かける。綿あめ売りに身をやつたダークがジャックとベラに気づき、「いつかきっと水晶を手に入れてやる」と誓う。

おわりに

子供たちが英語を国際語として半ば強制的に勉強させられている今、TOEICに象徴される英語学習は、試験のための勉強と化した感がある。外国語を学ぶことは苦行であるよりも娯楽であるほうが望ましい。子供時代、そして学校を卒業した後も、末長く学び続けていきたい。教材が堅苦しい教科書でなく、絵本やマンガであれば、英語ともっと気楽につき合えるだろう。英語を身近なものにしてくれる最適の「娯楽本」として、ヘルブリング・ヤング・リーダーズと、e-フューチャー・グレイディッド・コミック・リーダーズをお勧めする。

Helbling Young Readers and e-future Graded Comic Readers: New Forms of Graded Readers

Koichi YOKOYAMA

This is an introduction to two unique kinds of graded readers: Helbling Young Readers Fiction (2014), and e-future Graded Comic Readers' Jack and Bella series consisting of *Magic Adventures* (2012) and *School Adventures* (2014).

The former, published in London, UK, are beautifully illustrated picture books such as *The Beach* (written by Rick Sampedro and illustrated by Agilulfo Russo), *The Sun is Broken* (written by Andrés Pi Andreu and illustrated by Catty Flores), and *Henry Harris Hates Haitches* (written by Maria Cleary and illustrated by Lorenzo Sabbatini), all of which are good examples of wonderful collaboration between an author and an illustrator. Although the main purpose of graded readers is to make learners accustomed to reading in English, some of these books are so artistic that they are really worth much more recognition by avid book lovers all over the world. It is such a relief to know that there is at least a "Language Learner Literature Award," which was rightly given to Maria Cleary and Lorenzo Sabbatini's *Skater Boy*, the very simple but quite powerful picture book about a mysterious boy hero.

The latter, published in Seoul, Korea, is a readable series of comic books, which must be far more enjoyable among children who, whether they like it or not, have to study the international language, for Jason Wilburn and Casey Kim's story-making is so splendid (in fact they are genius in combining the evil force of the crystal with environmental problems in "Dark's Hearts" of *Magic Adventures*, and in retelling children's classics like *Peter Pan*, *The Wizard of Oz*, and *Robin Hood* in "Storybook Mysteries" of *School Adventures*, using their own protagonists: Jack and Bella) and Jaehwan Jung's anime-like character design is so charming that the results turn out to be another instance of successful collaboration. Therefore it is strongly recommended that both *Magic* and *School Adventures* be read as fantastic works of manga on their own, not just as tools for learning English.

情報科学的アプローチによる 英語検定教科書の語彙分析

八鳥 吉明* 大野 佳代子**

(2016年11月24日受理)

1. はじめに

社会のグローバル化が指摘される中、学生や研究者、技術者などには、それぞれの活動目的に対応するための英語力の向上が求められる機会が多くなっている。総合的な英語力の育成のためには、複合的な英語学習が必要になるが、それらを支える重要な柱の1つは語彙の学習であると言ってよいだろう。

私たちは、単語は文脈の中で覚えることが効果的であるという第二言語習得論の知見（白井 172-73）を踏まえ、英語の授業を通じた語彙習得の効果的方法について研究を行っている。また、語彙の研究では大規模なデータの解析が必要になる場面も多いため、研究方法としては、英語教育に情報処理などの情報科学的アプローチを積極的に取り入れている（八鳥・大野「高専生」）。

近年、英語の語彙研究では、自然言語処理の形態素解析ツールを活用した報告が増加している（田中・富浦・徳見；岩崎）。もともと英文は、単語と単語の間に区切り文字としての空白を入れて文章を作成するため、コンピュータ上で処理しやすいデータとなっている。形態素解析ツールは、英文の文脈から単語の品詞を自動で判断し、語尾変化した単語を基本形に戻すというレマ化（lemmatization）の機能を持っている（田中 109, 113）。

こうした技術的背景を踏まえ、今回の研究では、授業教材の英文を分析する手段として、形態素解析ツールの活用とその有効性の検証を試みることにした。

2. 研究目的

本研究は、授業教材の英文を構成する単語を、情報処理技術を用いて効率的に分析する方法を見出すことを目的としている。

私たちはこれまで、文脈に基づいた単語学習を促進するために、授業教材から重要単語を選択し、学生に提

示する方法について研究を行ってきた（八鳥・大野「英単語学習用」）。英文を構成する単語を選別するには、事前処理として、各単語を基本形に戻す必要があるが、従来、その作業は人手により行ってきた。今回、この作業を自動化するために、自然言語処理技術を試用する。また、自動で基本形に戻した単語の検証作業には、先行研究で開発済みの英単語分析表作成システム（旧称：英単語選択システム）を利用する（八鳥・大野「英単語選択」）。このシステムは、収蔵するデータベースにより、調査対象の単語に関して、複数の英単語本における掲載状況を自動で表示する機能を有している。

これらの情報科学的アプローチを活用することで、英文の語彙分析を効率的に行う方法を確立することが、本研究の狙いである。

3. 実験方法

今回の調査では、群馬工業高等専門学校（以下、群馬高専）の授業で実際に使用されている英文教材を実験データとし、形態素解析ツールを使って自動で基本形に戻した単語が、英単語分析表作成システムに適用可能かどうかを評価する。その実験方法を以下に示す。

3. 1 実験データ

実験データは検定教科書の『MY WAY English Communication I』（森住、他）である。2016年度の群馬高専1年次の「英語A」の指定教材であり、この教科書の本文データを使用する。

1回の処理に使用するデータ量は、授業1回分の範囲の英文の単語数とし、授業回数21回分（平成28年4月10日から11月17日まで）のデータを使用する。

3. 2 形態素解析ツールによる単語のレマ化

教科書の英文に対して、自然言語処理の形態素解析ツールであるTreeTagger（Schmid “Probabilistic”）を実

行し、単語を基本形に戻したリストを作成する。このツールは、ドイツの数理言語学の研究者である Helmut Schmid が開発し、公開しているものである（田中 109）。Windows OS や PC-Linux OS、Mac OS などで行う可能であるが（Schmid “TreeTagger”）、今回は Windows OS 上で実行環境を整えた。高速に処理が行えるツールであり、30,000語の英文を約1秒で解析できる（OS: Windows7, CPU: 2.3GHz, RAM: 4GB）。

TreeTaggerの実行手順を図-1 に示す。入力データは、テキストファイル形式の英文である。パソコン上でコマンドプロンプトを起動し、スクリプトファイルである“tag-english”を実行する。実行時の第1引数は、英文のテキストファイル名である。実行結果は、デフォルトでは実行画面上に標準出力される設定になっているため、リダイレクト機能を使って、テキストファイルに出力させる。出力ファイルには、1単語の解析結果として、1行に単語と品詞略号、単語の基本形が出力される。品詞略号としては、名詞の単数形または質量名詞にはNN（noun, singular or mass）、名詞の複数形にはNNS（noun, plural）、動詞の原形にはVV（verb, base form）、動詞の動名詞／現在分詞にはVVG（verb, gerund/participle）、動詞の過去分詞にはVVN（verb, past participle）などが使われている（UNIVERSITY）。

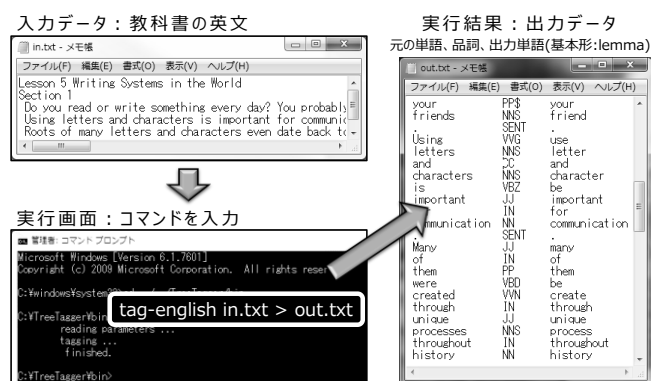


図-1 TreeTagger 実行手順

3. 3 英文分割プログラムの開発

TreeTaggerの出力ファイルには、英文に出現する全ての単語や句読点、記号、アラビア数字などの解析結果がそれぞれ1行ずつに出力されるため、そのままの状態では教科書の英文と単語の対応付けが容易ではないという問題がある。この問題を解決するために、英文を構成する単語を分割するプログラムを、ExcelのVisual Basic for Applications (VBA)を使って開発して、その対応付け作業を補助するリストを自動で作成することにした。

開発プログラムの実行画面を図-2 に示す。このプログラムは、データの整形を主としたクレンジング作業や、プログラムが出力する単語数の集計作業を自動化するも

のである。授業1回分の英文を入力すると、英文のパラグラフとセンテンスごとにナンバリングを行う。その後、文章をセンテンスごとに分けて、それぞれの文章の直下に、出現した単語を並べてリストとして出力する。この時、句読点や記号、アラビア数字などは出力の対象外とする。また、1回の授業範囲で同一の単語を繰り返し重要単語として選び出すことはないため、重複して出現する単語をリストから削除する機能を持たせる。

このプログラムを利用することで、分割された個々の単語が教科書のどの文章から選ばれたものであるかを示す、ガイド的役割を果たすリストを作成することができる。

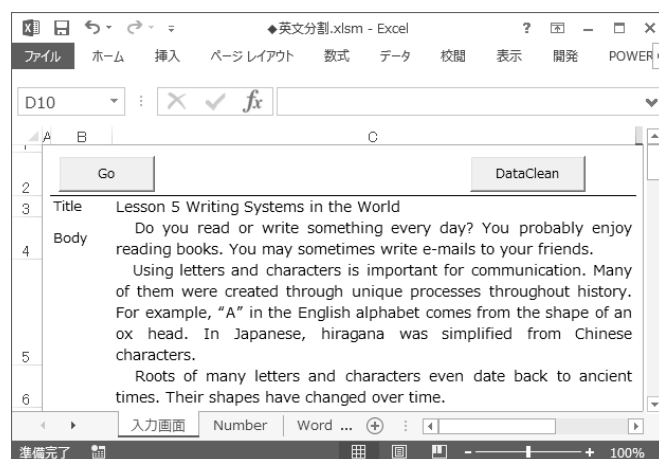


図-2 英文分割プログラム実行画面

次に、開発した英文分割プログラムの実行結果の例を図-3 に示す。リストの左側には、出現した全ての単語を表示する。リストの右側には、重複する単語を削除したリストと、各単語の出現回数を表示する。出現頻度の値を自動で集計して表示することで、利用者が重要単語を選択する際の判断材料の1つにすることができる。

Lesson 5 Writing Systems in the World		Lesson 5 Writing Systems in the World	
[1] ① Do you read or write something every day?		[1] ① Do you read or write something every day?	
Do		Do	1
you		you	3 ← 単語の出現回数
read		read	1
or		or	1
write		write	2
something		something	1
every		every	1
day		day	1
② You probably enjoy reading books.		② You probably enjoy reading books.	
You		probably	1
probably		enjoy	1
enjoy		reading	1
reading		books	1
books			
③ You may sometimes write e-mails to y		③ You may sometimes write e-mails to your friends.	
You		may	1
may		sometimes	1
sometimes		e-mails	1
write		to	2
e-mails		your	1
to		friends	1
your			
friends		[2] ① Using letters and characters is important for communication.	
		letters	2
		and	2
[2] ① Using letters and characters is important			

重複単語削除前

重複単語削除後

図-3 英文分割プログラム実行結果

3. 4 語彙分析

実験データである英文をTreeTaggerに適用してレマ化された単語と、英文分割プログラムを介して出力された英文付き単語リストのデータをマージする作業を人手により行い、英単語分析表作成システムの入力データとなる単語リストを作成する。

このリストの単語部分を入力データとして、英単語分析表作成システムを実行する。その結果、調査対象の単語それぞれに対して、複数の英単語本のうち見出し語扱いで掲載されている冊数を自動集計した値が、一覧表として出力される。さらに、それぞれの単語の詳細情報として、各単語本に掲載されている種類が、見出し語扱いの場合には丸印、派生語・関連語の場合には三角印で表示される（八鳥・大野「英単語選択」82）。

こうして作成された単語の分析結果を示す表（単語分析表）をもとに、英文の文脈を確認しながら、重要単語を選択していく。

実行例として、単語分析表と選別結果の一部を表-1に示す。リストの左側に単語の「選別結果」を記入するための区分欄を設け、重要単語として選択した単語に二重丸印を付ける。その他、中学既習語には星印を、重要単語を除く教科書新出語などには三角印を付けていく。

表-1 単語分析表と選別結果の一部

◎：重要単語、★：中学既習語、△：その他

選別結果	使用単語	基本形	No.	単語本						見出し語掲載数
				1	2	3	4	5	6	
◎★	[2] ① Using letters and characters is important for communication.									
	Using	use	21	-	-	-	-	-	-	0
	letters	letter	22	○	-	-	○	-	-	2
	characters	character	23	○	△	△	○	○	○	4
	important	important	24	-	-	-	-	-	-	0
◎	communication	communication	25	-	-	-	-	△	△	0
	② Many of them were created through unique processes throughout history.									
	Many	many	27	-	-	-	-	-	-	0
	created	create	28	△	△	○	-	○	○	3
	through	through	29	-	-	-	-	-	-	0
◎	unique	unique	30	-	-	○	-	○	○	3
◎	processes	process	31	△	△	△	○	△	○	2
◎	throughout	throughout	32	-	-	-	-	○	○	2
△	history	history	33	-	-	-	-	○	-	1
	③ For example, "A" in the English alphabet comes from the shape of an ox.									
	example	example	35	-	-	-	-	-	-	0
	English	English	36	-	-	-	-	-	-	0
	alphabet	alphabet	37	-	-	-	-	-	-	0
◎★	comes from ~									
	comes	come	38	-	-	-	-	-	-	0
	from	from	39	-	-	-	-	-	-	0
	shape	shape	40	○	-	○	○	○	○	5
	ox	ox	41	-	-	-	○	-	-	1
△	head	head	42	-	-	○	○	-	-	2
	④ In Japanese, hiragana was simplified from Chinese characters.									
	Japanese	Japanese	44	-	-	-	-	-	-	0
	hiragana	hiragana	45	-	-	-	-	-	-	0
	simplified	simplified	46	-	-	-	-	-	-	0
△	< simplify	simplify	47	-	-	-	-	△	△	0
△	Chinese	Chinese	48	-	-	-	-	-	-	0
△	Chinese characters	Chinese characters	49	-	-	-	-	-	-	0
◎	[3] ① Roots of many letters and characters even date back to ancient times.									
	root(s)	root	51	-	-	-	△	○	○	2
	even	even	52	-	○	-	○	△	○	3

英文分割プログラム TreeTagger 英単語分析表作成システム
○：見出し語、△：派生・関連語

4. 実験結果と考察

以上に述べた語彙分析作業の各過程を、検定教科書の英文を用いて実際に検証することで、TreeTaggerにより自動でレマ化した英単語の、英単語分析表作成システムへの適用可能性を評価した。以下に、その結果を述べる。

教科書の本文を、授業1回分に相当する約130語ごとに分割し、合計21回分の英文を使って実験を行った。実験に使用した単語の総数は、2,128語である。これらの単語を、TreeTaggerを使用して自動で基本形に戻した後、実験手順に従って質的に分析した結果、選び出した重要単語は132語（うち、中学既習語は34語）になった。

また、今回の実験を通して、TreeTaggerでレマ化した単語を英単語分析表作成システムの入力データとして利用するためには、次に示す事前処理を行う必要があることが判明した。

(1) タイトル行の単語の先頭小文字化

今回の実験データでは、タイトル行に使用される各単語は、一部の冠詞や前置詞、接続詞などを除き、先頭文字が大文字で書かれているため、固有名詞と見なされてしまい、単語が複数形の場合でも、TreeTaggerでレマ化される際に語尾の“s”が削除されない。そのままの状態では英単語分析表作成システムを実行すると、掲載数がゼロになる確率が高い。その例を表-2に示す。システムの参照データベースである英単語本では、ほとんどの単語が見出し語としては単数形で掲載されており、“clothes”や“means”などの一部の例外を除き、語尾に“s”が付く複数形は掲載されていない。

表-2 単数形と複数形の見出し語掲載数

種類	単語	No.	単語本						見出し語掲載数
			1	2	3	4	5	6	
複数形	systems	1	-	-	-	-	-	-	0
	moments	2	-	-	-	-	-	-	0
単数形	system	3	-	-	-	-	○	○	2
	moment	4	-	-	○	-	○	○	3

この問題への対策として、タイトル行の英文については、固有名詞を除き、全体を小文字化し、大文字で始まる単語が固有名詞として判断されることを防ぐことにした。

その実行例として、タイトル行が先頭大文字の場合と、小文字化した場合のTreeTaggerの実行結果の違いを図-4に示す。図の左側は、単語の先頭が大文字の場合の入力データと、TreeTaggerの解析結果である。“Moments”や“Systems”の品詞は、固有名詞を示すNPや

その複数形のNPSが表示されているため、語尾の“s”が削除されていない。図の右側は、単語の先頭を小文字に変換した入力データと、その解析結果である。“moments”や“systems”の品詞は名詞の複数形（NNS）と解析され、単語の語尾の“s”が削除されている。

入力英文

単語の先頭大文字	単語の先頭小文字
Lesson 4 Pictures of Funny Moments	lesson 4 pictures of funny moments
Lesson 5 Writing Systems in the World	lesson 5 writing systems in the world

TreeTaggerの実行結果

元の単語	品詞	出力単語	元の単語	品詞	出力単語
Lesson	NN	lesson	lesson	NN	lesson
4	CD	4	4	CD	4
Pictures	NNS	picture	pictures	NNS	picture
of	IN	of	of	IN	of
Funny	NP	Funny	funny	JJ	funny
Moments	NP	Moments	moments	NNS	moment
Lesson	NP	Lesson	lesson	NN	lesson
5	CD	5	5	CD	5
Writing	NP	Writing	writing	VVG	write
Systems	NPS	Systems	systems	NNS	system
in	IN	in	in	IN	in
the	DT	the	the	DT	the
World	NP	World	world	NN	world

図-4 単語の先頭文字の違いによる解析結果の相違

(2) ピリオドを複数使用する省略形単語の記号置換

英単語の中には、“A.M.”や“P.M.”、“B.C.”や“A.D.”のように、ピリオドを複数使用する省略形表現が存在する。TreeTaggerでは、これらの表現はピリオドで分けられ、複数の単語であると解析される。例えば、“A.M.”は“A.”と“M.”の2つに分割されてしまう。これを防ぐために、事前にピリオドを別の記号（例“A_M_”）に置き換える作業が必要である。

(3) 穴埋め問題の解答の埋め込み

今回の実験データの範囲外ではあるが、TreeTaggerの解析は文脈を使用することから、教科書の演習問題やTOEICなどに見られる穴埋め問題を含む英文には、選択肢や解答を埋め込むなどの処理が必要になる。

5. まとめ

本研究の目的は、英文を構成する単語を、情報処理技術を用いて効率的に分析する方法を見出すことであった。そこで、Excelに標準装備されているVBAを活用し、英文を単語に分割するプログラムを開発した。分割された単語を基本形に戻す処理を自動化する際には、形態素解析ツールのWindows版TreeTaggerを利用した。その上で、このプログラムを、先行研究で構築した語彙データ

ベースと連動させることを試みた。

検定教科書を用いて行った実験の結果、新たに開発した英文分割プログラムを用いることで、形態素解析ツールのWindows版TreeTaggerを使ってレマ化した単語を、英単語分析表作成システムに適用することができることが確認できた。これにより、英文に出現する単語を情報処理技術を用いて短時間で効率的に分析する方法を確立する見通しを得ることができた。

今回の研究成果の一例として、実験結果をもとに作成した授業用のプリント教材を図-5に示す。

No.1 (後期)
 クラス1- 整理番号 学籍番号 氏名
 Lesson 5 Writing Systems in the World
 Section 1
 Do you read or write something every day? ⑥ You probably enjoy reading books. You may sometimes write e-mails to your friends.
 ⑥ Using letters and characters is important for communication. Many of them were created through unique processes throughout history. For example, “A” in the English alphabet comes from the shape of an ox head. In Japanese, *hiragana* was simplified from Chinese characters.
 Roots of many letters and characters even date back to ancient times. Their shapes have changed over time.

単語・熟語 英文中での意味を辞書と教科書を調べて書きなさい。◎は重要単語 ★は中学既習語

system(s) _____	◎probably _____
★enjoy _____	★letter (主に表音) 文字
◎★character (主に表意) 文字	◎create(d) _____
★through _____	◎unique (→ Lesson 4) _____
◎process(es) _____	◎throughout _____
alphabet _____	comes from ~ _____
◎★shape _____	ox _____
simplify _____	Chinese _____
Chinese character 漢字	◎root(s) _____
◎even _____	date back to ~ ~にさかのぼる
◎ancient (→ Lesson 3) _____	over time 時がたつにつれ

文型 上の英文にS、V、C、Oの記号を記入しなさい。

図-5 授業プリント教材

6. 今後の課題

今後の課題としては、今回の実験方法の自動化を検討している。例えば、現在はコマンドプロンプトから手入力で行っているTreeTaggerは、VBAプログラムに組み込むことができる。本研究で開発した英文分割プログラムのアルゴリズムをもとに、Excel上から入力データの整形を行い、TreeTaggerを実行し、その結果を自動集計するまでの一連の作業を、自動化することを進めたい。

また、本研究で構築した語彙分析の手法は、さまざまな英文に適用可能である。当面の課題としては、2016年5月から新形式に変更されたTOEIC Reading & Listening Testの『公式問題集』（Educational）の単語を分析する予定である。

本研究で開発した英文分割プログラムを使うことで、入力データの整形を主としたクレンジング作業や、出現する単語数の集計作業を自動で行うことができる。また、TreeTaggerでレマ化した単語を、英単語分析表作成システムに適用することで、単語を出現頻度の値から機械的に選別し、重要単語リストを作成することも可能である。

こうした基礎的研究を継続しながら、学習者がより効果的に語彙を習得できる方法を探求し、そのための学習環境の整備を行っていきたい。

参考文献

- Educational Testing Service (2016). 『TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編』 東京：国際ビジネスコミュニケーション協会.
- Schmid, Helmut. (1994). “Probabilistic Part-of-Speech Tagging Using Decision Trees.” *Proceedings of International Conference on New Methods in Language Processing*, 44-49.
- . “TreeTagger.” Retrieved August 8, 2016, from: <http://www.cis.uni-muenchen.de/~schmid/tools/TreeTagger>
- UNIVERSITY of WASHINGTON (UW) Courses Web Server. “Tree Tagger Tags.” Retrieved August 8, 2016, from: <https://courses.washington.edu/hypertext/csar-v02/penntable.html>
- 岩崎洋一. 「シェルスクリプトを活用した英語語彙分析プログラムの拡張」 『木更津工業高等専門学校紀要』. 49 (2016) : 55-62.
- 白井恭弘. 『外国語学習の科学——第二言語習得論とは何か』. 岩波新書. 1150. 東京：岩波書店. 2008.
- 田中省作. 「形態素解析ツール—英語と TreeTagger を中心に—」 『九州大学情報基盤センター広報』. Vol. 2, No. 2 (2002) : 108-116.
- 田中省作、富浦洋一、徳見道夫. 「機関リポジトリから得られる著者の語彙分布に基づいた部局別重要語彙の選定」 『人文科学とコンピュータシンポジウム』. 2014 年, No. 3 (2014) : 207-212.
- 八島吉明、大野佳代子. 「英単語学習用 Web 教材開発——効果的な英語学習法を求めて」 『群馬高専レビュー』. 32 (2013) : 61-65.
- . 「英単語選択システムの開発と応用」 『群馬高専レビュー』. 33 (2014) : 79-83.
- . 「高専生に必要な語彙を求めて——学習用語彙リストを用いた語彙データベースの構築とその検証——」 『COCET 研究論集』. 35 (2016) : 87-96.
- 森住衛、他 17 名. 『MY WAY English Communication I』. 東京：三省堂. 2013.

Analyzing the Vocabulary of a Certified English Textbook: An Information-Technology Approach

Yoshiaki HACHITORI and Kayoko OHNO

This study examines a method we constructed to analyze words used to form sentences in the English language by applying information-processing technology. In order to develop effective methods to increase students' vocabulary, we have been conducting research on introducing information-processing technology in English language education. In this study, we developed a program that deconstructs sentences in English into words using the Visual Basic for Applications (VBA) of Excel as the programming language. TreeTagger, a morphological analysis tool, was used to render words in their basic form. Linking this program to our vocabulary database, which was developed in a separate study, enabled us to choose the important words based on frequency analysis. To evaluate the efficiency of this method, an experiment was conducted using a certified English textbook. The results of the experiment show that this method is effective in analyzing different parts of speech and frequency of word usage in sentences, and the analysis takes a short amount of time.

TED を利用したディスカッション・ボードの構築と実践 —他大学との交流を中心に—

飯野一彦* 鈴木広子** 藤枝美穂*** 菅原安彦****
松浦浩子***** 宮本節子***** 小原平***** 保崎則雄*****

(2016年11月24日受理)

1. はじめに

SNS (Social Networking Service) のようなユビキタスなシステムをプラットフォームとして、英語が媒介する学際的なコミュニティの構築を目指し、筆者らの研究グループでは、これまでに Moodle を基盤とした、学習者同士の意見交換ができるディスカッション・ボードをインターネット上に構築した。TED (Technology Entertainment Design) Talks のビデオを利用した、独自に開発したディスカッション・ボード (通称“TEDDiscussion”) は、学習者も教員も参加者あるいはファシリテーターとして、パソコン、タブレット型端末、スマートフォン等を利用して情報を共有し、メッセージを伝え合い、互いの意図の共感的理解が可能となる「学びのコミュニティ」を目指したものである。本研究の概念図を以下の図-1 に示す。

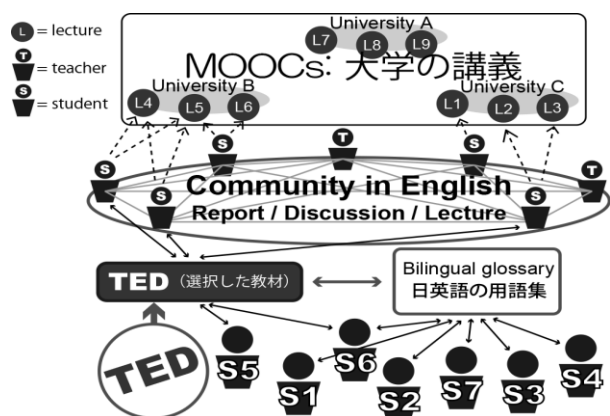


図-1 研究概念図

筆者らは過去2年間、それぞれの所属する教育機関において、このディスカッション・ボードを授業で実践

し、その成果を複数の学会等で報告してきた。(菅原・鈴木・保崎、2015；飯野・藤枝、2016；松浦・宮本・飯野、2016)

これまでの実践において、参加者は積極的な態度で英語によるディスカッションに参加し、内容に関する情報を基に意見交換をし、コミュニケーションを楽しんでいる様子が伺えたが、それはあくまでも所属機関内でのコミュニケーションに留まっており、学際的なコミュニティを構築するという観点からは、限定的なものであった。そこで今年度の実践においては、これまでのディスカッション・ボードを当初の目的に近づけるために、他の教育機関の学生とも交流できる仕様に改良した。

本稿では、この改良したディスカッション・ボードを使った実践を報告するとともに、学生がネットを通して学外の参加者といかに交流し、コミュニケーションの枠を広げようとしたかを、事前・事後のアンケート調査を基に分析し、学生の今後のコミュニケーション能力の向上につなげるシステムの開発の資としたい。

2. 改良された TEDDiscussion の特徴

飯野・藤枝 (2016) が紹介したように、TEDDiscussion は、オープンソースの LMS (Learning Management System) である Moodle 上に、TED Talks のプレゼンテーションビデオと Moodle の様々な機能を組み合わせて構成したインターネット上のサイトである。一昨年度に発足したこのプロジェクトは、プラットフォームの選定、サーバの設置、内容の検討、プロトタイプを作成を経て、研究グループに所属する教員の各教育機関ごとにコースを開講して試行してきた。これまでも、他の教育機関からの参加者に対してオープンにしているコースもあった

*人文科学科 **東海大学 ***大阪医科大学

****国士舘大学 *****福島大学 *****兵庫県立大学

*****東京慈恵会医科大学 *****早稲田大学

が、かなり限定的であり、ほとんどは学内のみでの試行に留まっていた。そこで、今年度はコースへの登録緩和、インターフェースの変更を行い、自分の所属以外の機関のコースに自由に入って、他大学の学生とディスカッションをしやすい仕様にした。図-2は、実際に学生が目にする、各コースが表示されている画面である。

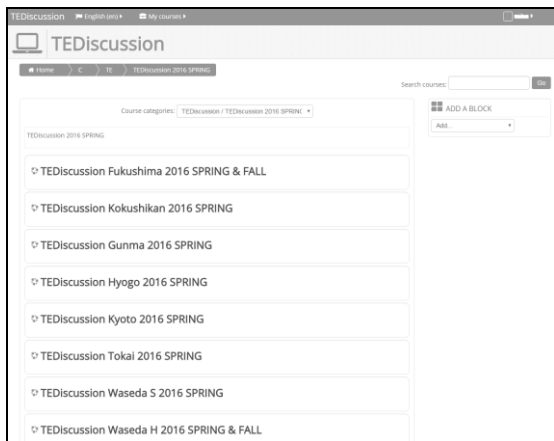


図-2 各コースが表示されている画面

3. TEDDiscussion の構成と多様な選択テーマ

今年度使用した TEDDiscussion の基本的な構成は、①TED Talks ビデオ、②PDF 化してダウンロード可能にした日本語および英語のスクリプト、③協働で作成する語彙リスト(Glossary)、そして④実際のディスカッションの場(Forum)と、昨年までとほぼ同じである。(図-3)

Topic 1

Derek Sivers: How to start a movement (3:10)



図-3 各ユニットの画面構成

しかし今回の特徴は、他大学の学生がともにディスカッションをすることを前提に、TED Talks のビデオを 2 本提示し、好みのテーマ選択肢を広げて、ディスカッションがしやすいようにした点である。また、特定の教育機関と、より活発なディスカッションを促すために、あえて同じビデオを選んでいるコースもあ

る。

以下は、参加教育機関の TED Talks のスピーカーとタイトル、およびそのテーマである。基本的に各教育機関の参加者の興味を引くテーマが選ばれているが、これらからわかるように、テーマはバラエティーに富んでおり、昨年度に実施したものよりも学習者のテーマ選択の幅が広がっている。

群馬工業高等専門学校

1) Sebastian Thrun: Google's driverless car

テーマ：自動運転車の現状と可能性

2) Robert Full: The secrets of nature's grossest creatures, channeled into robots

テーマ：ゴキブリの Robust system の紹介とロボットへの応用

東海大学

1) Sebastian Thrun: Google's driverless car

テーマ：自動運転車の現状と可能性

2) Alice Goffman: How we're priming some kids for college — and others for prison

テーマ：貧民街に暮らす子どもたちの不公平な人生を社会的に描写

京都医療科学大学

1) Derek Sivers: How to start a movement

テーマ：リーダーシップの在り方とフォロワーの役割

2) Kang Lee: Can you really tell if a kid is lying?

テーマ：体表面の微細な温度変化で嘘を見抜く新技術

国士舘大学

1) Benedetta Bertì: How ISIS stays in power

テーマ：非政府組織の形成とその実態

2) Aziz Abu Sarah: For more tolerance, we need more...tourism

テーマ：敵対している民族間交流をツーリズムで助長

福島大学

1) Jay Walker: The world's English mania

テーマ：世界の熱狂的英語学習ブームについて中国を中心に紹介

2) John McWhorter: Txtng is killing language. JK!!!

テーマ：新しい言語形態としてのテキスト・メッセージの可能性

早稲田大学

- 1) Alice Goffman: How we're priming some kids for college
— and others for prison

テーマ：貧民街に暮らす子どもたちの不公平な人生
を社会的に描写

- 2) Johanna Blakley: Social media and the end of gender

テーマ：ソーシャルメディアとジェンダーの終焉

兵庫県立大学

- 1) Cameron Russell: Looks aren't everything. Believe me,
I'm a model.

テーマ：ステレオタイプと偏見～白人モデルが挑戦
した“whiteness”の美

- 2) Kenneth Shinozuka: My simple invention, designed to
keep my grandfather safe

テーマ：認知症高齢者と家族を助ける IT 技術～靴下
センサーが徘徊を見守る

東京慈恵会医科大学

- 1) Rob Knight: How our microbes make us who we are

テーマ：体内の 3 ポンドの微生物が、ゲノム内のどの
遺伝子よりも重要かもしれない理由

- 2) Joe Landlina: This gel can make you stop bleeding
instantly

テーマ：圧迫せずに外傷性の出血を瞬時に止められる
医療用ジェル

4. 群馬工業高専専門学校における TEDiscussion の実践

4.1 手順

上記のシステムを使って、群馬工業高等専門学校では以下の授業において、ディスカッション・ボードを実践した。

- 対象学生：専攻科 2 年 科学英語 A 受講学生 14 名
- 実施期間：平成 28 年 6 月～7 月
- 使用ビデオ：
 - (1) Sebastian Thurn: Google's driverless car
 - (2) Robert Full: The secrets of nature's grossest creatures, channeled into robots

4) 指示：

- (1) 授業以外で、本ディスカッション・ボードのサイトに入り、上記のビデオを視聴する。
- (2) Forum へ書き込む。その際、次の 3 つを必ず行う。
 - ① 挙げられたトピックに対して、最低一度は自分の意見を書き込む。

② トピックに対して書かれた、他のメンバーの意見に対して返信を送る。

③ ②の返信に対して、再度返答する。

④ 他大学のコースに入り、書き込む。

⑤ コース内の他大学からの書き込みに返信する。

①～③は昨年までの指示である。今年度は他大学の学生とのコミュニケーションを目指し、④と⑤を新たに加えた。

なお、書き込みに対しては、その多寡や内容にかかわらず、課題点として通常の成績に 10 点分として反映させることを事前に学生に伝えた。

4.2 Forum への書き込み例

群馬高専の Forum には 2 つのビデオに対する、それぞれ 2 つのトピックに対して、合計 46 件の投稿（書き込み）が行われた。各ビデオのトピックとそれに対する投稿数は以下のとおりである。

ビデオ 1 Google's driverless car

トピック 1. Is a driverless car really safe?

投稿数 26 件（うち、外部投稿 12 件）

トピック 2. Who would bear responsibility of a car accident caused by a driverless car?

投稿数 8 件（うち、外部投稿 2 件）

ビデオ 2 The secrets of nature's grossest creatures, channeled into robots

トピック 1. Can we make a better robot than a cockroach in the future?

投稿数 3 件（うち、外部投稿 1 件）

トピック 2. What ability of cockroaches are you most interested in?

投稿数 9 件（うち、外部投稿 0 件）

以下、最も意見交換が活発に行われたビデオ 1 のトピック 1 と 2 に対する、本校学生と他大学の学生とのディスカッションの実例の一部を紹介する。なお、投稿者の名前は、実際の書き込みでは実名が使われているが、ここでは、群馬高専の学生は Gunma student A、東海大学の学生は Tokai student A、京都医療科学大学の学生は Kyoto student A などとした。

Topic 1

Teacher: Is a driverless car really safe?

Around four thousand die in the car accidents in Japan every year. Most of the accidents are caused by careless driving. To reduce the number of road deaths, many motor companies around the world are now developing a driverless car. But is it really safe? Which do you think is safer, a driverless car or an existing car?

Tokai student A

I'm a student A from tokai university.

I think that the existing car is safer than driverless car.

A driverless car have many problem. Who take responsibility if a driverless car crush.

Also, Does a driverless car system break down a run?

Gunma student A:

I think current driverless car is danger than existing car, because many people don't properly understand the knowledge of autonomous car. Reuters News says "A man who was riding Tesla Model S died in a traffic accident". Tesla Model S is the most advanced car and it has automatic operation function. This function is called "Autopilot". However, actually, it requires monitoring by drivers.

Reuters News also says "He might had watched the movie in the car while using the function". If this is a fact, the cause of the collision is in his misunderstanding about Autopilot system. People should understand correct knowledge to operate a driverless car.

Tokai student B:

I'm a student B from Tokai University.

I do not understand the knowledge about the car that many people are voluntary properly, I think that I can prevent danger by it being understood.

Tokai student C:

Hey Mr.Gunma Student A. My name is Tokai student C. I think so too.Tesla motors caused a car accident for a driverless car. For this reason, Japanese government say driverless cars is drivers assist facility, so driver is responsible.I think driverlesscars still are not enough. Driverless cars must allow it to support various environment.

Thank you.

Gunma student A:

Hello,Tokai student C. Thank you for your reply.

I also read the MLIT's press release. I appreciate the text, because many news show told risk of current driverless cars after the article was released. I expect that all people will be able to operate a driverless car safely.

このトピック 1 に関する事例においては、まず東海大学の学生 A が自動運転車の危険性について述べたのに対して、群馬高専の学生 A が Tesla の人身事故の例を挙げて、やはり自動運転車の危険性について語っている。するとそれに対して、東海大学の学生 B が群馬高専学生Aが書き込みの中で使った knowledge という語

に言及しながら自分の意見を展開したり、また別の東海大学の学生Cが Tesla をキーワードに事故の責任問題にまで触れた持論を展開している。そして最後にまた群馬高専の学生Aが東海大学学生Cに新たな情報を加えながら返信している。

これらの書き込みには、文法や語法の間違いが散見されるものの、これまでの単なる 1 対 1 のやり取りではなく、複数の学生が自分の所属する学校の範囲を超えて、積極的に意見交換をしている様子が見て取れる。

Topic 2

Teacher: Who would bear responsibility of a car accident caused by a driverless car?

Even if the driverless car becomes much safer in the future, the car may cause an accident. If an accident happens, who would bear the responsibility of the car accident, the motor company or the car owner?

Kyoto student A:

I think that the motor company must bear the responsibility for the accidents.

Because, the car owner may not buy just the driverless car. He may buy the technology of the safe driving.

So, the accidents are disobedience to him.

But, if the car owner don't do proper maintenance, the responsibility must be his.

Gunma student B:

I don't think so.

I think that the car owner bear the responsibility of the car accident, unless there are serious flaws in the driverless car, because the owner ought to perform maintenance of the car and use the car carefully.

Gunma student C:

The owner of the driverless car has to bear the responsibility of the car accident. Since a person bought the car, the car has been his/hers just like a smart phone and a PC. So, I think, just like those, the owner bears the responsibility.

In addition, in order to make clearer who is the responsibility, driverless technologies must be used an only supports of the operation by the car drivers. It is also the most safe to combine driverless technologies and the operation by the car driver.

Gunma student D:

I think so, too. But, if your driverless car suddenly becomes crazy and causes an accident, you can bear the responsibility?

Gunma student C:

Thank you for your reply.

In the case of a cause of obvious driverless system defects,

the motor company instead of the owner might bear the responsibility of the car accident. It might be necessary to equip a driver data recorder, which can record the operations, with driverless cars.

Tokai student D:

Hello, I'm a Tokai student D.

I think insurance companies and car makers should discuss about it. It is so difficult problem, so it is not the time to draw conclusions.

My opinion is car makers have responsibility, but there is not cut to guarantee all victim.

However drivers should strive to prevent car accidents, so I think they must not do anything that is other than drive.

Gunma student D:

I got hint from words "insurance company" after reading your opinion, and I'll suggest new opinion.

I think new system insurance company of driverless cars should be established and bear responsibility of a car accident.

Driverless car drivers and Car makers have to enter the insurance.

If the driverless car becomes much safer in the future, car accidents will decrease.

Today, automobile insurance is a business.

So, I think driverless car insurance become new business and easy about this problem.

このトピック2に対するディスカッションでは、まずはじめに京都医療科学大学の学生Aが自動運転車の事故に対しては製造した自動車会社に責任があると述べたのに対し、群馬高専の学生Bが自動車の所有者に責任があると反論している。次に、この意見交換に触発される形で、群馬高専の学生CとDがそれぞれの工学的な知識を背景にした意見を交わしている。これらの議論を踏まえた上で、新たに東海大学の学生Dが保険会社の話題を持ち出し、これが最後の群馬高専の学生Dの意見形成に役立つ形で、議論が行われている。特に、東海大学の学生は、次年度からソーラーカー、水素エネルギー、充電の研究など自動車開発に関わるゼミに入ることになっているので、このトピックは彼らにとって具体的に考えることができる課題であり、ディスカッションを楽しんでいるようだった。

これらの書き込みにも、トピック1の書き込み同様、文法や語法上のミスが少なからずあるが、これを見る限り、3つの異なるキャンパスで学ぶ学生同士が1つのForumの中で自由に意見交換をし、議論を深めていく様子が伺える。ここに、教師が主体となった一方通行の授

業では成しえない、われわれが目指した「学びのコミュニティ」の萌芽が形成されているように思われる。

5. アンケート調査結果

今回のディスカッション・ボードの実践に当たり、今後の改善の資とすることを目的に、事前、事後のアンケート調査を参加校のそれぞれのコースに設定した。以下、群馬高専のアンケート結果の概略である。

5.1 事前アンケート

事前アンケートは、参加者の簡単な背景情報を知るための調査であったが、14名の受講者のうち13名からの回答を得た。

1. TED Talksを知っているか。

- | | |
|-------------------|----|
| 1) 知っていて、見たことがある | 7名 |
| 2) 知っていたが使ったことはない | 4名 |
| 3) 知らない | 2名 |

これによると、群馬高専の参加者のほとんどがTED Talksは知っており、多くが実際に視聴したことがあることがわかる。

2. 英語で意見交換をしたことがあるか。

(ある場合はどこで経験したか。)

- | | |
|-------|----|
| 1) ある | 7名 |
| 2) ない | 6名 |

意見交換の経験のある者のうち、「本校で行っている語学研修」と答えた者が3名、「研究室のセミナー」と答えた者が1名、「アメリカの学会」と答えた者が1名であった。(「ある」と答えたが場所を答えない者が2名。)この回答から、ほぼ半数が英語によるディスカッションは、この授業が初めての経験ということになった。

3. 英語でコミュニケーションをしたいか。

- | | |
|-------------|----|
| 1) 積極的にしたい | 2名 |
| 2) したい | 6名 |
| 3) あまりしたくない | 5名 |

この回答からは、「したい」と思っている者が半数以上となったが、「あまりしたくない」と思っている者も3分の1以上いることがわかる。

4. SNSなどで英語の書き込みをしたことがあるか。

- | | |
|--------|----|
| 1) はい | 5名 |
| 2) いいえ | 8名 |

現代の若者はSNSを日常的に利用していると思われるが、英語での書き込みは3分の1ほどであった。

5. これまでに受検した英語力テストについて

本校では、本科3年・4年、専攻科入学前、専攻科入学後にTOEIC受検が義務付けられているので、回答者

全員が TOEIC を受験しており、その平均点は、599 点であった。

事前アンケートを見る限りでは、群馬高専の学生は英語での意見交換に対して、半数以上がこれまでに経験を持ち、また積極的な姿勢を持ってる。そして、それを行う英語力の素地は持っていることが伺える。

5.2 事後アンケート

事後アンケートは参加者の活動全体を評価するために授業終了後に回答してもらった。回答者は、授業後ということもあり、受講者 14 名中 8 名 (57%) であった。以下、主な質問項目とその回答を示す。

1. 率直な意見を表現できたか。

- | | |
|------------|-----|
| 1) できた | 5 名 |
| 2) まあまあできた | 3 名 |

2. 自分の意見をもつことができたか。

- | | |
|------------|-----|
| 1) できた | 4 名 |
| 2) まあまあできた | 4 名 |

これらから、今回のディスカッション・ボードにおいて、参加者のほとんどが自分の意見を持ち、それらを率直に表現したことがわかる。

3. 返信相手はどの基準で選んだか。

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1) 意見がおもしろい | 3 名 |
| 2) 知っている人 | 2 名 |
| 3) 自分以外にまだ返信している人がいない | 1 名 |
| 4) その他 | 2 名 |

その他の理由は、「より詳しく話してほしい意見」「反論する点がある」であった。

これらからは、参加者が投稿された意見に対して、内容を吟味し、真剣に向き合っている様子が伺える。

4. 自分の意見を書くときに、スクリプト（発表者の原稿）の英文や他者の意見を参考にしたか。

- | | |
|--------|-----|
| 1) はい | 6 名 |
| 2) いいえ | 2 名 |

参加者は自分の意見形成にあたり、自分だけでなく、他者の英語を参考にしていることがわかる。これは、筆者らが目指す「情報の共有」「共感的理解」を通した「学びの場」の形成の一端と見てよいであろう。

5. 返信（他者の書き込み）に対してどう感じたか。

- | | |
|----------|-----|
| 1) 嬉しかった | 4 名 |
| 2) 感心した | 3 名 |
| 3) その他 | 1 名 |

6. 上記の回答以外に、感じたことや気づいたことを具体的に書いてください。

「表現方法に違いが見られ、興味深かった」「他大学の学生は短い文章でも積極的に投稿している」「理解

できる誤りと理解できない誤りがあることに気が付いた」「返信の短文はいいと思うが、意見が短いとそれに対する返信が書きにくい」「対抗心がでた」などと、今回の他大学との交流を含め、楽しんでいる様子が見て取れる。また「書き込みの吹き出しの対応が見やすいといい」というシステム上の改善点を指摘する意見も寄せられた。

7. トピックや内容に興味を持てたか。

- | | |
|----------|-----|
| 1) もてた | 4 名 |
| 2) 少しもてた | 4 名 |

これからは、少なくとも参加者が意見を述べたくなるトピックが提示されていると思われる。

8. 他大学とやりとりした経験はどうでしたか。

- | | |
|--------------|-----|
| 1) とてもよかった | 1 名 |
| 2) よかった | 5 名 |
| 3) あまりよくなかった | 1 名 |
| 4) よくなかった | 1 名 |

これらの回答からは、参加者は他大学とのやりとりをおおむねよかったと捉えていることがわかる。

9. TEDiscussion の活動をやってよかったですか。

- | | |
|-------------|-----|
| 1) よかった | 4 名 |
| 2) まあまあよかった | 4 名 |

先の質問とともに、本ディスカッション・ボードについても、回答者全員が肯定的に捉えていることがわかる。

最後に、今回の TEDiscussion を行った上での総合的な感想を書いてももらった。この中には「授業の一環としてやらなきゃという使命感」と書いた学生もいたり、「Ted talk は意味を理解するところで終わってしまったため学んだ英語を使うという感じではなかった。返信はもらえたらうれしかったが、ほかの大学も含め、そこまで返信が活発でなかったため返信を期待はしなかった。トピックは考えることができるもので楽しかった」とやや期待外れだった感想を書いた学生もいたが、多くは「ライティングの良い練習になったと思う」「自分のライティングに対して、教員だけでなく、学生から反応があるのが新鮮だった」「自分の現在の英作文能力を知れたとともに、リスニング・リーディング力を鍛えられたと思う」と肯定的に捉えてくれる学生が多くいたことは、本プロジェクトが学生にとって有意義な活動であったことが裏付けられたと言ってもよからう。

6. おわりに

本稿では、筆者らが所属する研究グループが一昨年から開発・構築しているディスカッション・ボードの改良版の紹介と群馬工業高等専門学校における今年度

の実践を紹介した。実践を観察し、アンケート調査の結果を見る限り、参加者は積極的な態度でオンライン上のディスカッションに参加し、互いに内容に関する情報をもとに意見交換をし、英語によるコミュニケーションを楽しんでいる様子が伺えた。殊に、今回は同じ教室で学ぶ者同士の枠を超え、他大学の同年代の学生とのコミュニケーションにまで発展させることができた。このことは、筆者らが目指す「情報の共有」と「共感的理解」を通した「学びの場」の形成の具現化であり、今までの「教え込む」教育では成しえなかった「流動的な学びのシステム」の基礎が構築されたと言ってよかろう。それは現時点では完璧とはいえないものの、このシステムがさらに大きな「学びのコミュニティ」を形成する可能性があることを、本稿において一部紹介した参加者の Forum への躍動的な書き込みの例が雄弁に語っていると言えよう。

なお、本稿では紙幅の都合上、群馬高専に設定されたディスカッション・ボードにおける Forum への書き込み例の紹介に留まっているが、本研究プロジェクトに参加してる教育機関での実践例や本校学生の他の教育機関への書き込みとその分析については、別の機会に譲りたい。

なお、本研究は以下の科学研究費助成事業（学術研究助成基金補助金）基盤研究(C)（課題番号：26350353）の助成を受けて行われたものである。

研究課題名：相互学習に基づいた SNS に展開する英語のコミュニティの構築と参加する学習者の評価
研究代表者：飯野一彦(群馬工業高等専門学校)
研究分担者：小原平(東京慈恵会医科大学)
藤枝美穂(大阪医科大学) 菅原安彦(国士舘大学)
鈴木広子(東海大学) 宮本節子(兵庫県立大学)
松浦浩子(福島大学) 保崎則雄(早稲田大学)

参考文献

- 1) 菅原安彦・鈴木広子・保崎則雄（2015）「オンライン・ディスカッションにおける発話の生成過程の分析」『外国語教育メディア学会（LET）第55回（2015年度）全国研究大会大会要綱』 pp. 162-163
- 2) 飯野一彦・藤枝美穂（2016）「SNS に展開する英語によるディスカッション・ボードの構築と実践」『全国高等専門学校英語教育学会教育論集』第35号 pp. 107-116
- 3) 松浦浩子・宮本節子・飯野一彦（2016）「Forum を利用した交流サイトにおいて投稿意欲を喚起・阻害する要因は何か」『外国語教育メディア学会（LET）第56回（2016年度）全国研究大会大会要綱』 pp. 142-143

Construction of an English Discussion Board Using TED Talks Videos and its Practice: Focusing on intercollegiate discussions

Kazuhiko IINO, Hiroko SUZUKI, Miho FUJIEDA, Yasuhiko SUGAWARA, Hiroko MATSUURA, Setsuko MIYAMOTO, Osamu OHARA and Norio HOZAKI

This paper introduces the authors' new English discussion board using TED Talks videos on the Internet, intended to establish an interdisciplinary 'learning' community. This updated discussion board aims at facilitating intercollegiate communication based on a Social Networking Service. It basically consists of four parts; 1) a short video taken from TED Talks, 2) scripts of the talks in English and Japanese, 3) a 'Glossary' for vocabulary building based on the video, and 4) a 'Forum' for discussion on some topics relating to the video. Students and teachers, both of whom are participants in the discussion, are to watch the video and discuss the topics in the 'Forum'. Thus, the authors' aim is for the participants to make up a 'learning community' by sharing information, exchanging their messages and enhancing their mutual understanding.

This paper also reports how practice using the discussion board was carried out at National Institute of Technology, Gunma College. As well as explaining the activity steps, it also demonstrates how the interactions between the students were developed with some examples of their comments posted in English and analyses their attitudes towards participating in the discussion.

マンガを用いた電気回路教材の開発

大豆生田利章^{*}；小林美桜[†]

(2016 年 11 月 24 日受理)

1. はじめに

現在の日本における洗練された表現方法のひとつとしてマンガがある。マンガは文字だけでなく絵も並行して使って説明を行うため、単なる文字媒体以上の高い伝達能力を有する。このため、マンガを用いた教材では学習者によって文字媒体よりも比較的短時間でストーリーおよび内容を理解することができる。さらには、作画やセリフなど、単純な文字媒体に比べて作者の表現方法における選択幅が広く、的確に学習者にポイントを伝えることができる [1]。このためマルチメディア教材としての活用が期待されている。現代社会においてはマンガの浸透率は非常に高く、文字媒体のみには苦手意識があっても、マンガに対しては苦手意識が少ないという人口は多い。このことより、入門書としてマンガを用いた教材を導入することで、苦手意識を克服することおよび、苦手意識を作らせないという効果も期待できる。しかし、電気回路を対象にして今までに発行されてきたマンガを用いた工学教育教材を検討した結果、いくつかの問題点があることが分かった。

本報告では、これらの問題点を改善し、より学習しやすい電気回路に関する教育教材を開発することを目的とする。教材の見本を作成し、アンケートによる評価を行った。

2. マルチメディア教材とマンガ

2.1 マルチメディア教材の特徴

本報告では教材としてマンガを用いる。マンガは言語と絵の組み合わせにより表現を行うので、マンガはマルチメディア教材の一つであると考えられる。一般にマルチメディア教材には以下のような特徴および目的がある。

1. 映像や文字など複数のメディアが組み合わされている。
2. 学習者による能動的な知識構築過程を中心にすえた設計

が行われている。

2.2 マルチメディア教材による学習過程

現在では、複数種の情報が組み合わされた学習における学習効果について、実証的な実験が進んでいる [2]。文献 [3] では、人間が文字媒体とイメージ媒体から学習する過程を図 1 *1 のように説明している。このモデルは、人間がインプットする情報を文字媒体とイメージ媒体とで分離して考えており、それらは別のルートで処理されると仮定されている。処理された記憶は、感覚記憶、動作記憶、長期記憶の 3 つの記憶領域に記憶される。それらを最終的に統合することで、学習者自身が能動的に意味を形成できるようになる。

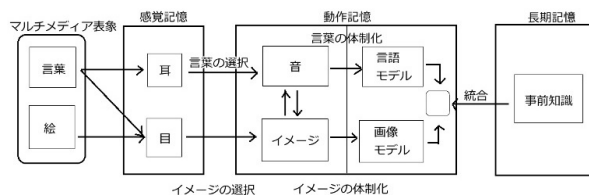


図-1 文字媒体とイメージ媒体からの学習過程

文献 [3] では、図 1 の流れをもとに理論を構成し、人が言葉だけからよりも、言葉と絵の組み合わせからの方がよく学習するという原則を発見している。これはマンガを教材として用いることにより学習が容易になる可能性を示唆している。

2.3 教材としてのマンガのメリット

マンガを用いることで得られるメリットとして、インプット処理を誘発する効果が高いということが上げられる。

文字だけでなく絵も並行して用いるマンガでは、視覚的によるインプットと言語的インプットがほぼ同じ比率になる。また、これのインプットが学習者に別々に提示されるのではなく、並行して提示されることで、視覚的インプットと言語的インプットにおける参照関係を作成しやすい。このため、図 1 における統合において、より強い結びつきを作成す

* 電子情報工学科

† 元電子情報工学科

*1 文献 [2] 掲載の図より引用。

ることが可能である。

また、マンガを用いて教材を作成することで、マンガが独自にもつ表現効果を教材に導入することができる。このマンガの表現効果を用いることによって、教材を作成者が利用可能な表現の幅が、文字媒体のみの場合と比べて大きく広がる。このことも、インプットの誘発を効果的に行うことができることに寄与する。

3. 関連研究および関連書籍

3.1 関連研究

マンガを用いた工学教材作成については、すでに多くの研究が行われているが、ここでは特に理科系の科目の学習に用いられた例を取り上げる。文献 [4] では、理科実験が苦手な教師を支援に対してナラティブアプローチ行うための媒体としてマンガが用いられている。この研究では、手回し発電機を使用したことがない教員に対し、その使い方についてマンガを用いてナラティブに説明するものであり、教師を目指す大学生 100 人に対するアンケートでその有効性が確認されている。

また文献 [5] では、単純に人気キャラクターを用いるだけではなく、そのキャラクターが持つ特徴を生かす工学教育教材を開発している。具体的には、ポケットモンスター (©小学館, 以下ポケモンと省略する) を題材とし、各ポケモンがもつ特徴を記憶することで、簡単にエネルギー、粒子他 2 種の知識を得ることができるようにしている。

3.2 関連書籍

マンガを用いた工学教育教材については、書籍も多数発行されている。ここでは、作成教材の対象分野である電気回路関連の書籍について検討する。

文献 [6] では主人公たちが電子パーツたちの生きる世界にトランスポートしてしまい、現実世界に戻るレベルアップのために電気回路について学ぶというストーリーになっている。この教材の場合しっかりとストーリー性があるが、マンガ部分と教材としての解説部分に直接的な関連性がない。そのため、電気回路の教材マンガとしては不十分である。実際の教材としての解説部分は通常の教科書と同様に文字媒体であり、マンガを読むことで電気回路を理解したい学習者から支持を得られるとは考えにくい。

文献 [7] は、200 ページ以上の本文がマンガであり、マンガ内ですべてを説明している。また各単元の最後にまとめとして確認ポイントがあり、いちいちマンガを読み返さなくても要点のみを確認できる仕様になっている。このため、文字媒体での学習ではわかりにくい部分も端的に理解することが

できる。一方で、絵柄が現在の多くの学生に親しみやすいとはいいがたく、粗削りであることが挙げられる。

3.3 関連書籍の問題点

文献 [6] をはじめとした多くのマンガによる電気回路教材がわかりにくい理由として、詳しい解説が一般的な教材と同様に文字媒体で行われているという点が挙げられる。一方、学習者がマンガ教材に求めることはマンガを読むことで通常の文字媒体と同じ内容を理解することであり、マンガの有効性を活用できないと考える。この欠点の理由として、マンガを作成している作者に電気回路の知識が乏しいということが挙げられる。多くの場合、著作と作画が分かれており、作画を担当するマンガ家は特別に電気回路を学んだことがあるわけではない。

一方、マンガ内で解説を行う文献 [7] の高橋達央氏は秋田大学鉱山学部 (現工学資源学部) 電気工学科卒であり、マンガを描いている本人に電気回路の知識がある。よって、マンガ本文にて解説を行い、マンガ教材の有効性を高めるには、一定の知識のある人間がマンガを作成する必要がある。ただしマンガである以上、知識だけでなく学習者に親しまれるキャラクター、作画であることが求められるため、電気回路の専門知識だけでなく作画知識も求められる。

本報告では、これらの各書籍の欠点を補うような教材の作成を目指した。

4. 作製教材の概要

本報告で作成する教材の主な特徴は以下の通りである。

- マンガ本文中ですべての説明を行う。
- 学習者にとって親しみやすいキャラクターと作画を目指す。

本報告で取り扱う分野は、本校電子情報工学科で苦手意識をもつ学生の多い電気回路とする。大豆生田の著書 [8] をマンガのベースとなる教本として採用し、小林が作画を担当した。教材を作成する範囲は電気回路の基礎概念とし、学習対象者は高校生程度を想定した。

5. 作製教材の詳細

5.1 世界観

本報告では複雑な世界観は作らず、現代の普通の高校とした。文献 [6] においては世界観はファンタジーであり、複雑なストーリーが展開されていた。また、文献 [7] では世界観は現代日本であった。複雑な世界観はマンガとしての読み込み度は増加するが、キャラクターと共に学ぶという感覚は減

少する。本報告では、マンガが持つキャラクターという強みを生かし、学習者に共に学んでいく感覚を持ってもらうため、現代の普通高校とした。

5.2 キャラクター

キャラクターは、現在の学習者にとって親しみやすいものを目指した。具体的には、学習者のまわりにもいそうな性格のキャラクターを作成した。

主人公は電気回路が苦手なにぎやかな少年とした。表情を多彩なキャラクターとし、学習者にとって飽きのこない性格を目指した。電気回路に対する理解度としては、学習者よりも低いレベルに設定し、学習者が教材の中で最も低いレベルとならないようにした。

教師役のキャラクターは主人公と対比するため、冷静なキャラクターとした。正しい答えを告げるキャラクターとするため、落ち着いた雰囲気設定した。また、実際の授業形式で進むストーリーの中で実際の教師のように振舞わせ、他のキャラクターに問いかけるように進めるキャラクターとした。このことで、学習者がその場で授業を受けているような感覚を味わって貰うことが狙いである。

3人目のキャラクターとして、学習者と同等レベルの理解度のキャラクターを作成した。学習者が知っている程度の知識を披露および答え、疑問に思っている点を教師役のキャラクターへ投げかける。教材としては最も学習者が自分と重ねやすいキャラクターであり、このキャラクターの思考を学習者に追ってもらうことで理解するための道筋を学習者に示す。

5.3 コマ割りによる表現

本報告では、学習者に記憶して貰いたい部分については、印象に残りやすいコマ割りや構図の配置を行った。

一般的に印象に残るコマ割りとして、大きなコマや、たて割りのコマ(図2)があげられる。また、集中線を用いて視線を集める効果も用いた。

5.4 デフォルメによる表現

マンガを用いた教材においては、通常のマンガと比較してフキダシ内の文字数が多くなる。このため通常のマンガと同じようにコマ内のイラストを描きこむと、マンガのページ内における絵の比率が多くなる。このため、学習者が読んでいて疲労を感じやすくなることや、読みづらいと感じる懸念があると考えられる。そこで、本報告で作成した教材では極度なデフォルメや、デフォルメをおこなったマスコットキャラクターを多く用いた(図3)。

また、デフォルメ表現を多く用いることによって、テンポがよくなること、および教材という硬いイメージを崩しやす

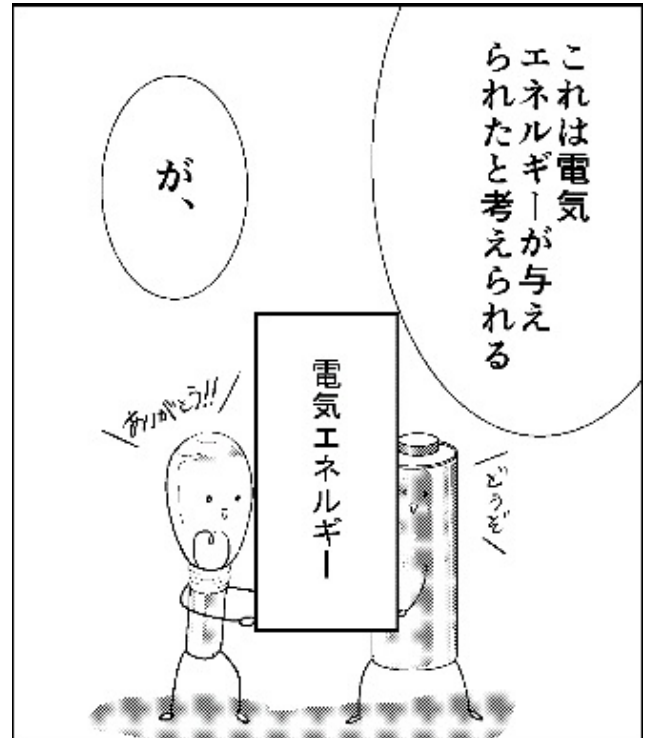


図-2 たて割りのコマの例

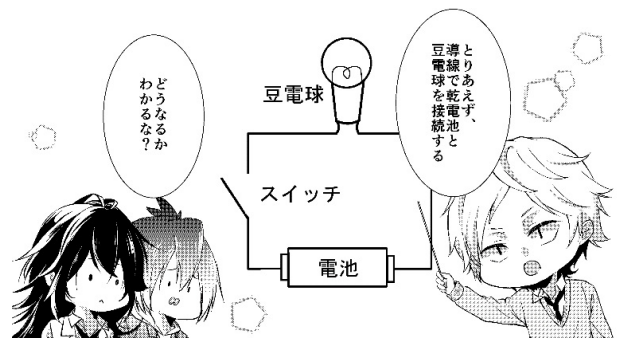


図-3 デフォルメの例

くなるという効果も期待できる。

5.5 題材におけるポイント

電気回路の基本部分では、最も根本的な電気回路の具体例を導入とし、まず負荷とは何かという説明を行った。これは、電源と負荷をつないだものが電気回路であるという説明に対して、中学校までの学習で大まかに理解している電源と比較すると具体的な定義や何に使うものか分かっていないであろう負荷について理解して貰い、最も基本的な回路図上において、その目的が分からない記号をなくすためである。また、抵抗と負荷についてはベースとしている教科書にはない説明を加え、学習者の混乱を防ぐように工夫した。最後に、抵抗が持つ役割をキャラクターの性格と絡めて説明し、学習者の印象に強く残るようにした。

6. アンケート評価と考察

本校電子情報工学科 3 年および応用物理学学会学術講演会の聴講者に対して無記名アンケートを実施して、作成した教材の評価を行った。アンケートの設問項目は表 1 の通りである。

表-1 アンケートの設問

問 1	マンガ教材は親しみやすい
問 2	マンガ教材のキャラクターは親しみやすい
問 3	マンガ教材のキャラクターは魅力的だ
問 4	マンガ教材は容易に読み進めることができる
問 5	マンガ教材のコマ送りはわかりやすい
問 6	マンガ教材の文章は読みやすい
問 7	マンガ教材において、どこが重要だかわかった
問 8	文章量は適当だと思う
問 9	マンガ教材の方が文章のみの場合よりもわかりやすいと思う
問 10	マンガ教材を用いることは有効だと思う
問 11	電気回路が苦手な学生に対して、この教材を用いることは妥当だと思う
問 12	(今までマンガ教材を読んだことがある場合、) 今まで読んだマンガ教材と比べて優れている
問 13	苦手部分の克服にマンガ教材を用いることは有効だと思う
問 14	基本分野の復習にマンガ教材を用いることは有効だと思う
問 15	この教材の続きがあったら読んでみたい

表 2 は平成 28 年 2 月 26 日に群馬工業高等専門学校電子情報工学科 3 年 44 名に対してアンケートを実施した結果である。

このアンケートでは、全 15 問中 14 問で肯定的な意見が過半数となった。問 1 の教材自体の親しみやすさに関しては、91% から肯定的であるとの回答があった。問 2 のキャラクターの親しみやすさについても、82% から肯定的であると回答があり、目指していた親しみやすい教材という要項は満たすことができたと考えられる。

一方で、キャラクターが魅力的であるかという問 3 に関

表-2 アンケート結果（電子情報工学科 3 年）

	肯定的評価 [%]	否定的評価 [%]
問 1	91	7
問 2	82	18
問 3	68	32
問 4	86	9
問 5	68	27
問 6	73	27
問 7	61	39
問 8	73	20
問 9	70	25
問 10	82	18
問 11	55	43
問 12	50	41
問 13	55	36
問 14	66	34
問 15	50	50

しては 68% が肯定的となっており、過半数とはなっているが、問 1 や問 2 に比べると低い割合となっている。キャラクターに対して感情移入をすることで学習をより楽しいものにするということがマンガの利点の一つでもあるため、これはより学習者にとって魅力的なキャラクターにしていく必要がある。

問 4 の容易に読み進めることができるか、という問については 86% と肯定的の割合が高かった。しかし、問 5 のコマ送りの読みやすさや、問 6 の重要部分がどこかわかりやすかったか、という問については予想していた肯定的の割合を下回ってしまった。これは、読みやすさを優先した結果、学習者への重要部提示があやふやになってしまったと考えられる。読みやすいマンガを描くためには、コマの大小などが重要部を提示するためだけに使えるわけではなく、本報告で作成した教材は、読みやすさを優先していた。この結果から、学習教材であることを考えると、コマ送りは読みやすさよりも、重点の提示を優先するべきであるといえる。文章量についても肯定的な割合が他の問に比べて低めであり、文字量が多かったと考えられる。

問 8、問 9、問 10 のマンガ教材の有効性を問う問題では、すべての質問において肯定的な意見が多数だった。

一方で、問 12、問 13、問 14 のマンガ教材の活用方法を問う質問では、どの設問においても 50% 前後と決定的な数値を得ることはできなかった。このことから、マンガ教材をど

のように活用したいかは学習者によってそれぞれであると考えられる。文字媒体教材と同じように、マンガ教材においても様々なレベルや学習層に合わせた教材の充実が必要であるといえる。

問 11、問 15 の本報告で作成した教材の最終的な評価については賛否が 50% 程度となってしまう、決定的な結果とはならなかった。しかし、現段階でアンケートを行った半数の学習者が既存教材よりも優れていると回答していることから、今後さらなる改善や、技術の向上を行うことで学習者が求める新しい形のマンガ教材を作成することが可能であると考えられる。

表 3 は平成 28 年 3 月 21 日の第 63 回応用物理学会春季学術講演会における発表 [9] の聴講者 10 名に対してアンケートを実施した結果である。

表-3 アンケート結果（応用物理学会聴講者）

	肯定的評価 [%]	否定的評価 [%]
問 1	100	0
問 2	100	0
問 3	90	10
問 4	100	0
問 5	90	10
問 6	100	0
問 7	80	20
問 8	100	0
問 9	90	10
問 10	100	0
問 11	100	0
問 12	70	10
問 13	100	0
問 14	80	20
問 15	100	0

このアンケートでは回答者数が 10 名と少ないために、統計的な信頼性は低い、ほぼ肯定的な評価を得られたものといえる。このような評価になった理由は、応用物理学会の聴講者は教育を行う側であり、教育効果の大きい教育教材に対する要求があるためであると考えられる。

この調査では、問 7 と問 14 における評価が若干低くなった。問 7 は重要性が分かったかどうかの表現であり、学生への評価と比較すると、教える側が重要である点と学生が重要である点と考える点にずれが生じているためと考えられる。また、問 14 は復習に対する有効性であるが、教育を

行う側としては教材の利用目的として学習内容の復習よりも動機付けを重視しているためと考えられる

7. まとめ

学習しやすい電気回路に関する教育教材として、マンガを用いた教材を作成し、その評価をした。まだ教材自体の完成度は不十分であるのにもかかわらず、おおむね高評価を得た。これにより、教材作成の意図に關しての理解と有効性の確認ができたものと思われる。

参考文献

- [1] 吉田佐治子, “教材としてのマンガ,” 摂南大学教育学研究, vol.9, pp.25–34, 2013.
- [2] 山内祐平編, デジタル教材の教育学, 東京大学出版会, 2015.
- [3] R. E. Mayer, The Cambridge Handbook of Multimedia Learn-Mayer, 2005.
- [4] 大黒孝文, 中村久良, 竹内真希子, 稲垣成哲, “理科実験が苦手な教師を支援するマンガ教材の開発と評価,” 日本科学教育学会研究会研究報告, vol.24, pp.83–88, 2009.
- [5] 後藤歩未, 大橋淳史, “マンガを使った教材開発,” 日本理科教育学会全国大会要項, vol.63, p.382, Aug. 2013.
- [6] 飯田芳一著, 山田ガレキ作画, パルスクリエイティブハウス制作, マンガでわかる 電気回路, オーム社, 2010.
- [7] 高橋達央, マンガ de 電気回路, 電気書院, 2009.
- [8] 大豆生田利章, 電気回路入門 I, ブイツーソリューション, 2011.
- [9] 大豆生田利章, 小林美桜, “マンガを用いた電気回路教材の開発,” 第 63 回応用物理学会春季学術講演会, 21a-P2-15, 2016.

Teaching Materials of Electric Circuits using Manga

Toshiaki OHMAMEUDA and Mio KOBAYASHI

Teaching materials of electric circuits using manga is made. This teaching materials are expected to make learners understand stories and contents in a comparatively short time than character media. The teaching materials based on electric circuits were made to take advantage of the above merits. The made material is evaluated by questionnaire survey for the 3rd grade students of information and computer engineering and the audience of the meeting of Japanese Society of Applied Physics. Despite the inadequacy of the accomplishment, the materials got a high rating. Thus this materials seems to have gained an understanding as to the intention of making materials.

1950年代のアメリカにおける原爆に抗議する日系作家 ヒサエ・ヤマモト

長井 志保*

吉永 益久**

(2016年11月24日受理)

はじめに

戦前のアメリカ政府による人種差別政策に戸惑う日系人にとって戦争の勃発は日系人強制収容という結果をもたらした。日系人の多くがアメリカ国籍を持つにもかかわらず人種の違いだけによって強制収容されたのである。本論では市民の基本的な人権を無視した日系人強制収容と戦争、人道に反する原爆投下に対して平和主義者であるヒサエ・ヤマモトが行った理性と勇気による抗議について考察する。ここで注目すべきことは、ヤマモトはそのような抗議を対日感情が極めて不穏な社会状況の下で行ったことである。その当時原爆投下について語ることの困難さを考えるに当たっては、彼女の抗議から30年以上過ぎた1995年にスミソニアン博物館で企画された原爆展が退役軍人協会をはじめ多数の市民、国会議員の反対によって中止となったことを想起しておくことが必要であろう。

1980年以降日系人による広島、長崎の原爆投下を扱った作品が出版され始めた。また日本人作家による原爆に関する文学作品も多く知られている。また、1995年以降それら原爆文学の存在する意義等についても議論されるようになった。こういった流れから考えると、ヤマモトの原爆投下に対する作品は、1951年という比較的早い時期に発表されており、これは世代を超えて対処すべき問題の提起であったと思われる。アメリカという多文化国家において人種偏見、強制収容、原爆投下に対して日系二世作家であるヤマモトの示したこの理性と勇気は、グローバリズムの進行する中であって、戦争の絶えない現代社会に生きる私たちの貴重な指針になるものと考えられる。

1. 真珠湾攻撃と日系人強制収容

日本からの出稼ぎ移民のアメリカ渡航が本格的になるのは1890年以降である。

当初日本人移民はその勤勉さにより快く受け入れられた。しかし移民が本格的になり、これらの移民の大半が農業に就労し、多くの日本人が農場を購入し、商売を始めるよう

になると徐々に排日感情が高まっていった。

そして、紳士協定によって移民を制限され、外国人土地法により土地所有が禁止され自営農民への道が閉ざされ、公立学校への入学禁止、白人種との結婚の禁止、さらに1924年移民法の成立により移民の全面的禁止と、日系人に対する人種差別はエスカレートしたのである。これら人種差別政策に対しては、日系移民はもとよりアメリカの大学で学んだ新渡戸稲造、内村鑑三らも怒りと批判を表明した（cf. イチオカ 274）が、アメリカは日米関係の悪化を意図したかのように、それらの政策を推し進めていったのである。

1941年12月7日（現地時間）の真珠湾攻撃によって、日本とアメリカは全面戦争に突入する。アメリカでの反日感情がヒステリー化していく中で、1942年2月にフランクリン・ローズベルト大統領は、行政命令（Executive Order 9066）を出すことによって、アメリカ太平洋沿岸に住む全ての日系人およそ12万人が、内陸部の砂漠や山岳地帯にある10ヶ所の強制収容所（Internment Camp）に収容された。この行政命令にはドイツ系、イタリア系住民も敵性外国人として含まれていたが、実際に強制収容所に収容されたのは日系人のみであった。これはドイツ人、イタリア人が白人であることも関係しているが、アメリカ社会に占める彼ら/彼女らの割合が大きいため、これらの人々抜きでは地域社会が正常に機能しなかったという理由に拠るところが大きい。このことはハワイの日系人の場合にも当てはまり（ダニエルズ 94,95）、ハワイでは一部の日系人が強制収容されただけであった。ハワイへの移民は上述の紳士協定の締結された1908年までに約15万人強に達していた（cf. ダニエルズ）が、真珠湾攻撃以降のハワイにおける日系人の強制収容問題は、アメリカ本土とはかなり異なる経緯を辿るため本稿には含めないこととする。

戦後約40年間、収容所体験は日系人の記憶の中で抑圧されてきた。日系人の文化において個人はその社会に恥や不名誉をもたらすべきではないとされ、彼ら/彼女らは収容体験に関して黙して語らなかった。また1950年代はマッカシー旋風が吹き荒れ、冷戦期の続くアメリカでは強制収容や戦争のことを語れるような社会環境ではなかった。日系人

たちの家族史における空白の部分、三世たちが問いかけ始めたのは1960～1970年代になってからであり、アメリカの多様なマイノリティ集団が権利拡張を推進した時代と一致する。そして、強制収容によって失われた資産に対する補償をアメリカ市民の権利として要求する二世、三世たちの運動が始まり、それは多くの日系人をはじめその他のアメリカ人をも巻き込んだ運動に発展していった。その結果ロナルド・レーガン大統領は、1988年に賠償法案（the Civil Liberties Act of 1988）に不本意ながらも署名をすることにより、日系人の強制収容に対して正式に謝罪し、収容された日系人に対して一人当たり2万ドルの賠償金が1990年から支払われるようになった（cf. ダニエルズ 195）。この強制収容に対する謝罪と補償という歴史的経験は、「日系人のアメリカへの信頼を回復させ、日系人にとってはアメリカ人としての国民意識を高めさせ」（森茂 180）た。以上のような日系アメリカ人の歩みは、多くの二世作家によって作品化されている（cf. 長井, 2013, p.149）。

2. ヒサエ・ヤマモトと強制収容

ヒサエ・ヤマモトは1921年カリフォルニア州に生まれる。十代で執筆活動を始め、27歳のとき投稿した作品が初めて文芸誌に採用され、その後も作家活動を続けアメリカにおける最優秀短編作家に選ばれた日系二世作家である。

彼女は第二次大戦後の反日感情の収まらないアメリカで高く評価された日系アメリカ人短編作家であり、その作品についてはこれまで多くの研究がなされている。ヤマモトが作品で取り上げるテーマは、日本生まれの一世の両親と二世の子供たちとの不安定な関係、アメリカにおける一世、特に女性の困難な適応状況、日系人強制収容所そしてその根底にある人種差別問題と、幅広い領域に達している。ヤマモト作品の多くは、ヤマモトの経験や見聞した出来事と密接に関連しているという点で自伝的な趣がある。しかし、ヤマモトの作品は深い理性に裏打ちされた内省的な考察を描出する点において、他の多くの二世作家による叙事的な回想録とは異なる。

二世は強制収容によって敵国人として周縁化され、個々人をも否定された。二世作家は白人読者との衝突を避けるために、際立つ個性のない“discursive agency”を描くことになり、作家個人の真情を吐露することを差し控える。こうして、二世作家は異常に読者を意識することにより、白人中心社会に受け入れられるような言葉を使用しながら自伝を書くという結果に陥る。さらに、彼ら/彼女らは強制収容において個人の主体性の否定にとどまらず、日系人社会全体のアイデンティティをも否定されたため、二世作家は“I am an American”ではなく“We are Americans”という集団的な従属性を意味する語彙を使用することによって、日系人の

“Americanness”に対する白人の疑いを否定しようと努める（cf. Traise Yamamoto 105-09）。

日系作家のこのような傾向は、敗戦した民族である日本人と戦勝国であるアメリカの政府及びアメリカ国民から終戦後受けた、あらゆる面における差別や制限等の抑圧の結果と考えられる。これはドイツが敗戦国となった状況下で、ユダヤ人がホロコーストを語る場合とは大きな違いがあったと理解すべきであろう。

1976年ヤマモトはジャーナルに記載された記事“... I Still Carry It Around”で、収容体験について「日系アメリカ文学は日系人の強制収容を抜きにしては語ることができない」（69）と述べている。またヤマモトは、収容体験を語ったドキュメンタリーのテレビ番組を見て、気が付くと泣き叫んでいたというエピソードも語っている。「このエピソードはおそらく1970～1974年頃の出来事だと推測される」（長井, 2012, p.149）が、約30年間も日系人強制収容という不合理な出来事が、ヤマモトの意識の奥深くに抑圧されたままになっていたことが分かる（cf. 長井, 2012, p.149）。

強制収容経験がヤマモトのトラウマとなって長い間彼女を抑圧していたことは彼女自身の語るところではあるが、作品のなかで自身の経験を一人称で語ることはない。しかしながら、トラウマはその形を変えながら多くの作品の中に表出する。ヤマモトがこの抑圧から自己を開放できたのは強制収容に対する補償運動において日系人がその体験を公の場で語り始めた1981年も過ぎて、ヤマモトにとって長年にわたる抑圧であった強制収容の根源となった人種偏見に対して彼女が到達した結論と思われる作品「フォンタナの火事」（1985）の発表以降である。

強制収容についてヤマモトはその長編詩「追放1942 - 45年」*を1981年に発表し、強制収容を痛烈に批判している。ここでは、彼女が強制収容の本質に触れた一部分だけを抜粋する。

We go through the motions
of living as though they are
of moment, accidie the order
of each day, as we play
at this hapless game of patience.
But this limbo is only the shadow
of the substance, even so.
The real horror, unbelievable
Even now, is left to others.

Hermetically sealed in this
arid semblance of bliss, we are
purblind: the skies will soon
entertain a flowering more

spectacular than all the cherry
blossoms of any given year
put together, so dazzling as
to be shrivel man's hope for aye;
as well as unaware of
millions more over there, uprooted,
handpicked much as we, being
refined in such stunning ways,
as to make our much too dusty,
much too sunny sojourn approach
in review, their land, usurped,
of milk and honey.

(*The Rafu shimpō* 19 December 1981)

動くことだけが生きてる証し
それも束の間。日々の秩序は
まるで意気があがらない。そこをくぐりぬけようと
おもしろくもないランプ遊び。
この煉獄も実体の影にすぎないのはたしか。
ほんとうの恐怖 いまでも信じられないが
ほんとうにほんとうの恐怖は
ほかの人たちにまかせる。

神の恵みともおもえる環境に
密閉されて 私たちは
半盲人。もうすぐ空が
花の季節をとどけてくれる。
一年分の桜を全部集めたよりも
豪華な光景
そのまぶしさに
可能性への夢がちぢんで
私たち同様 根こそぎにされ
おろぬかれる でも向こう側の
何百万人にはみえない
私たち同様 残酷なやりかたで
研磨される
ひどすぎる砂ぼこりとひどすぎる灼熱の
拘留をふりかえると
うらがえしになった白人たちの
乳と蜜の流れる国が二重写しになる。
(中山 9-18)

「ほんとうの恐怖は ほかの人たちにまかせる」という一節には、当時日系人を代表してアメリカ政府と折衝に当たった日系人市民協会 JACL (Japanese American Citizens League) の強制収容政策への協力的な態度に対する作者ヤマモトの批判を感じる。JACL は当時極度のアメリカ中心社

会への同化志向から、強制収容政策に「完全に同意」(ダニエルズ 100) していた。また、強制収容によって一民族を「去勢状態」にして滅ぼそうとするアメリカという国の本質を「乳と蜜の流れる」豊かな国とは裏腹な精神的に貧しい野蛮な国であると糾弾している。

3. 戦争に対する理性による抗議

「アメリカ批判の記事を掲載することは、たとえ表現に工夫を凝らしていたとしても、決して容易ではなかったはずである」(2008, p.404) と山本岩夫が指摘するように、ヤマモトが戦時に強制収容、また戦後原爆投下について抗議した時代は、言論の自由が許されている現代日本では理解しがたい社会状況であった。

収容所内ではアメリカに批判的な記事を出版物に載せないように戦時転住局が厳しい検閲をおこなっていた。「私たちは自己検閲をしていました」(『羅府マガジン』1992 年 12 月 12 日号) とヤマモトがいつているように、『ポストン・クロニクル』においても彼女たちは掲載記事に自己規制をしなければならなかった。(山本岩夫, 2008, p.404)

戦後においても日系作家は読者を意識して真情を語ることがを差し控えた。ヤマモトは『ポストン・クロニクル』で収容所を刑務所 (prison) と表現し、(1943 年 5 月 30 日) また日系兵士が、家族の市民権が戻るまでは軍務に復帰することはないと主張して、ポストン強制収容所にいる両親の元を去ろうとしなかった兵士についてヤマモトは、同情するエッセイを書いている (1943 年 4 月 18 日) (cf. 山本岩夫, 2008, p. 403-404)。

1943 年 1 月アメリカ政府は日系二世による戦闘部隊を編成するため志願兵を募集することを決定、「ローズヴェルト大統領は『アメリカニズムとは人種や祖先の問題では決していない』という声明を発表し、この決定を賞賛した」(ダニエルズ 131)。同じ大統領が 1942 年 2 月、日系人を人種の違い、日本人を先祖に持つだけの理由で強制収容所に送ったことは、皮肉なことであった。

ヤマモトの弟ジョン・ツヨシ・ヤマモトもこの部隊の一兵士として戦いイタリアで戦死している。ヤマモトは戦後間もない 1945 年に弟の回想録を新聞に掲載している。ヤマモトはこの回想録を、華々しい勝ち戦の様子を期待するアメリカ愛国者向けの記事ではない、と前置きして自分たちの家族のこと、弟にまつわる話を懐かしむように淡々と語っている (*Los Angeles Tribune*, Nov. 26, 1945)。しかしながら、ヤマモトはアメリカ国籍である弟が高校半ばにして家族とともに強制収容所に行かなければならなかったこと、未成

年の彼がアメリカ軍に入隊するため親の承認を必要とした時、両親はその国家によってアリゾナの収容所に入れられていたこと、そしてヨーロッパ戦線でアメリカ兵としてドイツ兵と戦い砲弾を胸に受けて戦死したという挿話も入れている。

これは、公民権を侵害されながらもアメリカ兵として戦死した弟の両親がアメリカ政府によって強制収容されていたという矛盾に対して、1945年という反日一色のアメリカ社会においてヤマモトに出来た精一杯の抵抗であったと思われる。

ヤマモトの作品「フィレンツェの庭」(1995)はこの弟の幼少時代から戦死に至るまでの家族にまつわる話が回想録として語られる。作品ではヤマモト自身をモデルとしていられる晩年の夫婦キミコとアルがイタリア、フランスを旅行して弟の墓のあるイタリアのアメリカ兵墓地を訪ねる様子が三人称の語りで語られる。キミコが弟の墓を探し当て、墓石に刻まれた弟の名前と対面した時の回想で「白い十字架の下にバラの花を置く。そしてキミコは46年前に聞いた弟の死の知らせが、たった今届いたかのように、身を切られるような悲しい喪失感に今さらながら襲われる。弟についてあれこれ想像することは、もうやめなければならない」(ヤマモト, 2008, p.369)と語っている。

キミコはアメリカ兵墓地を訪れ、そこの碑文の一つに「彼らは勇気を持ち、敵に近づき対峙した。戦闘の衝撃が起こった時、死が迫る彼らの目には、恐怖ではなく栄光に満ちていると思える世界から離れて、人生の頂点で一瞬恍惚感に浸った」とあるのを読んだ。「恍惚なのかしら、キミコはそうは思わない。もう読むのをやめる。腹が立つだけだ」(ibid., p.383)。弟が軍隊に入隊した理由である彼の「平和主義が理性よりも、むしろ感情に根ざしている」(ibid., p. 376)のとは対照的に、ヤマモトにとっての戦闘による死は栄光ではなく深い悲しみである。

この作品で弟が軍隊に志願したことについて、「突然、トミー[弟]は軍隊に志願したと家族に知らせてくる。彼のそもそもの平和主義が理性よりも、むしろ感情に根ざしていることにキミコはとても驚かされる。彼女はまた、正当な理由もなく、自分たちを強制退去させ、砂漠のなかに置き去りにした国のために武器をもつことの皮肉さに驚く」(ibid., p.376)と語ることから、ヤマモトが理性の人であることがうかがわれる。そのような理性をもつ彼女にとって、アメリカ政府による不法な強制収容は許し難い出来事なのである。

4. 原爆投下に対する抗議

山本秀行(2014)によれば、日系アメリカ・カナダ人による原爆に関する作品としては、ジョイ・コガワの『おば

さん』(1981)、ジェイムズ・N・ヤマザキの『原爆の子供たち』(1994)、ヒデコ・タムラ・スナイダーの『ある晴れた日—広島についてのある子どもの記憶』(1996)等があり、また日本においては、原民喜『夏の花』(1947)、太田洋子『屍の街』(1948)、井伏鱒二『黒い雨』(1960)などのものがある(65)。これらの作品はいずれも広島・長崎の被爆者の悲惨さと苦悩そして非人道的な原爆投下について語られたものである。

ヤマモトも原爆投下に関して終戦から間もない1951年より継続して新聞やジャーナルへの記事投稿および作品で取り上げている。ヤマモトのこれらの原爆に関する記事、作品の特徴は、上に紹介した原爆文学の作品が広島、長崎からの発信の形を取っているのに対して、その全てが日系人の原爆投下にまつわるアメリカからの発信の形で語られている点である。ヤマモトは井伏鱒二の『黒い雨』を読み原爆の惨事に圧倒されつつ夢中で読んだと対談で語っており、日本の原爆文学にも関心を示していることが分かる(cf. ヤマモト, 1987, p. 14)。

ヤマモトは、「The Streaming Tears」と題される短編において原爆を投下した爆撃機のパイロットの話を紹介している。このヤマモトの語りの底流には、原爆投下への抗議がうかがわれる。これは1951年12月20日に羅府新報に掲載されたもので、ヤマモトの父親がモデルと思われるパパがラスベガスの路上で原爆を投下したB-29爆撃機のパイロットと称する白人に出会った時の話を子供に話して聞かせるという形で語られる。

そう若くはない頭も薄くなりかけた小太りのパイロットの男は普通の服装をしており、酒に酔っている様子もないのに「原爆を投下することによって多くの人を殺した」と涙を流しながらパパの前で泣いた。彼は続けて「私にはどうすることも出来なかった、私が殺すか、さもなくば私が殺されるかだったのだ」と男は泣きながら語る。ヤマモトがモデルと思われる「私」はこの男が、賭博で文無しになったので泣いたのか、広島の惨事に対して泣いて見せれば、日本人が喜ぶとみて泣いて見せたのか、などいろいろな思いを馳せてみる。「私」は、原爆投下のボタンを押したという男が、悩んだ末にカナダの修道院に入ったとの三文記事扱いのニュースを新聞で読んだことを思い出す。もし、涙を流した男が修道院に行った男と同一人物であれば、パパから聞いたパイロットの話は「ユダの涙」にも似た悲劇であり美しい話である、と物語は展開されて巧妙な手法で原爆投下を暗に批判していると言える。

ここで注目したいのは、修道院に入った男の記事が三文記事扱いであったという単に事実を述べたような一節に、アメリカ社会の原爆投下に対する意識の低さへのヤマモトの抗議があるという点である。彼女はこの短編が終戦直後の社会に、そして軍事力を誇示する国家には受け入れられ

ないことを十分に認識していたと思われる。それでも、ヤマモトは人道に反する原爆投下を黙っていることは出来なかったのである。彼女の理性は黙認することを自身に許さない。ヤマモトは、アフリカ系アメリカ人に対する人種差別に抗議して、人種差別の抗議集会などに参加したこともあった (*Los Angeles Tribune*, July 5, 1947)。このように彼女は、義務として原爆投下を遂行した兵士の苦しみを描くことによって原爆投下を正当とする国家と社会に対して抗議したことが読み取れる。

『アメリカの中の原爆論争—戦後 50 年スミソニアン展示の波紋—』によると、アメリカ世論が原爆使用に賛成の方向に大きく傾いたことには以下のような経緯がある。「終戦直後の八月末に行なわれた世論調査では、アメリカ人の 85 パーセントが原爆の使用に賛成意見であった」(NHK 取材班 120)。しかし、1946 年 8 月 31 日、『ニューヨーカー』は、ジョン・ハーシーというジャーナリストの特集レポートによってヒロシマの惨事と荒廃の様子を伝えた。その結果、「原爆の投下に対する疑問や、原爆そのものの道義性を問う」(ibid., p.121) 世論が高まった。これに危機感を募らせたトルーマン大統領を含めた原爆投下決定に関与した人々は 1947 年「原爆使用の決断」と題するヘンリー・スティムソンの論文を『ハーパーズ・マガジン』に掲載した。その中で、原爆投下が「100 万人以上」(ibid., p.128) のアメリカ兵の犠牲者を未然に防いだ、と根拠のない数字を出す事により、世論は再び原爆使用に賛成の方向に大きく傾いたという。

その他ヤマモトは、1956 年に“A Man From Hiroshima” (*The Rafu Shimpō*, 20 December 1956) の記事で、帰国していた妻と 2 人の子である家族全員を原爆で亡くし孤独となった日系人画家が、酒に溺れるようになり施設で暮らしていると、戦争と原爆投下のもたらした悲劇も紹介していた。

『ヒロシマ・イン・ザ・モーニング』の中で、著者レイナ・レイコ・リズットが、被爆者とのインタビューを通して 9・11 を含めた「アメリカで進行中のテロよりも、五十年以上前の広島原爆の方がはるかに『常軌を逸していた』ものであったことに気が付いた」(70) ことを山本秀行は言及し、次のようにも続ける。

リズットはアメリカの 9・11 テロと広島・長崎の原爆を関連づけて捉えているようにも見える。これとは対照的に 9・11 テロの直後のアメリカにおいて、愛国主義に駆られた多くのマスメディアは、その卑劣な事件を 1941 年 12 月 7 日の日本軍による真珠湾攻撃と関連させ、「第二のパール・ハーバー」(“Second Pearl Harbor”) と呼んだ。つまり、アメリカの一般大衆にとって 9・11 のテロによって呼び起こされたトラウマ的集合的記憶とは、真珠湾攻撃であったとしても、決して

て広島・長崎の原爆ではなかったのである。(70)

1995 年にスミソニアン博物館で企画された原爆展が退役軍人協会をはじめ多数の市民、国会議員の反対によって中止となったが、原爆投下をめぐって一般市民、歴史学者、政治家、ジャーナリストをも含んださまざまなレベルにおける活発な論議をまきおこした。この事実は原爆投下にアメリカ社会が高い関心を示したことの証明である。そのような議論の輪が世界に広がり、人々が広島・長崎の惨事が人類滅亡につながるという認識を深めていった時、現在一向に進展を見ることのない核拡散防止条約のあり方も変わってくるのではないだろうか。今回開かれた核拡散防止条約再検討会議 (2015) において日本は「各国の指導者が広島・長崎の被爆地を訪問すること」を提案したが合意に至らなかった。ニューヨークの 9・11 テロによる大量殺人が広島・長崎の惨事を人々に呼び起こす日は、まだまだ遠いのである。

ヤマモトは俳優の William Schallert や歌手の Joan Baez が参加した反核兵器運動に自分も参加したことを 1986 年 12 月 20 日の *Rafu Magazine* に以下のように書いている。65 歳を超えた彼女は、今ではそのような催しに参加しても会場の縁で柱にもたれかかりながら座って活動家に拍手しているが、彼女の信念が緩んだわけではない。希望の見えない世界情勢にあつて、出来ることはこのような方法しかないと確信する。バスに乗って会場に行き、そこで若者たちに拍手をする。ひどい遺物、くだらない形見そして欲しくもない相続と対面しながら、勇気と愛で正面からこの難問に向かい合っている若者たちは、世界は守るに値する美しいところであることを知っているのだ。(cf. *Rafu Magazine*, 1986)

ヤマモトの 40 年以上にわたる作品や活動を概観すると、理性によって判断し行動する人物であり、彼女の平和主義も理性に支えられた強さを持っていること、その平和主義に基づいて勇気ある抗議を実践していたということが言える。

5. 注

1) ヒサエ・ヤマモトの詩“Exile 1942-45”の日本語訳は、中山容、新井弘泰の訳を使わせていただいた。

ヤマモトの『ヒサエ・ヤマモト作品集—「十七文字」ほか十八編—』からの引用文の訳文については、邦訳を使わせていただいたが、一部文章を変更している。

本稿は「ヒロシマとナガサキへ投下された原爆について考える二世女性の姿」(ii) を示したヒサエ・ヤマモトの“The Streaming Tears” (1951) を含めた *Six Short Stories by Japanese American Writers* (1992) と、戦後まもない時期から戦争や原爆投下を批判した「ヤマモトの勇気」(402) に注目した

ヒサエ・ヤマモト作品集—「十七文字」ほか十八篇—(2008)の山本岩夫・桧原美恵による訳者あとがきに着想を得ている。

本論は、第30回異文化コミュニケーション学会年次大会「未来に向けてのダイアログ：戦争と平和を考える」(桜美林大学 2015 年 9 月 20 日)における口頭発表に加筆修正したものである。

謝辞

本研究は、平成 27 年度若手教員奨励研究の助成を受けました。

引用文献

- Daniels, Roger. *Prisoners Without Trial : Japanese Americans in World War II*. New York: Hill and Wang, 1993. ダニエルズ『罪なき囚人たち—第 2 次大戦下の日系アメリカ人』川口博久訳, 南雲堂, 1997.
- Ichioka, Yuji (1988) . *The Issei: The Word of the First Generation Japanese Immigrants, 1885-1924*. NY: The Free Press. イチオカ『一世—黎明期アメリカ移民の物語り—』刀水書房, 1992.
- Rizzuto, Rahna Reiko. *Hiroshima in the Morning*. New York: Feminist P, 2010.
- Yamamoto, Hisaye. "Small Talk" *Los Angeles Tribune* 26 November 1945: pp.20-21.
- _____. "Small Talk . . ." *The Los Angeles Tribune* 5 July. 1947: p.19.
- _____. "The Streaming Tears." *Rafu Shimpō* 20 December 1951: pp.22-24.
- _____. "A Man From Hiroshima." *Rafu Shimpō* 20 December 1956: p.9.
- _____. "Exile 1942-45." *Rafu Shimpō* 19 December 1981: Section II Holiday Supplement: pp.20-21.
- _____. "Yellow Leaves." *Rafu Magazine*, 20 December 1986: pp.36-39.
- _____. (1987) . 「移民一世の世界」, 中山容 (聞き手・編集・訳) 『思想の科学—海外日本人の想像力北アメリカより』No.93, 思想の科学社発行, pp.14-18.
- _____. (1992) . "The Streaming Tears." 山本岩夫, 桧原美恵, 小林茂 (編注者) *Six Short Stories by Japanese American Writers* 音羽書房鶴見書店.
- _____. " . . . I Still Carry it Around." In King-Kok Cheung (ed.) , *Seventeen Syllables / Hisaye Yamamoto*, Rutgers University Press, 1994: 69-70.
- _____. *Seventeen Syllables and Other Stories*. Revised and Expanded Edition, Rutgers UP, 2001. ヒサエ・ヤマモト『ヒサエ・ヤマモト作品集—「十七文字」ほか十八編—』山本岩夫, 桧原美恵訳 南雲堂フェニックス, 2008.
- _____. "Exile 1942-45." *Rafu Shimpō* 19 December 1981: Section II Holiday Supplement: 20-21.
- Yamamoto, Traise. *Masking Selves, Making Subjects: Japanese American Women, Identity, and the Body*, California University Press, 1999.
- 中山容, 新井弘泰訳編 (1985) 『日系アメリカ・カナダ詩集』世界現代詩文庫.
- 長井志保 (2012) . 「ヒサエ・ヤマモトの "A Fire in Fontana" における人種差別と 'Fear of Responsibility'」『教育実践学論集』第 13 号, pp.147-154.
- _____. (2013) . 「日系アメリカ人強制収容と日系二世作家ヒサエ・ヤマモト—人種差別体験の共有にともなう苦悩」『インターカルチュラル』第 11 号, pp.147-163.
- NHK 取材班 (1996) . 『アメリカの中の原爆論争—戦後 50 年スミソニアン展示の波紋—』ダイヤモンド社.
- 森茂岳雄 (1999) . 「アメリカの歴史教育における国民統合と多文化主義」, 油井大三郎・遠藤康生 (編者) 『多文化主義のアメリカ—揺らぐナショナル・アイデンティティ』東京大学出版会, pp.165-185.
- 山本秀行 (2014) . 「日系アメリカ人が描いた〈ヒロシマ・ナガサキ〉—日系アメリカ人原爆文学における記憶と物語」小林富久子 (監修) 石原剛・稲木妙子・原恵理子・麻生享志・中垣恒太郎 (編者) 『憑依する過去—アジア系アメリカ文学におけるトラウマ・記憶・再生』金星堂.

Nisei Writer Hisaye Yamamoto's Protest against Atomic Bombing in the 1950s

Shiho NAGAI and Masuhisa YOSHINAGA

This paper examines the courage in the 1950s of Hisaye Yamamoto, one of the most well-known Nisei writers. While other Japanese American writers mentioned atomic bombing only after 1980, Yamamoto voiced protest against the use of nuclear weapons in Hiroshima and Nagasaki in “The Streaming Tears” in 1951. In this story, she criticized the low level of US public awareness concerning atomic bombing. At the time of publication, anti-Japanese sentiments had not yet been suppressed, and the US and Russia were competing in a nuclear arms race during the Cold War. Yamamoto may have fully recognized that her works would not be accepted in the US, which boasted a strong military force. However, she was intolerant of atomic bombing, which disregarded the laws of humanity. By describing the suffering of an A-bomb pilot, she protested against the use of nuclear weapons justified by the US government.

オーストラリア外国語教育政策が教育現場にもたらす影響 —学習者の意識調査を通して—

長井 志保*

吉永 益久**

(2016 年 11 月 24 日受理)

1. 研究の目的

オーストラリア(以下豪州)における外国語(LOTE: Language Other Than English)教育には連邦政府の政策が大きく反映されている。本論文においては、外国語教育政策と経済の変化が日本語教育に及ぼす影響を包括的に概観しつつ、ハイスクール A における日本語学習に対する意識の変化を調査する。そしてこの政策の目的が教育現場の実情に適合しているのかを探り、これらの調査結果をもとにオーストラリアの外国語教育政策がいち教育現場にもたらす影響を考察する。

2. 豪州における外国語教育政策と日本語教育

第二次世界大戦が終わり 1957 年に通商協約が締結されると、オーストラリアは主に経済的な理由から 1970 年代には白豪主義を放棄し、アジア重視の外交と多文化主義へと移行していった。1987 年には連邦会議において英語及び外国語に関する政策が承認され、日本語は 9 優先学習語の一つに取り上げられた。その後、日本語はオーストラリアの主要貿易国としての地位を背景に重要視され学習が奨励された結果、学習者の数は 1978 年から 1998 年の 20 年間に約 40 倍となり、日本語教育の「津波」と言われた。

1994 年、連邦政府と各州・地域の教育省は専門調査団を設け、「オーストラリアの学校におけるアジア語・アジア学習推進計画」(NALSAS: The National Asian Languages and Studies in Australian Schools Program)と総称する事業計画に着手した。NALSAS 計画では中国語、日本語、インドネシア語そして韓国語の教育を 1996 年から導入して、2006 年までに 3 年生から 10 年生(日本の高校 1 年生)の全ての生徒の 60%と 12 年生の 15%がそれらの言語の 1 つを学習することをその目標とした(国際交流基金,2013)。1980 年代後半から 1990 年代前半にかけて連邦政府が中心となり、アジア言語重視

の政策を次々と策定し、日本語教育を発展させる上で大きな役割を果たした。

1996 年に実施された連邦議会議員総選挙の結果、1983 年から約 13 年間にわたって政権を維持した労働党が敗れ、自由党と国民党の連立政権が誕生した。2002 年連立政府は、NALSAS の補助金を 2003 年に打ち切る方針を決めたが、その結果、2000 年から 2008 年の間に日本語の初等・中等学習者はオーストラリア全体でそれぞれ 21%減少及び 6.4%減少となった(Asian Education Foundation,2010)。2007 年の選挙で復権した労働党政権は、2002 年に打ち切られた NALSAS を復活させるべく新しいプログラムとして「学校におけるアジア語・アジア学習推進計画」(NALSSP: National Asian Languages and Studies in Schools Program)を 2009 年に立ちあげた。このプログラムで重点言語とされているのは、NALSAS の時と同じく、中国語・インドネシア語・日本語・韓国語の 4 言語である。2007 年当時、12 年生のうち約 13.4%が外国語を選択し、そのうちアジア言語を学習しているのは、全体の 6%に過ぎず NALSAS 政策が目標とした 15%の半分にも達していなかった(Asian Education Foundation,2010)。こうした状況下、2008 年にジュリア・ギラード副首相(兼教育・雇用・労使関係大臣、後首相)は NALSSP を押し進める理由として、主に経済的・商業的な理由からアジアを重視した異文化理解の重要性を挙げている。このように、アジア言語教育の推進は、経済と安全保障の点においてオーストラリアの国益に資するという観点から実施されたものであり、このような点においては 1987 年からの基本的な方針は変わっていないといえる。NALSSP 計画は 1990 年代の NALSAS 計画を復活させたものであり、NALSSP、NALSAS 計画ともに、「オーストラリア経済の将来」あるいは経済的な「国益」のためのアジア言語教育政策である(嶋津,2010)。これらの計画において日本語は選択可能なアジア語の一つであるが、特出した日豪経済関係により 1980 年代、1990

年代にその学習者数を急速に伸ばしていった。NALSAS 計画は連邦政府の政権交代の結果、予定より 4 年早く 2002 年に終了した。2007 年に政権に戻った労働党政府は、学校教育におけるアジア語クラスの増加、アジア語研修・アジア語教師支援の強化等を図る NALSSP 計画を立ち上げ、その計画は 2012 年に終了している。

NALSSP 終了後の 2012 年 10 月に発表された白書『アジアの世紀におけるオーストラリア』(Australia in the Asian Century) において、日本語は、中国語、ヒンディー語、インドネシア語とともに学校教育段階で学べき 4 言語のひとつに位置付けられた(後に韓国語が追加され 5 言語)。同白書は、主に経済的な観点から書かれているが、学校教育においてアジアをさらに理解できるようアジア文化と言語をより深く理解することを目指している(中島, 2014)。日本語はオーストラリアの主要貿易国としての地位を背景にその学習者数は他のアジア語を圧倒してきたのであるが、その急速な発展による教師の育成、教育制度、シラバスの整備等に課題がみられた。近年、それらの課題に対して改善が試みられてはいるものの解決すべき課題は多い。

以上のように、オーストラリアの学校における外国語教育は、連邦政府の政策が大きく反映されていることが分かる。日本語学習者の 1980 年代、1990 年代における増加及びその後 2000 年代における減少にもこの政策が深く関わっている。2004 年から 2013 年の間に政権交代によって外国語教育政策は大きく変化した。さらに、この期間にオーストラリアの対中国貿易は劇的に増加しており、現在の主要貿易国は中国であり、将来は日本語に代わり中国語学習のさらなる発展が予測されるようになった。本論文においては、外国語教育政策と経済の変化が日本語教育に及ぼす影響を包括的に概観しつつ、ハイスクール A における日本語学習に対する意識の変化を調査する。そしてこの政策の目的が教育現場の実情に適合しているのかを探り、これらの調査結果をもとにオーストラリアの外国語教育政策がいち教育現場にもたらす影響を考察する。

3. 現地調査

3. 1 ハイスクール A の日本語学習状況

オーストラリアでは、日本語クラスを取り入れている学校の 75% が公立のハイスクールであり、最も平均的な家庭の子弟が通うのも公立のハイスクールである。ニューカッスル地区において日本語クラスのある公立ハイスクールの中でも外国語教育とりわけ日本語教育にも熱心な学校として、筆者はニューサウスウェール

ズ州公立ハイスクール A を調査対象校に選んだ。そこでアシスタント教師を務めながら、同校の語学教師(4 人)と生徒からの聴き取り調査を行った。その後、日本語学習に対する意識及びそのほかの問題点を明確にするためのアンケート調査を日本語学習を経験した全校生徒に実施した。実施時期は、2004 年 5 月末と 2013 年 8 月初旬の 2 回である。

教師に対するアンケート調査は、個人研究の場合非常に困難であったが、ニューカッスル地区の日本語教師の会合にハイスクール A の教師と共に出席する機会を得た。そこで、20 数名の出席者のうち 12 名から回答を得ることが出来た。サンプル数が少なく信頼できる結果とは言い難いが、貴重な調査結果だと思われるので取り上げることにした。

表-1 ハイスクール A における外国語履修生徒数(人)

学習者数	2004 年		2013 年	
	Yr.7-10	Yr.11, 12	Yr.7-10	Yr.11, 12
日本語	268	2	130	0
独語	50	2	0	0
仏語	42	8	0	0

表-1 において 7-10 年生に学習者数が特に多いのは、必修である外国語をこの学年で勉強することを選択する生徒が大部分であるという理由による。しかし、必修でなくなると生徒数は激減して、11、12 年生と後期中等教育修了試験(以下 HSC: Higher School Certificate; 日本における大学入学試験を兼ねた高校卒業資格試験)を目指す段階になると、日本語選択者数はごくわずかとなる。2004 年には 11、12 年生の生徒数が少なくクラスが作れないため、1 人の 12 年生の授業はシドニー在住の日本人教師による通信教育で行われていた。これはハイスクール A に限らず、一般にハイスクールの日本語教師の日本語力が上級レベルを教えるのに十分ではないという事情にもよる。

3. 2 日本語教師と学習者へのアンケート (2004 年及び 2013 年実施)

ハイスクール A で日本語を学ぶ生徒に対してアンケートを行った。2004 年の調査では 107 人で、その内グループ I (7、8 年生 計 98 人)、グループ II (9、10 年生 計 9 人)を、2013 年には 103 人で、その内グループ I (7 年生 95 人、8 年生日本語選択者なし)、グループ II (9、10 年生 計 8 人)を対象とした。アンケートは上述のグループに質問用紙を配り各自適当と思う

答を選んでもらう方式を取った。その回答数を当該年度の全回答数で割り、図にその割合をパーセンテージ

で示し、2004年と2013年を比較した。

表-2 日本語学習の目的（複数選択可）

		①日本文化理解	②旅行・国際交流	③上級の勉強	④就職	全回答数	対象者人数
グループⅠ 7,8年生	2004年	41	35	11	10	97	98
	2013年	28	57	8	12	105	95
グループⅡ 9,10年生	2004年	3	6	5	1	15	9
	2013年	1	6	1	0	8	8

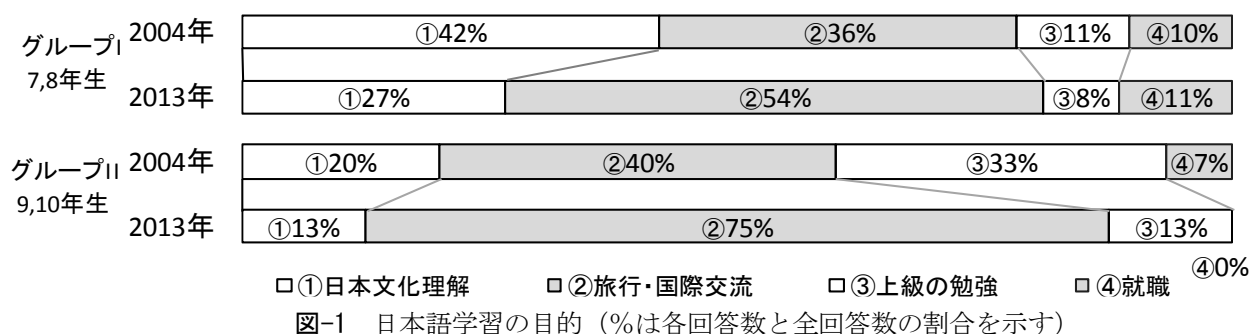


表-3 日本語学習において重要だと思うこと（複数選択可）

		①会話力	②読み書きの力	③日本文化理解	④日豪関係理解	全回答数	対象者人数
グループⅠ 7,8年生	2004年	44	23	17	17	101	98
	2013年	68	36	33	10	147	95
グループⅡ 9,10年生	2004年	7	2	6	0	15	9
	2013年	5	2	3	1	11	8

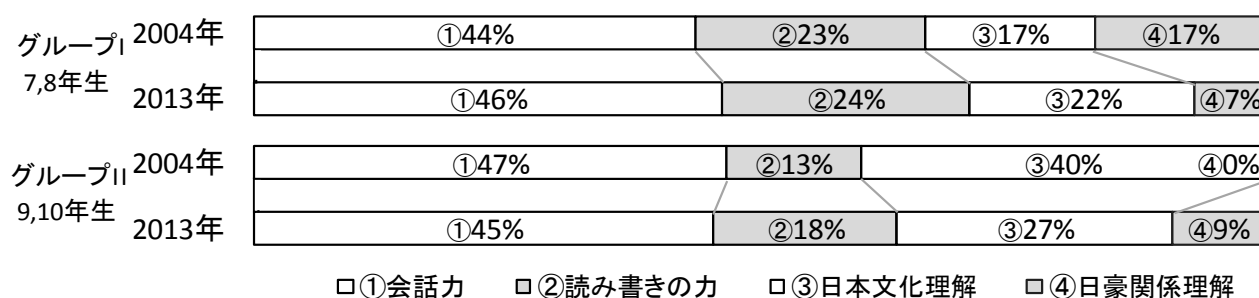
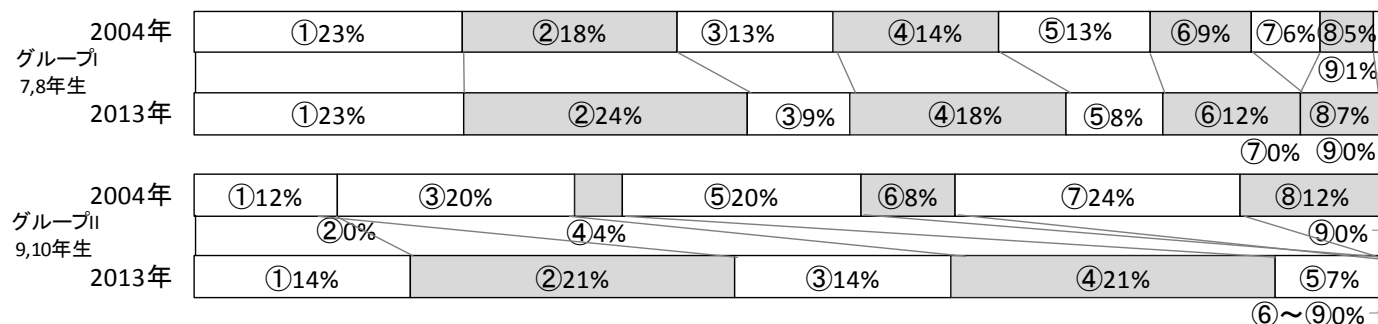


表-4 では、“What problems do you have to improve Japanese classes? (please select three)”と質問し、以下の選択肢から回答を求めた。①Japanese language is too difficult ②Lack of attraction to Japan and Japanese (include travelers) ③Lessons are too fast ④Not much

benefit for employment ⑤Too many students in one class ⑥Not enough exchange student scheme ⑦Assessment of Japanese language is too low in HSC ⑧Not enough scholarship program ⑨Others please specify

表-4 日本語の勉強意欲を妨げる要因（複数選択可）

- ①日本語が難しすぎる ②日本や日本人の魅力の欠如 ③授業についていけない
 ④就職に役立たない ⑤1クラスの人数が多すぎる ⑥交換留学生のプログラムが少ない
 ⑦HSCでの評価が低い ⑧奨学金を受けられる機会が少ない ⑨その他



		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	全回答数	対象者人数
グループI 7,8年生	2004年	55	44	32	34	31	21	14	11	2	244	98
	2013年	55	58	21	44	20	28	0	16	1	243	95
グループII 9,10年生	2004年	3	0	5	1	5	2	6	3	0	25	9
	2013年	2	3	2	3	1	3	0	0	0	14	8

図-3 日本語の勉強意欲を妨げる要因（％は各回答数と全回答数の割合を示す）

次に、ニューサウスウェールズ州ニューカッスル地区のハイスクールで日本語を担当する12人のオーストラリア人の教師に2004年にアンケートを実施した。

表-5において質問はアンケート方式で適当と思われる事項を複数選択可として、結果は回答数によって優先順位を付けた。

表-5 日本語教師へのアンケート（複数回答可。3位以下は省略した。）

		1位	2位	3位	全回答数
Q1	日本語教育で重要なこと	会話8人	読み書き4人	日豪関係理解2人	17
Q2	日本語教育の目的	国際交流・旅行9人	就職3人	日本文化理解3人	16
Q3	日本語指導で困難な点	漢字・仮名5人	文法5人	読解3人	19
Q4	学習を補助する道具	日本語でのゲーム11人	AV機器11人	写真・イラスト10人	62
Q5	日本語教育の問題点	学習意欲の欠如8人	難しすぎる7人	HSC低得点5人	31

3. 3 アンケート結果に対する考察

まず、生徒および教師とも会話を重視している。これを表-3でみると、グループI（2004）の98人中44人（45%）が会話を選択したが、同グループ（2013）では95人中68人（72%）に跳ね上がっている。しかし、これを全回答数の割合でみると図2にあるように44%、46%と大きな変化はみられない。図1、図2の結果をみると、生徒は高学年になるほど旅行・国際交流のために会話を学習する傾向があり、教師も旅行・

国際交流を教育目的の第一に上げている。その一方で、日本文化の理解を重要とし、学習を大学または就職後も継続したい、とする割合は下がっている。日本文化の理解に関しては、低学年の生徒がその重要性和学習の目的を認めているが、教師と2013年の高学年はそうには考えていない。教師や生徒が目指す旅行・国際交流を目的とした会話中心の日本語教育は、語学教師不足および教師の能力不足などの理由によって、難しい読み書きを含めた語学教育から、より現実的な会

話中心の教育に移行しようとしているものとも考えられる。

生徒・教師ともに、日本語が難しすぎるとの意見も多いが、これは教える側の教師の日本語力にも深く関わる問題でもある。日本語教師は日本語の読み書きや文法が難しいと感じているが、ハイスクール A の場合、日本語学習者の急増に対応するため、ドイツ語やフランス語を教えていた語学教師が 1、2 年間の日本語研修コースを学びながら、日本語教師を務めていた。Nicholas (1993) によると、教えている言語の能力にもっとも自信がなかったのが日本語の教師であった。ほとんどの教師がクラスで使う限られた構文の練習問題を準備する程度の日本語力しかないことを認めている。その他、読み書き会話についても、大多数の教師が自分の日本語力は要求されるレベルに達していないと認めている。11、12 年生の高学年で日本語を導入するには、担当する教師は、HSC との関係から各州で定めた日本語教育シラバスの内容に精通しているとともに、比較的高度な日本語運用能力が必要とされるが、現状ではその条件を満たす教師の数が不足している。

教師に対するアンケート結果によると、教師が挙げた日本語教育の抱えている問題点として、生徒の学習意欲のなさがあった。教師は日本語学習用ゲーム等を使って学習意欲を高めるために多大な努力を払っているが、アンケートでは日本語学習の難しさや、HSC での評価点が低いという学習意欲にとってマイナス要因の不満があった。日本語学習の困難さに対してヴィクトリア州では大学入学試験において、ボーナスポイントを与えており、また各大学によって、同様な特別措置を取っているところもある。2015 年におけるハイスクール A の教師の話では、HSC の日本語採点者が日本語と中国語の漢字の差異に気が付かず、中国語で書かれた箇所を正解としていたことがあったという。また HSC における成績順位の計算 (Tertiary Entrance Rank Calculation) は生徒の科目選択に多大な影響を及ぼすが、教師、学校がコントロールできる範囲を超えており、適切なレベルによる HSC の問題作成と語学教育全般にわたる強力な日本語教育の方針が必要である (国際交流基金, 2013)。図 3 では 2013 年になると、HSC に関する不満はなくなっているが、これは進学のための上級クラスが無くなったために、生徒が日本語を HSC の対象とは全く考えなくなったからといえる。日本語のバックグラウンドを持つ生徒に対しても、HSC 検定科目に日本語の選択が認められているが、それを不公平だとして「ネイティブ」向けの試験が別に設けられている州もある (国際交流基金, 2010)。

図 3 において、日本語の勉強意欲を妨げる要因とし

て、日本や日本人の魅力の欠如を理由に挙げた生徒らがいる。生徒の意見が両親や社会から少なからず影響を受けているとすれば、社会の一部は日本と日本人を必ずしも好意的に受けとめているだけではないということもできるかもしれない。オーストラリアでは 2004 年当時でも第二次世界大戦時下における日本人の理不尽な残虐行為を取り扱った映画がテレビで放映されており、それらの影響も無視できないという現地在住 40 年の日本人の声も聞かれた。また、日本語が就職には役立たないという回答であるが、事実ハイスクール A の生徒の平均的な日本語レベルでは日本語能力を活かした就職は難しい。2007 年の NALSSP 政策や 2012 年の白書では、経済的、商業的な理由からアジア語教育を重視し、修得した語学力をオーストラリアの外交、経済、商業における利益につなげることを目標としているが、それには相当高いレベルの語学力が必要となる。しかしながら、ハイスクール A の現状を表-1 でみると、低学年 (7-10 年生) の学習者数は、2013 年の時点では 2004 年の半数以下である。2013 年になると、高学年 (11、12 年生) のクラスはなく、高度な教育が出来る状況ではないことが分かる。前述のように 2000 年から 2008 年の間に日本語の初等・中等学習者がオーストラリア全体でそれぞれ 21% 及び 6.4% 減少し、さらに中国語を除いたアジア語の学習者は近年減少の傾向にある。

2004 年時におけるハイスクール A のクラス編成の難しさについての同校教師の説明によると、9 年生からは日本語が大多数の生徒にとっては選択科目になり、日本語を選択する生徒数は激減する。9 年生の学習者数は 7 人で 10 年生が 10 人であったが、1 クラスを作るためには 15 人以上の生徒数が必要である。このため、9 年生と 10 年生の独立した 2 クラスを作ることができない。そこで、9、10 年生の混合クラスで、各学年週 4 時間の日本語の授業時間を 2 時間は 9、10 年生の混合クラス 17 名で、残りの 2 時間は 9、10 年生それぞれ独自のクラスで授業を行っていた。この 9、10 年生混合クラスは 2 つの学年が混ざっているだけではなく、実際には 4 つの異なる日本語レベルの生徒が混在する。① 9 年生で初めて日本語を選択した初級者 (1 人)。② 7、8 年生で日本語を選択してきた 9 年生の中級者 (6 人)。③ 7、8、9 年生と日本語を選択してきた 10 年生の上級者 (8 人)。④ 過去に日本語を選択したが 9 年生では日本語を履修しなかった 10 年生の中級者 (2 人)。このように 4 つの異なる学力レベルの生徒が混在したクラスでは、十分な授業が出来ず生徒の不満が出ることとなり、高学年の 11、12 年生でさらに日

本語を勉強しようとする生徒は減少してしまうのではないかと懸念された。Asian Education Foundation (2010) はケース・スタディーとして、日本語教育を15年以上にわたって成功裏に行ってきたハイスクールの直面した課題を提示している。このハイスクールでは11年生12人と12年生9人の日本語学習希望者がいたが、クラスを作るには最低15人を必要とするという規則により、それぞれクラスを作ることができず、学校は2クラスの合併か、通信教育を行うという案を出したが、生徒はそのような学習環境に不満を示した。同様な課題は2004年にハイスクールAでも見られた現象であり、日本語教育の将来のためには上級クラスの存在が不可欠である。2010年にHSCのために外国語を選択している生徒はオーストラリア全体の約13%に過ぎないが、その中でアジア語を選んだのは6%であった(国際交流基金,2010)。しかも、ハイスクールにおけるコースによっては、アジア語を選択する余地はない。例えば、エンジニアリングコースでは理系科目の学習で、時間割が埋められる。またその他のコースでも、受験の選択科目数が4科目の場合、選択順位が5、6位の語学が選択される余地はほとんどない(Asian Education Foundation,2010)。ハイスクールAの外国語履修(必修)は2013年現在日本語のみで行われているが、大学における日本語学習につながる11、12年生の日本語クラスはなく、日本語を教えることができる語学教師の数も大幅に削減されている(2004年3人、2015年現在1人)。こういった状況の継続が、同校の日本語教育をより衰退させる可能性を窺わせている。

4. 外国語教育政策がいち教育現場にもたらす影響とその後の課題

「津波」と呼ばれる日本語学習者数の急激な増加は日本とオーストラリアの経済関係に起因していると認識されており、1992年のオーストラリア全輸出において日本向け輸出は約20%を占め、その輸出額は日本向け152億豪ドル、中国向け23億豪ドルであった(オーストラリア統計局)。同時期における学習者数は、日本語26万人に対して中国語は5万人であった(Asian Education Foundation,2010)。また、2007年になると輸出額は、日本向け319億豪ドル、中国向け238億豪ドル(日本外務省統計局)と日中ほぼ同レベルとなり、この時期NALSAS補助金廃止のあおりを受けて日本語、インドネシア語、韓国語の学習者数は大幅に減少したが、中国語学習者数は逆に

増加した(Asian Education Foundation,2010)。

1990年代後半期に日本の大手金融機関の経営破綻が相次いだ間にも日本語学習者数は増加し、逆に日本語学習者数が減少したのは日本経済が回復傾向にあった2003年から2006年のことである。このことから、日本経済の状況と日本語学習者数の動向は必ずしも比例せず、1990年代後半の場合は、NALSAS計画の存在が日本語学習者数の下支えをしていたことに対して、日本経済の回復傾向にあった21世紀初頭の場合はNALSAS計画が中止されたため、日本語学習者数も減少した。しかしながら、NALSAS計画の対象言語のひとつであった中国語の場合は、その学習者数が同計画の中止後に急増しているという事実を勘案するならば、日本語学習者数の大幅な減少はNALSASの打ち切りだけによる現象とは言い切れない(嶋津,2010)。

2013年になると中国向けの輸出は943億豪ドル、日本向けは470億豪ドル(日本外務省統計局)と立場は完全に逆転して、中国はオーストラリアにとって最大の輸出国であった。こういった経済事情から、2003年以来、減少の傾向にあるアジア語学習者数は、日本語も含めてさらに減少し続け、唯一、中国語学習者数は増加した。ハイスクールAの場合、中国語を取り入れていないので、この傾向を正確には確認できないが、ハイスクールA低学年(7-10年生)の日本語学習者数は、2004年(268人)から2013年(130人)の時点では半数以下となっていた。

2013年の時点では、アジア系の言語で唯一、中国語学習者数は増加していくと思われたが、2016年現在では、予想に反して中国語履修者は激減している。これは、オーストラリアの中国向け鉄鉱石や石炭等の輸出において中国の経済状況の悪化による価額の下落と、将来の中国経済と輸出に対する不安感がオーストラリア経済に及ぼしている影響や、南シナ海における中国の進出や、オーストラリアの土地や不動産を中国人投資家らが次々に取得していることなどに対して、オーストラリア社会が反発していることが影響していると言えるかもしれない。

2章で述べた連邦政府のアジア言語教育政策によって、当初アジア語、特に日本語は学習者数が著しく増加したが、その政策に対するオーストラリア社会の代表的な論評は、概ね次の三つの論調にまとめることができる。ひとつ目はアジア言語教育政策がオーストラリアのアジア重視の政策の裏付けとしての外交的な意義しかもたず、現在の限られた時間と予算で得られる語学力では経済的にも文化的にも役立つものではない。オーストラリアは英語がグローバルな言語である利点

を生かし、アジア語よりも他に学ぶべき事は多い (Berg, 2012) との論調である。ふたつ目の論調は、中国、日本、インドネシア等のアジア諸国がオーストラリアにとって重要である事は誰も否定する事は出来ず、それらの国々の言語を学ぶとともに、その国の習慣や文化を理解し、それらの国々を理解することは大切であり、このアジア言語教育政策はオーストラリアが「アジアの世紀」に参入するためにも必要であるというものである (Jericho, 2011)。第三として、嶋津 (2010) が取り上げているオーストラリア全国紙 *The Australian* の Luke, S. (May 19 1995) の記事 *Students speak the wrong language* を挙げる。オーストラリアは地理的にはアジアに位置しているものの、ヨーロッパ文化を基礎として成り立っている国家である。勿論、アジアを理解することは大切であるが過剰なアジア語教育偏重により、近年見られるようなヨーロッパ語教育の衰退は、オーストラリアの文化的アイデンティティの混乱につながる恐れがある。従って、オーストラリアにとって大切なのはバランスの取れた外国語教育である。これらの論調は外国語教育の目的を語学力によって得られる国家的利益とみるか、文化理解と言語知識による友好手段とみるかによって異なり、さらには文化的アイデンティティの見地からも論じられていると言える。

オーストラリアのアジア語教育、特に日本語教育は、急激な学習者数の増加と連邦政府の政策変更等による混迷の時期を過ぎようとしている。その兆候としては、先ず全国統一カリキュラムの整備がある。オーストラリアにおける初等、中等教育は各州、準州政府の管轄であり、それぞれが独自のカリキュラムを設定しているため、外国語教育の取り組み形態や規模は州ごとに異なり、学力格差の拡大が課題となってきた。また学習内容に差異があるため、州を越えた転校にともなう不都合や、個別に教材開発をする不経済性などを背景に、全国統一カリキュラムの策定が決定され、2008 年連邦政府は公式にメルボルン宣言を発表した。ACARA (Australian Curriculum Assessment and Reporting Authority) がこのカリキュラムの策定を進めるに当たって、重要としている概念に「異文化間言語学習」(ILL または IcLL: Intercultural Language Learning) がある。Liddicoat et al. (2003) において、1987 年に発表された国家学校言語教育プラン (National Plan for Language Education in Australian Schools 2005-2008) によれば、文化は言語構造や言語運用と密接に結びついているという認識から、学習者は言語が文化をどのように具体化しているか、文化的な姿勢や態度、行動が言語でどのように示されているかについて考えることが求められている。文化に関する学習や指導は、言

語教育に付随するものではなくむしろその中心であり、文化に関する指導は、言語に関する指導と統合されるべきであると ILL は提唱している。学習者は学習言語とその背景にある文化について考えるだけでなく、自らの言語、文化について考察することも求められる。多言語、多文化と関連させて自言語、自文化について理解を深めることで、相互理解の視点を養うことも ILL では必要とされる (国際交流基金, 2013)。

上記の ILL の概念に基づき経済的・商業的な理由からアジアを重視し、異文化理解を目的に挙げているアジア言語教育政策ではあるが、ハイスクール A の調査結果をみると、生徒は高学年になるほど旅行・国際交流を主目的とした会話を学習目標とする傾向があった。教師も旅行・国際交流を教育目的の第一に上げており、2013 年にはその割合がさらに高くなっていることが分かる。その一方で、日本文化の理解を重要と認識して、学習を大学または就職まで継続したい、とする生徒の割合は下がっていた。日本文化の理解に関しては、低学年の生徒がその重要性和学習の目的を認めているが、教師と 2013 年の高学年はそうには考えていない。教師や生徒が目指す旅行・国際交流を目的とした会話中心の日本語教育は、難しい読み書きを含めた語学教育から、より現実的な会話中心の教育に移行しようとしているものとも考えられるが、それによって真の文化理解が得られるのかは疑わしい。つまり、アジア言語教育政策の語学学習及びその背景にある文化について学ぶことによって国家的利益を得るという当初の目論みではあるが、実際の教育現場において、日本語教育は旅行・国際交流における会話によるコミュニケーションの手段としてしか認識されていないと言える。この傾向は国際交流基金 (2010) による調査結果とも概ね一致している。

ハイスクール A でも見受けられたことであるが、近年目立つ傾向として、日本語学習の理由に、経済などの実利的な目的よりも日本のサブカルチャーであるポップカルチャー、マンガ、ドラマ、J-POP などに対する興味関心が増し、こうした内容を扱う学校も増加傾向にある。これらの動きはオーストラリアの日本語教育が新たな段階に入りつつあることを示すものである。しかしながら、日本語教師の数と日本語力不足、政権交代による外国語教育政策の変更によって引き起こされた予算削減による日本語クラスの縮小化、特に 11、12 年生のクラスの廃止は、将来の勉学への不安感となり、生徒の学習意欲に影響を及ぼしていると考えられる。外国語教育が国家的な経済利益に結びつけられた政策の下では、外交政策の変化はもとより経済状況の変化によっても学

習環境が変化する。そのような状況下では語学が学問として定着することは難しいと言える。HSC（大学入学試験）における日本語科目に対する低い評価の改善、さらに充実した学習進路やプログラムの開発などが必要であることは、ハイスクール A だけが直面する問題ではない。生徒の学習意欲に直接関係するこれらの具体的な問題に対する改善が急務となっている。

謝辞

本研究においては、ニューカッスル市のハイスクール A の語学科 Jill Wagner 先生のご尽力により、アンケートおよびインタビュー調査を行うことができました。また、本調査に快く回答して頂きましたニューカッスル市のハイスクールの日本語教員と生徒のみなさま、論文中の図表作成を支援して頂きました教育研究支援センターの大野佳代子氏に心から感謝いたします。

引用文献

- Asian Education Foundation (2010) *The Current State of Chinese, Indonesian, Japanese and Korean Language Education in Australian Schools*, Carlton South : Education Services Australia Ltd.
- Liddicoat, J. A. et al. (2003) *Report on intercultural language learning*, Australian Government Department of Education, Science and Training.
- Nicholas, H., Moore, H., Clyne, M., Pauwels, A. (1993) *Languages at the Crossroads: the Report of the National Enquiry into the Employment and Supply of Teachers of Languages other than English*, National Languages and Literacy Institute of Australia.
- 嶋津拓 (2010) 「オーストラリアにおける「教育革命」とアジア語教育政策—日本語教育に焦点をあて

て—」日本言語文化研究会編『日本言語文化研究論集』第 6 号, 1-13.

中島豊 (2014) 「第 1 回全豪日本語教育シンポジウムの報告」国際交流基金『国際交流基金日本語教育紀要第』第 10 号, 145-152.

参照ウェブサイト

Australia in the Asian Century White Paper

http://www.asiaeducation.edu.au/verve/_resources/australia-in-the-asian-century-white-paper.pdf (2014 年 11 月 15 日に閲覧した。)

Berg, C. “Lost in translation”

<http://www.theage.com.au/it-pro/lost-in-translation-20120128-1qn2o.html> (2014 年 12 月 25 日に閲覧した。)

Jericho, G. “The lost decade: learning Asian languages”

<http://www.abc.net.au/news/2011-11-30/jericho---the-lost-decade-learning-asian-languages/3702656> (2014 年 12 月 26 日に閲覧した。)

オーストラリア統計局

<http://www.abs.gov.au/Ausstats/abs@.nsf/94713ad445ff1425ca25682000192af2/be75d8ff866cba97ca256aaa007fe175!OpenDocument> (2015 年 2 月 7 日に閲覧した。)

国際交流基金「日本語教育(2013 年度オーストラリア)」

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2013/australia.html> (2014 年 12 月 20 日に閲覧した。)

国際交流基金「日本語教育(2010 年度オーストラリア)」

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2010/australia.html> (2014 年 12 月 20 日に閲覧した。)

日本外務省統計局

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-au.pdf> (2015 年 2 月 7 日に閲覧した。)

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2008/pdf/2008-au.pdf> (2015 年 2 月 7 日に閲覧した。)

A Discussion on Japanese Language Studies in Australia Based on a Survey of Japanese Language Students

Shiho NAGAI and Masuhisa YOSHINAGA

This paper discusses the present state and future of Japanese language studies in Australia. The discussion is based on the findings from the comparison of 2004 and 2013 survey results of Japanese language studies at A High School in New South Wales Australia and of the Japanese language teachers in the Newcastle area where A High School is located. The problems caused by the lack of skillful language teachers, a lack of coordination between states in regards to syllabuses, and the frequent changes of federal government Asian language policy seem to be improving. However, Japanese education is facing many other problems such as inconsistencies in study planning and class organization, low score allocation for the university admission examination and the perception of difficulty toward learning and teaching Japanese language. It is concluded that the future of Japanese language education might not be bright unless these problems are resolved.

The Distinctive Use of Coordinating and Subordinating Conjunctions in Japanese EFL Academic Compositions

Fumihiko ITO* Hikaru MISUMI**

(2016年11月24日受理)

1. Introduction

Japanese junior high school students learning English as a foreign language (EFL) study the coordinating conjunctions of *and*, *but*, and *so*, and the subordinating conjunction of *because* at an early stage of English education. However, Japanese EFL college students do not acquire the knowledge of appropriate use of such conjunctions in academic contexts. It is obvious because they somehow excessively produce simple sentences headed by *and*, *but*, *so*, and *because* in formal writing as in, for example, *Some lessons are interesting. But other lessons are boring.* Another example is *An entertaining, enjoyable lesson is my best way of learning. Because many serious lessons make me bored.*

Thus, the main purpose of this paper is to investigate the use of these four conjunctions by Japanese EFL college freshmen and provides plausible reasons why they frequently write such simple sentences starting with them. Along with the main investigations, use of other conjunctions is also examined.

2. Method

2.1. Participants

A total of one hundred fifty college freshmen participated in this study in 2007. In

accordance with *the Course of Study Guidelines* administered by the Japan Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, they had received six years of secondary English education, prior to it. Students belonged to one of the following five departments: department of mechanical engineering, department of electronic media engineering, department of information and computer engineering, department of chemistry and materials science, and department of civil engineering. They were taking two year associate degree courses at the time of the study. The Test of English for International Communication (TOEIC) scores ranged from 195.00 to 625.00 points with an average of 359.37 ($SD = 93.23$), which was 41.63 points lower than the average score of 401.00 among college freshmen in Japan during academic year 2006 (see Kokusai Bijinesu Komyunikeishon Kyokai, 2007). The participants' ages ranged from 18 to 21 with an average of 18.94 ($SD = .47$).

2.2. Instruments

Two persuasive topics shown in Figure 1 were utilized for the present study. The topics were drawn from Test of Written English (TWE) stored in *Criterion*, which is an instant

*人文科学系・英語教授法, アメリカ文学 **群馬県庁

composition evaluation service developed by Educational Testing Service (ETS). Of the participants, 84 were asked to write essays on Topic 1, and the remaining 66 participants on Topic 2. The two prompts were used for the

purpose of obtaining more reliable data via two-topic research. As shown in Figure 1, both assigned topics were bilingually presented to the students because the students' writing proficiency was expected to be low.

You have 30 minutes to plan, write, and revise your essay. Typically, an effective essay will contain a minimum of 300 words. 執筆するための時間は、プランや書き直しの時間を含めて 30 分です。模範的な英語小論文は、通例 300 語程度の語数を含んでいます。	
Topic 1	Change Job or Not Some people prefer to change jobs or professions during their careers. Others choose to stay in the same job or profession. Discuss the advantages of each choice. Which do you prefer? Use reasons and examples to explain your choice. 転職するかしないか 自身の経歴の中で転職を好む人もいれば、同一職業にとどまることを選択する人もいます。それぞれの利点について論じてください。あなたはどちらを好みますか。あなたの選択した答えを説明する理由と例を挙げて、考えを述べてください。
Topic 2	Preferred Teacher Style Some people learn best when a classroom lesson is presented in an entertaining, enjoyable way. Other people learn best when a lesson is presented in a serious, formal way. Which of these two ways of learning do you prefer? Give reasons to support your answer. 好ましい授業方法 楽しく愉快な方法で授業が行われるときに、もっとも効果的に学習できる人もいれば、真剣かつ秩序のある方法で授業が行われるときに、もっとも効率的に学習できるという人もいます。これら二つの学習方法のうち、あなたはどちらを好みますか。あなたが選択した答えを裏付ける理由を挙げ、考えを述べてください。

Figure 1. Two prompts as presented bilingually.

2.3. Procedure

As a preliminary step, based on the 150 essays written by the participants, the following five indexes of writing fluency were calculated: the numbers of words, sentences, words per sentence, words per minute, and sentences per minute. Next, the numbers of simple, compound, and complex sentences with frequency of occurrence of the four conjunctions of *and*, *but*, *so*, and *because* tabulated to determine how the participants used them. Finally, the ways both coordinating and subordinating conjunctions were used in the high school textbooks that they had used for the past three years prior to the investigation were carefully examined, and the results were compared with those in their compositions.

In addition to the four conjunctions, other coordinating conjunctions (*for*, *nor*, *or*, and *yet*) and other subordinating conjunctions were also examined to identify the way they were used in the students' essays and the textbooks.

2.4 Limitations

This study set several limits in order to avoid complexity. First, it dealt with only the subordinating conjunctions introducing adverbial clauses, for example, *because*, *if*, and *when*. In other words, the investigation of the subordinators introducing noun and adjectival clauses were intentionally eliminated to avoid a broad range of subordinators, which would make it too complicated for readers to understand.

Second, the investigation of *that* was purposely excluded because *that* has many structural functions. It can be used as a subordinating conjunction introducing adverbial

clauses as in the following two sentences: *She was so busy that she didn't have time to prepare for the final exam.* and *It's in the library that she studied, not at home.* However, *that* can also be used differently. In the sentence *He said that he would come*, it is used as a subordinating conjunction introducing a noun clause. *That* can be used as a relative pronoun as in the sentence *Construction workers need to put on helmets that protect their heads.* Including the different classifications of *that* might have made this investigation too complicated.

3. Results and Discussion

3. 1. Conjunctions Used in the Japanese EFL Compositions

Calculated were the following five quantitative indexes of writing fluency: the average numbers of words, sentences, words per sentence, words per minute, and sentences per minute of Topic 1 and 2 essays ($N = 150$), along with those of Topic 1 essay ($n = 66$) and Topic 2 essay ($n = 84$). As Table 1 shows, these indexes of both Topic 1 and 2 essays were 66.07 ($SD = 37.26$), 6.39 ($SD = 3.77$), 10.62 ($SD = 2.94$), 2.20 ($SD = 1.24$), and .21 ($SD = .13$) respectively. Furthermore, all the students' essays were evaluated by two raters who had doctorates in Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL) using *the EFL Composition Profile* of Jacobs, Zinkgraf, Wormuth, Hartfiel, and Hughey (1981). The average writing quality score was 45.39 ($SD = 9.48$).

The ESL Composition Profile is scored from 34 to 100, with 34 the minimum score. In this study, the five indexes of writing fluency and the writing quality score were considered low.

Table 1***Five Indexes of Writing Fluency and Writing Quality Scores***

	T1 Essay (<i>n</i> = 66)	SD	T2 Essay (<i>n</i> = 84)	SD	T1 and T2 Essays (<i>N</i> = 150)	SD
Words	58.05	32.37	72.38	39.75	66.07	37.26
Sentences	6.00	3.34	6.70	4.07	6.39	3.77
Words/Sentence	9.68	2.62	11.37	2.98	10.62	2.94
Words/Minute	1.94	1.08	2.41	1.33	2.20	1.24
Sentences/Minute	.20	.11	.22	.14	.21	.13
Writing Quality	43.35	8.10	47.00	10.20	45.39	9.48

Notes. T1=Topic 1, T2=Topic2

Table 2***Occurrence Frequency of Syntactic Types of Sentences with Conjunctions in Topic 1 (*n* = 66) and Topic 2 Essays (*n* = 84)***

Syntactic Types	Simple		Compound		Complex		Total	
Conjunctions	T1	T2	T1	T2	T1	T2	T1	T2
and	21	18	6	17			27	35
but	35	48	1	10			36	58
so	21	48	2	3			23	57
for	0	0	0	0			0	0
nor	0	0	0	0			0	0
or	0	0	0	0			0	0
yet	0	0	0	0			0	0
Sub-total	77	114	9	30			86	150
because	51	55			3	13	54	68
even if	0	1			0	0	0	1
if	2	0			38	47	40	48
since	0	1			0	0	0	1
when	0	1			5	60	5	61
whereas	0	0			0	1	0	1
Sub-total	53	58			46	121	99	180
Total	130	172					185	330

Next, Table 2 shows the frequency of the types of sentences (simple, compound, and complex sentences) with the seven coordinating conjunctions and the six subordinating conjunctions introducing adverbial clauses. The participants wrote only these six subordinating conjunctions introducing adverbial clauses in their essays.

As expected, properly or improperly, plenty of sentences with *and*, *but*, *so*, and *because* were clearly found in their compositions.

On Topic 1, the 66 participants wrote a total of 77 simple sentences headed by *and*, *but*, and *so*, and 51 simple sentences headed by *because*. Likewise, on Topic 2, the 84 participants wrote a total of 114 simple sentences headed by *and*, *but*, and *so*, and 55 simple sentences headed by *because*¹. These were significant figures. The typical actual sentence examples on each topic are shown below.

Topic 1

1. I was to get more money than now. *And* I want to work more interesting than now.
2. It is not easy to stay in the same firm. There are many difficult things in the same firm. *But*, it is very good experience to continue something.
3. I want to go to all over the world. *So* I will see many culture, people, food.
4. I choose to stay in the same job or profession. *Because* I have to learn new work when I change jobs.

Topic 2

1. There are two ways, enjoyable or serious. *And*, which of these two ways is good?
2. Some lessons are interesting. *But* other lessons are boring.
3. I like an entertaining, enjoyable lesson.

So I don't like a serious, formal lesson.

4. An entertaining, enjoyable lesson is my best way of learning. *Because* many serious lessons make me tired².

These sentences were like ones by much younger pupils in an English-speaking country who simply connect their ideas together with a succession of *and*, contrast them with *but*, and show them with a cause-effect relationship with *so* and *because*.

The Topic 1 writers constructed a total of 9 (6 + 1 + 2) compound sentences with *and*, *but*, and *so*, and properly constructed just 3 complex sentences with *because*. Similarly, the Topic 2 writers constructed a total of only 30 (17 + 10 + 3) compound sentences with *and*, *but*, and *so* and properly constructed 13 complex sentences with *because*. Thus, the excessive use of simple sentences headed by *and*, *but*, *so*, and *because* in the essays was obvious in this study. The findings are consistent with the results of Ito (2005, 2015), Izzo (1994, 1999), Kobayashi (2009a, 2009b, 2009c), and Watanabe (2003).

It is a little surprising that the participants did not use the coordinators of *for*, *nor*, *or*, or *yet* at all even though they are useful connectors for stating logical meanings between preceding and following sentences. Also, it is significant to note that the two subordinators of *if* and *when* were almost always properly used in the students' complex sentences. The numbers of simple sentences headed by *if* and *when* were surprisingly few. In other words, the students seldom produced the syntactically wrong structures of *If* S+V. and *When* S+V.

More importantly, the students, correctly or incorrectly, heavily relied more on *because* (122 times = 54 + 68), *if* (88 times = 40 + 48), and

when (66 times = 5 + 61) than the other conjunctions of *even if*, *since*, and *whereas* (three times only, once each) in their compositions³. This clearly different distribution implies that although the subordinating conjunctions of *because*, *when*, and *if* might have been simply those commonly used in English compositions, the Japanese EFL college freshmen heavily relied on a small set of the subordinating conjunctions introducing adverbial clauses in the essays (Ito, 2015).

3. 2. Textbook Influence

Going a step further, the participants'

English textbooks used in senior high school in the three years, prior to the investigation, were carefully examined to see whether the textbooks may have led to distinctive writing features regarding the use of conjunctions in student essays. This is worth examining because there has been little research concerning the possible influence of the high school textbooks on the informal use of *and*, *but*, and *so*, and the misuse of *because*⁴.

As high school students, the participants used the following three English textbooks: *Crown English Series I* (Shimozaki, Iida, Kuroiwa, et al., 2003) for 10th graders, *Crown*

Table 3

Occurrence Frequency of Syntactic Types of Sentences with Coordinating Conjunctions in High School Textbooks

Syntactic Types	Conjunctions	Crown I	Crown II	Exceed	Total
Simple	and	10	8	2	20
	but	15	15	12	42
	so	12	6	6	24
	for	0	0	0	0
	nor	0	0	0	0
	or	0	1	0	1
	yet	0	2	1	3
	sub-total	37	32	21	90
Compound	and	40	39	18	97
	but	23	26	12	61
	so	4	3	3	10
	for	0	0	0	0
	nor	0	0	0	0
	or	2	0	0	2
	yet	0	1	0	1
	sub-total	69	69	33	171
Total		106	101	54	261

English Series II (Shimozaki, Iida, Iwasa, et al., 2003) for 11th graders, and *Exceed English Reading* (Morizumi, Iida, Iino, et al., 2003) for 12th graders⁵. The textbooks were published by Sanseido Co., Ltd., a well-known publishing company in Japan. Table 3 provides the numbers of appearances of simple and compound sentences with the seven coordinating conjunctions. Informal simple sentences headed by *and* appeared 20 times in the three textbooks, those headed by *but* 42 times, and those headed by *so* 24 times. These lead to speculation that the mere sight of simple sentences starting with the three coordinating conjunctions in the textbooks, which were their major input source of English, may have led students to overuse them in their essays.

It is worth noting, however, that there may be other enlightening reasons for the overuse of the simple sentences headed by at least *and* and *because*. As shown in Table 3, the total number of compound sentences with *and* (97 times) in the three textbooks was far more than that of simple sentences headed by *and* (20 times). Likewise, Table 4 shows that proper complex sentences with *because* (33 times) appeared with greater frequency than grammatically wrong simple sentences headed by *because* (only twice)⁶. In other words, the students saw many more compound sentences with *and* than simple sentences with *and*, and by far more complex sentences with *because* than simple sentences with *because* in the three textbooks.

Yet, when it came to the students' writing, they were somehow inclined to write more simple sentences headed by *and* and *because* rather than compound or complex sentences

with the two conjunctions. For this reason, it could be concluded that the school textbooks were not the sole factor behind the heavy reliance on *and* and *because* in the sentence-initial positions. There may be other reasons for it, though they are unknown at this point. Therefore, further investigations on the reasons for overuse of *and* and misuse of *because* should be made in the future.

Furthermore, as Table 4 indicates, *when* (69 times), *if* (56 times), *as* (34 times), and *because* (33 times) are predominantly used among subordinators introducing adverbial clauses in the three textbooks⁷. However, the students somehow failed to use *as*, the third most frequently used subordinator in the textbooks, while they successfully wrote, *when*, *if*, and *because* in their essays with great frequency, even though many *because*-sentences were sentence fragments, as discussed earlier. They may have more difficulty using *as* than *when*, *if*, and *because*.

One of the possible reasons may be that *as* is structurally more complicated for the students than *when*, *if*, and *because*, which are rather more straightforward. In general, *as* has the two main structural functions of a conjunction and preposition; in contrast, *when*, *if*, and *because* do not have such interchangeably used functions and are often used as conjunctions. The structural simplicity could have caused the participants in this study to use *because*, *when*, and *if* more frequently in their essays than *as*. Additionally, *as*, as a conjunction, states the reason (=because) and the time (=when); on the other hand, *as*, as a preposition, is used to express something that appears to be something else. This semantic complexity of *as* may also

Table 4

Occurrence Frequency of Subordinators Introducing Adverbial Clauses in High School Textbooks

Syntactic Types	Conjunctions	Crown I	Crown II	Exceed	Total
Simple	after	0	0	0	0
	(al)though	0	0	0	0
	as	0	0	0	0
	because	0	0	2	2
	before	0	0	0	0
	even if / though	0	0	0	0
	if	0	0	0	0
	once	0	0	0	0
	since	0	0	0	0
	than	0	0	0	0
	till / until	0	0	0	0
	unless	0	0	0	0
	when	0	0	0	0
	whether	0	0	0	0
	while	0	0	0	0
	Sub-total	0	0	2	2
Complex	after	0	4	0	4
	(al)though	2	4	1	7
	as	11	13	10	34
	because	11	12	10	33
	before	4	1	2	7
	even if / though	1	1	1	3
	if	20	30	6	56
	once	0	1	1	2
	since	3	3	1	7
	than	3	7	3	13
	till / until	0	4	0	4
	unless	0	1	0	1
	when	19	24	26	69
	whether	0	1	0	1
	while	3	1	2	6
	Sub-total	77	107	63	247
Total		77	107	65	249

be one of linguistic factors behind less frequent use of it among Japanese EFL writers.

Furthermore, it is important to note that a wide range of subordinators introducing adverbial clauses appeared in the three high school textbooks as indicated in Table 4; in contrast, the Japanese EFL writers obviously failed to use them effectively in the compositions. Thus, it is highly recommended that Japanese EFL students learn to use a broad range of such subordinators in the written form of English. A variety of complex sentences will enhance essay quality by creating more syntactically mature sentences.

Finally, as Table 3 shows, the frequency of occurrence of coordinating conjunctions *for*, *nor*, *or*, and *yet* in the three textbooks are surprisingly few. This may be one of the reasons the students did not write them in their compositions. It is true that *nor*, *or*, and *yet* may be used only in special limited contexts because of their particular meanings, and they may not be used frequently in discussion. However, *for* can be used easily because it introduces a reason for the precedent sentence, and its meaning is straightforward. It should sometimes be used in place of *because* in essays which include many *because*-sentences. It is recommended that Japanese college students learn to write *for* instead of writing *because* with such frequency in their essays.

4. Conclusion

Academic essays by 150 college freshmen written on the two different prompts and the three conventional high school textbooks that they had used were examined in this study. First, the study clearly uncovered the

overwhelming dominance of simple sentences beginning with *and*, *but*, *so*, and *because*. L2 writing instructors should recommend that students learn how to form more compound and complex sentences with such conjunctions.

Furthermore, the three high school textbooks that the students had used were carefully examined. Their distinctive writing features regarding *and*, *but*, and *so* could be partially attributed to influence of the school textbooks, as simple sentences headed by *and*, *but*, and *so* appeared with great frequency in them. However, the school textbooks do not seem to be the sole factor leading Japanese EFL learners to overuse *and* and misuse *because* in the sentence initial position, though other reasons are yet unknown.

The next teaching implication is that L2 writing instructors should be aware of the significance of teaching a variety of subordinators, especially ones introducing adverbial clauses as shown in the school textbooks.

Lastly, EFL instructors should teach their students that *for* can be used instead of *because* since Japanese EFL students tend to use *because* frequently.

NOTES

1. The same 66 Topic 2 essays were also used for Ito's (2015) investigation on the use of *because* (see Table 4 of Ito, 2015, for the same data).
2. These eight examples on Topic 1 and 2 are actual student-made sentences.
3. *Even if* could possibly belong to the same category as *if*; however, the former is semantically defined as expressing concessions,

and the latter as expressing conditionals. Thus, *even if* and *if* were separately tabulated, with this study following Ito's (2015) previous study.

4. The possible influence of the four major junior high school textbooks on *because* was investigated by Kobayashi (2009a).

5. This present study dealt with Lesson 1 to 8 and Reading 1 and 2 in *Crown I*, Lesson 1 to 10 and Reading 1 and 2 in *Crown II*, and Lesson 1 to 12 in *Exceed*. In short, a set of small units, such as "Chatrooms" in *Crown I* and *II*, were excluded because they did not include many English sentences.

6. These two cases were both colloquial replies to *why*-questions, for example, "A: *Why did you do that?* —B: *Because he needed them.*"

7. The structure *as+adjective/adverb+as S+V* appeared 16 times (1+8+7 in each textbook, respectively); the subjunctive mood structure *as if S+V* appeared 3 times (1+0+2). However, the information on them is not included in Table 4 for the purpose of making the study less complicated.

Acknowledgements

An earlier version of this paper was presented at the Japan Society of English Usage and Style on June 28, 2014. The present investigation was supported by two research grants (Grant Number 21520625 and 26370653) from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Government of Japan.

References

Kobayashi, Y. (2009a). Nihonjin gakushusa no eisakubun ni okeru "because" no

goyoubunseki [An error analysis of *because* in Japanese EFL learners' written English]. *The Bulletin of the Kanto-Koshin-Etsu English Language Education Society*, 23, 11-23.

—(2009b). Nihonjin gakushu no eisakubun ni okeru "so" no toukeiteki bunseki [A statistical analysis of *so* in Japanese EFL Learners' English]. *The Institute of Statistical Mathematics Cooperative Research Report*, 232, 107-118.

—(2009c). Nihonjin gakushusha no eisakubun ni okeru touisetsuzokushi no shiyo ni tsuite—"and" to "but" o rei ni—[The use of coordinating conjunctions in Japanese EFL learners' English writing—Two case of *and* and *but*—]. *The Journal of Senshu University Foreign Language Education*, 37, 21-36.

Ito, F. (2005). The types of sentence fragments and frequency of occurrence made by Japanese EFL learners of English at Japan's National Defense Academy. *The Journal of National Defense Academy*, 90, 87-107.

—(2015). Sentence fragment Categories and Their Frequency of Occurrence in Japanese ESL Writing. *Southern Journal of Linguistics*, 39(2), 51-68

Izzo, J. (1994). Usage of subordinating conjunctions by University of Aizu freshmen students: A pilot study. *Center for Language Research 1994 Annual Review*, 37-42.

—(1999). Sentence structure aberrations in English writings of Japanese university students. *Center for Language Research 1999 Annual Review*, 133-140.

- Jacobs, H. L., Zinkgraf S. A., Wormuth, D. R., Hartfiel, V. F., & Hughey J. B. (1981). *The testing EFL composition: A practical approach*. Rowley, MA: Newbury House.
- Morizumi, M. , Iida, T., Iino, A., Ishikawa, S., Okada, J., Sugimoto, T., Ross, S., Takahashi, S., Tajima, M., Hardy, T., Higashikawa, N., Nakai, H., Nakano, M., Hayashi, S., &Yokokawa, H. (2004). *Exceed English reading*. Tokyo: Sanseido Co., Ltd.
- Kokusai Buisinesu Komyunikeishon Kyokai (2007). *2006 nendo jukenshasuuto heikin score [The number of the examinees and their average scores in the school year of 2006]*. Tokyo: Author.
- Shimozaki, M., Iida, R., Iwasa, Y., Sasaki, H., Kanno, A., Tsujimoto, C., Matsubara, Y., Mochizuki, N., Yui, R., Watanabe, Y., Deaux, G., & Taylor: G., (2003). *Crown English series II*. Tokyo, Sanseido, Co., Ltd.
- Shimozaki, M., Iida, R., Kuroiwa, Y., Sasaki, H., Kanno, A., Tsujimoto, C., Matubara, Y., Mochizuki, N., Yui, R., Watanabe, Y., Deaux, G., & Taylor, G. (2003). *Crown English series I*. Tokyo: Sanseido Co., Ltd.
- Watanabe, Y. (2003). How Connectives Are Used in Japanese College Students' Writing in English and the Problematic Factors Related to the Use of Connectives. *Journal of the Language & Culture Center, Nagasaki Junshin Catholic University* 1, 1-10.

Scratch と mbot を用いたソフトウェアとハードウェア 両面からの中学生向け体験型プログラミング教育 － 群馬高専スマートサイエンススクールにおける取組 －

荒川達也* 市村智康*

(2016 年 11 月 24 日受理)

1. はじめに

群馬高専では、平成 25 年度から、中学生対象の公開講座「スマートサイエンススクール」を実施している。本講座は、群馬高専の各学科で企画された特色あるテーマの実習で構成されている。

現在、文部科学省は「教育の IT 化に向けた環境整備 4 か年計画（平成 26 年度～平成 29 年度）」を進めており、第 2 期教育振興基本計画に掲げられている「社会を生き抜く力の養成」の 1 つとして、情報教育の整備を各教育機関へ要請している。こうした背景をもとに、我々は、講座内容としても情報教育が必須と考え、平成 27 年度テーマ「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームで学ぼう・ゲームを学ぼう・ゲームに学ぼう」を経て、平成 28 年度テーマ「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームをつくろう！ロボットを動かそう！！」を企画実施した。

近年、スマートフォンに代表されるような情報技術の発達とともに、初等中等教育を受ける子供も身近に情報機器に接する機会が増えている。こうした状況から、情報技術のソフトウェア面の敷居は格段に低くなり、初学者も興味を持って積極的にプログラミングできる環境が整いつつある。しかし、情報機器におけるユーザービリティの向上とともに、従来に比べ使用者が情報機器の内部ハードウェアに接する機会は少なくなりつつある。そのため、初学者にとって、ハードウェア面のいわゆるブラックボックス化が進んでいる。

本テーマの特色は、情報教育の 2 つの側面であるソフトウェアとハードウェアの両面について偏り無く指導する点にある。ソフトウェアとハードウェア共通の教育用プラットフォームとして、初学者向けのプログラミング環境 Scratch を用いた。また、具体的な題材として、ソフトウェアとハードウェアについて、それぞれゲームプログラミングとロボット制御プログラミングをとりあげた。

また、本テーマのもう 1 つの特色は、多くの群馬高専電子情報工学科学生および専攻科生が学生スタッフとして参加している点である。

平成 28 年度は 1 年生 3 名、5 年生 3 名、専攻科生 3 名の延べ 9 名（一部参加を含む）の協力を得られ、受講生に対するきめ細かな指導とサポート、および実習中のコミュニケーションの円滑化に効果的であった。また副次的に、学生スタッフの側にも「人に教える」ことによりプログラミングの知識を深め、指導スキルや交流スキルの向上の機会を得るなど、少なからず良い効果があるものと期待している。

本稿は、平成 28 年度スマートサイエンススクール「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームをつくろう！ロボットを動かそう！！」の企画内容と実施結果について報告する。まず、第 2 章では、ソフトウェア面の情報教育として、Scratch を用いたゲームプログラミング実習について示す。第 3 章では、ハードウェア面の情報教育として、mbot を用いたロボット制御プログラミング実習について示す。最後に、第 4 章で本稿をまとめる。

*電子情報工学科

2. Scratch を用いるソフトウェアプログラミング教育

2.1 概要

本テーマのソフトウェアプログラミング教育は前年度スマートサイエンススクールのテーマおよび群馬高専電子情報工学科において例年実施している体験授業「チャレンジゲームプログラミング」[1] の実習内容をほぼ踏襲したものである。具体的には

(実習 0) サンプルゲーム体験プレイ

(実習 1) Scratch 入門

(実習 2) ゲームプログラミング入門

(実習 3) オリジナルゲーム企画

(実習 4) オリジナルゲーム作成

(実習 5) 作品発表会

の 6 つの実習から構成される。中学生にとってもっとも身近な存在である「ゲーム」を対象にプログラミングを体験し、自分が考えて作ったプログラムが動く感激を味わってもらうことを最大の目標としている。

(プログラミング環境 Scratch については[2], [3], [4] など参照。本実習では主に Scratch 2.0 を使用。サンプルゲームの一部は Scratch 1.4 を使用。)

2.2 実習内容

2.1 節で述べた各実習について簡単に述べる。

(実習 0) はじめに、Scratch で作成した各種サンプルゲーム(シューティング、落ちもの、RPG など十数種類)を受講生に自由にプレイさせた。Scratch の環境に慣れ、プログラミングへの抵抗感を軽減することと、ゲーム作成へのモチベーションを高めることが目的である。なおここで使用するサンプルゲームは主に過去の電子情報工学科学生が作成したものである。

(実習 1) Scratch の使用方法を最小限に絞って解説する。起動方法や終了・保存方法、スクリプトの組み立て方や動作確認方法など、以降の実習をスムーズに進めるための最低限の知識の習得が目的である。

(実習 2) 「実習 1」に続き、講師からの指示と学生スタッフのサポートのもと、簡単なシューティングゲームを作成させた。このゲームは、画面上部で動く敵キャラを自



図-1 ゲーム作成風景

機からのレーザーで攻撃するだけのシンプルなものである。キャラクターの操作や攻撃、命中処理、スコア表示、ゲームクリア処理など、ゲーム作成にあたって頻繁に使われる基本技術を習得することが目的である。

本実習はいくつかのステップに沿ってゲームの機能を少しずつ追加していく「アジャイル開発」の手法を取り入れて構成されており、このことにより受講生は、ごく単純なプログラムから始めて次第に完成形へと近づいていく過程を実感できる。

(実習 3) 「実習 2」の後、3 節のハードウェアプログラミング教育を挟んで、受講者それぞれがオリジナルゲームの企画を考える。実際上はサンプルゲームやゲームプログラミング入門で作成した簡単なシューティングゲームにもとづいてオリジナルなアレンジを加えることが多い。受講生自身のアイデアを使用することが望ましいが、難しい場合は教員または学生スタッフが助言する。

受講生が希望すれば、ハードウェアプログラミング教育で用いた「mbot」を使用することも可能である(ただし 28 年度の希望者はいなかった)。

(実習 4) 受講生それぞれが、オリジナル企画に沿って Scratch 上でゲームを作成する。ソフトウェアプログラミング教育で最も多くの時間がこの実習で費やされる(28 年度は昼食休憩をはさんで約 5 時間をとった)。時間内に完成が難しい場合はスタッフが助言して、適宜企画の見直しと簡素化を行う。図-1 に実習風景を示す。



図-2 受講生プレゼンテーション

(実習 5) 自分が作成したゲームを他の受講生に紹介するプレゼンテーションを行う。もし時間が許せば、お互いにテストプレイして感想、批評や人気投票等も行う(28年度は時間の関係で受講生は自分の作品紹介のみを行い、スタッフより講評を行った(図-2))。

3. mbot を用いるハードウェアプログラミング教育

3.1 概要

ハードウェアプログラミングの教育題材として、ロボット制御プログラミングをとりあげた。近年、レゴ社のマインドストームをはじめとする多くの教育用ロボットが販売、活用されている。我々は、scratchで制御可能な教育用ロボットとして図-3に示すMakeblock社製のmbotを採用した[5]。mbotは、制御装置として、オープンソースハードウェアであるArduinoを搭載し、基本的な入力装置として、超音波センサ、明るさセンサ、フォトリフレクタ、出力装置として、DCモータ(駆動輪)、圧電ブザー、RGB LEDを備えている。

mbotのプログラミング環境として、Makeblock社から提供されているmblockを用いた(図-4)。mblockは、scratchをベースに作成されており、scratchでゲームプログラミングを学んだ受講生にとって、mblockによるロボット制御プログラミングは、技術的、心理的な敷居が低いと考えられる。mblockは、通常のscratchと同じインターフェースであるが、mbotのほぼ全ての入出力機能をロボット用ブロックとして提供している。

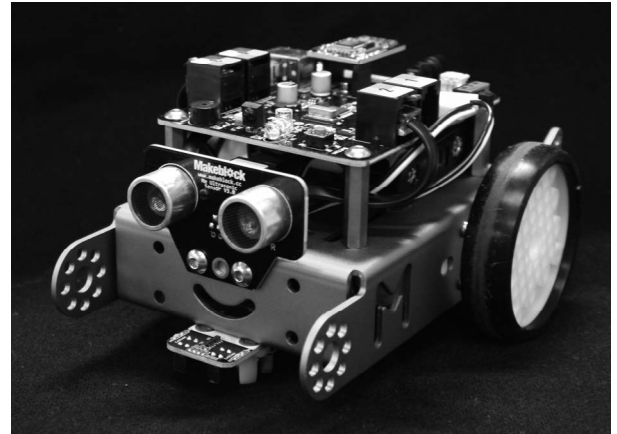


図-3 教育用ロボット mbot

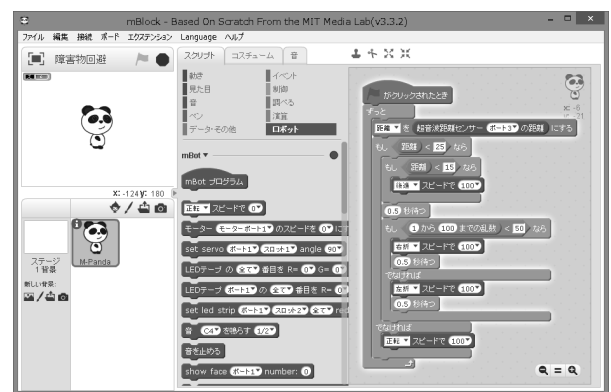


図-4 mbot 用プログラミング環境 mblock

まず、mbot と mblock の概要を説明した。つぎに、mbot 用のスクリプト例を各受講生に操作させ、ロボット用ブロックと mbot の各動作の関係について確認させた。その後、つぎの4つの実習を行わせた。

(実習 6) キーボードを使って、ロボットを動かそう！

(実習 7) 「実習 6」のブロック内を理解しよう！

(実習 8) 黒い線の上を走らせよう！

(実習 9) イルカやコウモリと同じ方法で、衝突を防ごう！

3.2 実習内容

3.1 節で述べた各実習について簡単に述べる。

(実習 6) ハードウェアプログラミング実習の導入として、mbot のマニュアル操作について、「前進」、「右折」などの制御ブロックを用いて、スクリプトの作成と実行を行わせた。また、入力した命令に応じて、圧電ブザーの音色を変更するプログラミングを追加実習として課し

た。ロボットの高度な制御においても、まずマニュアル操作のプログラムを作成することが基本であり、本実習もこれを踏襲した。

(実習 7)「実習 6」でスクリプト作成に用いた「前進」、「右折」などの制御ブロックについて、ロボットが、なぜ進行方向が変更可能なのか説明した。この説明をもとに、これら制御ブロックを、さらに細かな制御ブロック(「モータ 1 スピード設定」、「モータ 2 スピード設定」)を用いて作成、実行させた。ここでは、ブロックがさらに細かなブロックで構成されること、つまり一般的なプログラミング言語における関数についても言及した。

(実習 8) つぎに、ライントレースを題材として、ロボット制御において重要なセンサについて、実習を行った。センサであるフォトリフレクタの原理について簡単に説明した。さらに、このセンサを用いて黒い線にロボットを沿わせる方法を説明した後、実際にスクリプトを作成、実行させた。この際、センサの入力判定を目視で確認できるように、入力値に応じて RGB LED を点灯するプログラミングを追加演習として課した。この追加演習は、実際のハードウェアプログラミングにおけるデバッグ手法を意識させる目的がある。

(実習 9) 最後に、超音波センサを用いて、障害物回避の実習を行った。超音波による測距法について、イルカやコウモリの話を変えて、その原理を説明した。さらに、このセンサを用いて、対象物までの距離を測定し、障害物を回避しつつ走行を維持する方法を説明した後、実際にスクリプトを作成させ、実行させた。障害物回避は、自律型ロボットの重要な機能の 1 つであり、超音波センサやレーザレンジファインダによる環境認識を用いて実現されることが多い。

4. 考察とまとめ

講座 2 日目終了後に、受講生を対象に無記名式でアンケートを実施した。全受講生 8 名のうち、欠席 1 名、早退 1 名を除く、計 6 名からアンケートを回収した。アンケート項目は、実習内容について 11 問、計算機の使用経験等について 5 問、計 16 項目である。主な回答内容について考察する。

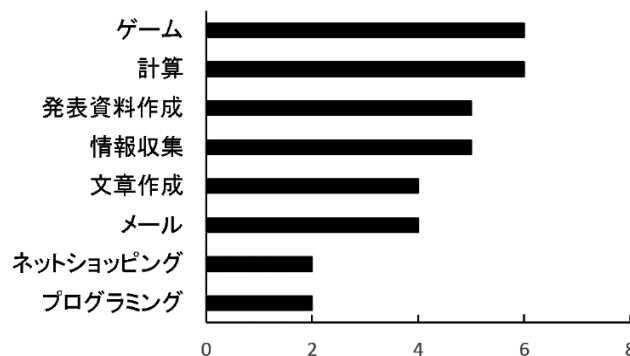


図-5 アンケート集計結果 (これまでコンピュータでどんなことをしたことがありますか)

まず、実習内容について、「実習の難易度は、如何でしたか。: 1. やさしい 2. 適切 3. 難しい」の間に、5 通が「2. 適切」、残り 1 通が「3. 難しい」であった。また、「プログラミングに挑戦した感想を教えてください。: 1. 楽しかった 2. つまらなかった 3. その他 ()」の間に、5 通が「1. 楽しかった」、残り 1 通が「3. その他 (ふつう)」であった。さらに、「今後も、プログラミングを行ってみたいですか。: 1. 行いたい 2. 行いたくない」の間に、回答者全員の 6 通が「1. 行いたい」であった。以上から、受講生は、楽しく参加でき、プログラミングに対する興味が向上したと推測される。

一方、「プログラミングで難しかった点があれば教えてください。」の間に「変数が難しかった」、「バグをなくすこと」、「1 つ違うだけで全然うまくいかなかった点」などがあがった。こうした回答から、受身でなく問題解決へ挑む積極的な姿勢をうかがえた。受講生達は、短時間の実習であっても、プログラミング技術が着実に向上しており、実習中盤で、高度な内容について指導することも効果的と思われる。

その他「あなたの作品をどう感じていますか: 1. 満足 2. 不満足 (不満な点:)」の間に、2 通が「1. 満足」、残り 4 通が「2. 不満足」であった。不満な点は、「時々止まってしまう」、「音が出ない」など、使用した計算機の性能による内容が多かった。この点は、今後のテーマの課題としたい。

つぎに、「あなたの中学校で PC を用いた授業はありますか。: 1. ある (科目名:) 2. ない」の間に、

回答者全員の6通が「ある(科目名:技術家庭科)」であった。また、計算機の使用経験について、「これまでコンピュータでどんな事をしたことがありますか。(複数回答可)」の回答の集計結果を図-5に示す。これらの回答から、受講生達は、中学校の授業で、表計算やプレゼンテーションのアプリケーションの授業を受けているが、プログラミングの経験は少ないと思われる。また、計算機でのゲーム経験も豊富であることから、ゲーム作成を通じてプログラミングを学ぶ今回のソフトウェアプログラミング教育は高い効果が期待できる。

本稿は、中学生対象の公開講座「平成28年度 スマートサイエンススクール」の1つとして企画、実施した「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームをつくろう!ロボットと動かそう!!」について報告した。Scratchを用いてゲームを作成させることで、受講生のプログラミングに対する興味を向上させられた。さらにScratchでプログラミング可能なmbotを制御させることで、ハードウェアプログラミングについても無理なく学ばせることができた。

今後の課題は、ソフトウェアプログラミングとハードウェアプログラミングの時間配分の検討、使用計算機の整備などである。

謝辞

情報教育「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームをつくろう!ロボットを動かそう!!」の場として

公開講座「平成28年度 スマートサイエンススクール」を企画、実施して頂いた、群馬工業高等専門学校 物質工学科 出口 米和准教授ほか事務局各位に深謝致します。また、チュータとしてご協力頂いた小川 直希君、金子 航太君、酒井 叡峻君、岡上 裕太君、柴崎 悠馬君、小林 礼奈君、大久保 拓哉君、狩野 琢磨君、小柳 太一君に心より感謝致します。また、本テーマの前身である平成27年度テーマ「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームで学ぼう・ゲームを学ぼう・ゲームに学ぼう」にご尽力頂いた会津大学復興支援センター中村 啓太准教授に感謝するとともに、今後のご活躍を期待致します。

参考文献

- 1) 荒川達也, 牛田啓太, 大木幹生: Scratchを用いた中学生向けプログラミング入門講座 ―電子情報工学科体験授業「チャレンジゲームプログラミング」の取り組み―, 群馬高専レビュー(33), 1-8, 2014.
- 2) Scratch - Imagine, Program, Share, <https://scratch.mit.edu/>, (参照 2016-11-19)
- 3) 森秀樹, 杉澤学, 張海, 前迫孝憲: Scratchを用いた小学校プログラミング授業の実践: 小学生を対象としたプログラミング教育の再考, 日本教育工学会論文誌, Vol. 34, No. 4, pp. 387-394, 2011.
- 4) 石原正雄: スクラッチアイデアブック ―ゼロから学ぶスクラッチプログラミング―, カットシステム, ISBN978-4-87783-217-394, 2009.
- 5) Arduino STEM educational Robot kits Building Platform | Makeblock, <http://www.makeblock.com/>, (参照 2016-11-19)

A Software and Hardware Programming Education for Junior High School Students Using *Scratch* and *Mbot*

Tatsuya ARAKAWA and Tomoyasu ICHIMURA

This report describes a programming education for junior high school students in both application software and embedded systems. Themes of the software and hardware programming were “game” and “robot”, respectively. We adopted a beginner’s programming environment *Scratch* as a common education support tool of software and hardware. Furthermore, educational robot *mbot*, programmable by the Scratch, is employed for the hardware programming. First, students enjoyed programming their games with the *Scratch*. Then, they studied how to program the robot easily with the same environment. The results of questionnaire showed that most of the students are satisfied with our education.

1580 年代後半ノーサンプトンシャの統監

宮川 剛*

(2016年11月24日受理)

1. はじめに

「統監」(Lord Lieutenant) は、テューダー朝期のイングランドに創設された地方官である。ヘンリ 8 世時代には、反乱など緊急時に臨時職として設置されていたが、のちに 16 世紀後半、エリザベス 1 世の時代になると、次第に常設化されていった。とくに 1580 年代は統監という制度にとって重要な意味をもつ。1585 年に始まる対スペイン戦への対応のため、ほぼ全国の州に統監が設置されるようになった。1588 年のアルマダ海戦前後の時期には、各州で統監を中心にスペインの侵攻を想定した対策がとられるようになり、統監は、州の軍事、さらには行政にとって不可欠の存在になっていった¹⁾。

統監には、在地の有力貴族が任命されることが多かったが、彼らに加えて、ウィリアム・セシル (William Cecil) やレスター伯ロバート・ダドリ (Robert Dudley) に代表される有力な政治家や女王の寵臣たちも統監を担当した²⁾。また、統監の下には、副統監 (Deputy Lieutenant) が置かれ、州の有力ジェントリ層が任命されたが、実際に民兵の徴集や訓練などの業務を担当するのは彼らであった³⁾。中央政府 (枢密院) の命令は、統監を経て副統監に伝えられるわけだが、中央政府と州の間の利害が対立する場合、政策の遂行が停滞することも多く、中央政府の政策は、在地の有力者である副統監の協力を必要としたのである。中央政府—統監—副統監の三者の間で、政策の遂行にあたって、どのようなやり取りがなされたのか、この点を詳細に検討することで、エリザベス朝イングランドの統治の実態を垣間見ることができよう。

本稿では、イングランド中部の内陸の州、ノーサンプトンシャに焦点をあて、1580 年代後半に同州の統監をつとめたサー・クリストファー・ハットン (Sir Christopher Hatton) が、彼の部下たちを率いて、当時のイングランドの最大の課題、対スペイン戦への準備にいかに対応したかを詳細に検討する。ハットンたちが担当したのは敵が上陸した場合に備えた陸上戦の準備であったが、対スペイン戦の研究においては海戦に重点が置かれており、陸上戦の準備については研究が乏しいと言わざるをえない⁴⁾。

本稿はこの点で研究史上の空隙を埋めようとするものでもある。史料としては『ノーサンプトンシャ統監関係文書』(J. Goring and J. Wake (eds), *Northamptonshire Lieutenancy Papers and Other Documents 1580-1614* (1975)) に収録された州統監と副統監の書簡を中心に用いる。

サー・クリストファー・ハットンは、エリザベス 1 世の寵臣の一人で、大法官 (Lord Chancellor) や枢密顧問官 (Privy Councillor) などの要職を歴任した⁵⁾。ノーサンプトンシャの統監には 1586 年に任命され、1591 年に死去するまで在任した。ノーサンプトンシャの出身ではあるが、州内に確固たる地盤を持たず、また、政府の要職にあるため、州を留守にすることが多く、政策の遂行にあたっては、副統監たちの協力がとりわけ重要であった。

ハットンを補佐する副統監の顔ぶれであるが、1586 年の統監就任時に、ハットンは、サー・ジョン・スペンサ (Sir John Spencer)、サー・リチャード・ナイトレイ (Sir Richard Knightley)、サー・エドワード・モンタギュ (Sir Edward Montagu) の 3 名を副統監に任命している。いずれも庶民院議員に選出されるなど、州内の有力なジェントリに属する人々である。ただし、スペンサは、残り 2 人に比べると、州内での地位も見劣りし、副統監としての活躍も目立たなかった⁶⁾。

統監の権限はどのようなものだったのか。1586 年 9 月、エリザベス 1 世はハットンにノーサンプトンシャの統監の任命状を発行した。このなかで、統監の任務として以下の事柄が挙げられている。

- ・州内のあらゆる身分、位階の人々を徴集・招集し、検査して部署に配置し、能力や位階に応じて武器を持たせ、査閲を行う。
- ・こうして集められた兵 (騎兵、弓兵、歩兵) を指揮して、女王に対する敵、反徒、犯罪者およびその協力者らと戦う。
- ・上で述べた反徒や犯罪者に対処するため、軍法を執行する。
- ・敵の侵略、反乱、暴動、不法な集会などが管轄区域外で生じたさい、現地へ赴き、対応する。
- ・管轄の州において、査閲官 (Muster Master) と憲兵

官 (Provost Marshal) を任命する。

- ・州内の治安判事、市長、州長官 (Sheriff)、州長官の補佐 (Bailiff)、治安官 (Constable) らは、統監および副統監に協力し、命令に服する。

このように、統監は州の軍事や治安の維持において中心的な地位を占めたのである⁷⁾。

2. アルマダ海戦以前

1585 年、スペインに対するネーデルラントの反乱をイングランドが援助して以来、イングランドとスペインは実質的に戦争状態に入っていた。本章では、1588 年 7 月から 8 月にかけてのアルマダ海戦以前の時期において、ノーサンプトンシャーで統監を中心にいかなる対応がとられていたかを考察する。

2. 1 1587 年 2 月～4 月

すでに 1588 年以前からイングランドでは、スペインの侵攻を想定した対策がとられていた。また、1587 年 2 月には、これは誤報であったが、すでにスペイン軍がチェスター市を攻撃したとのうわさも立っていた⁸⁾。

同じ 2 月に、枢密院は、統監ハットンに対して、民兵の徴集に関する命令を発している。その内容を以下で詳しく見ておこう。まず、ノーサンプトンシャーにおいて 1,200 名の民兵を徴集することが命じられた。その内訳は、480 名のカリバ銃兵 (calivermen)、240 名の弓兵、240 名の槍兵 (corselets)、240 名の長矛兵 (bills) であった。また、それらの兵士が女王の護衛を担当する可能性を考慮して、彼らが身体・体格の点で兵士にふさわしく、訓練の負担に耐えうる者であるように、という注文もつけられていた。さらに、内陸諸州に先行してすでに沿岸諸州で実施されている民兵訓練の指令書の写しがハットンに送付され、査閲官がこれに基づいて民兵を訓練することが求められていた。王国全体で統一的な訓練をおこなうための方策であった⁹⁾。

ただし、枢密院の命令の段階で、州に対する要求を軽減する措置もとられていた。すなわち、ノーサンプトンシャーの人々が民兵の訓練を嫌がる、あるいはそれに耐えられない場合には、実際に訓練を受けるのは、徴集された 1,200 名の 4 割にあたる 480 名のみでよい、と指示されていたのである¹⁰⁾。

以上の命令を受けて、ハットンは 3 月 15 日にサー・リチャード・ナイトレイとサー・エドワード・モンタギューの 2 人の副統監あての書簡で、命令通り民兵を徴集することを命じた。そのさい、兵士らが女王の護衛を担当す

る可能性を考えてか、容姿端麗な者を選ぶことを付け加えている¹¹⁾。

しかし、実際には民兵徴集は難航し、枢密院が求める人数、武器をそろえることは困難であった。副統監たちがハットンにその旨を伝え、負担の軽減を求めたことが、4 月 19 日にハットンから副統監 2 人にあてて出された書簡の中で触れられている。この書簡によると、ハットンは副統監からの報告を受けて、枢密院と交渉し、説得に成功したという。ノーサンプトンシャーはこの年に限り、歩兵 600 名と騎兵 100 名のみを徴集すればよいことになり、当初の約 2 分の 1 の負担に抑えられた¹²⁾。

2. 2 1587 年 6 月

1585 年、スペインに対するネーデルラントの反乱を支援するためにイングランドは遠征軍を派遣し、レスター伯ロバート・ダドリがその司令官に任命された。1587 年 6 月 8 日に枢密院からハットンに発せられた命令によると、ネーデルラント駐留軍に参加するため、ノーサンプトンシャーから 200 名の兵士を派遣することが求められた (この 200 名からは特別訓練隊は除く)。ただし、統監が寵臣ハットンであるためか、同州は優遇されており、200 名の兵に加えて、彼らの長剣と短剣の費用として 1 人あたり 10 シリングのみ負担すればよいものとされていた。他の州はこれに加えて、制服の費用も捻出せねばならなかったが、ノーサンプトンシャーの場合は、それらは女王が負担することになった¹³⁾。

ハットンは、ナイトレイとモンタギューの副統監 2 人にあてた 6 月 11 日の書簡で、200 名の兵士を集めることを命じたが、そのさい、ノーサンプトンシャーには女王から特別な待遇が与えられていること、よい兵士を派遣するという点について同州が高い評判を得ていること、などを付け加えた。女王からの恩恵の大きさと地元の評判の高さを強調することにより、命令の速やかな実施を促すことを狙っていたのだろう¹⁴⁾。

2. 3 1587 年 10 月

1587 年 10 月 9 日、枢密院からハットンへ命令が発せられた。それによると、スペインの陸海軍はイングランドへ向けて出発の準備が整っている、という報告を各方面から女王は受けたという。これにもとづき、枢密院はハットンに対し以下のように命令した。「ノーサンプトンシャーにおいて、これまで査閲を受けた者すべてが甲冑と武器の準備を整え、彼らが彼らの中隊長 (captain) とともに、突然通告を受けても、指示された場所へ集合できるようにしておくこと。兵士らのうち、死亡、または州外へ移ったものがある場合は、代わりに補充しておくこと」。

また、この命令では、査閲についても触れられている。

州全体を対象とする一般査閲 (general musters) を実施する時間がもはやないことを考慮して、ハンドレッド単位で査閲を実施することが命じられた。査閲の結果、装備を与えられ、任務に就くことができる者の人数および彼らを指揮する中隊長の人数を確定して、ただちに枢密院に報告することが求められた¹⁵⁾。

この命令を受けて、ハットンは 1587 年 10 月 11 日の書簡で、ナイトレイとモンタギューに対して州内の軍備を整え、査閲を実施するよう命じた。手紙の末尾には、この軍隊の準備において、「わが州が残りのどの州にも劣ることのないように」との文言が付け加えられている¹⁶⁾。

2. 4 1588 年 1 月

敵軍への備えは、軍備を整えることだけではなく、国内の不安要素に対して対策をとっておくことも含まれた。エリザベス時代には、祈りと礼拝のためにイングランド国教会へ来ることを拒むカトリック寄りの人々、「国教忌避者 (recusants)」の存在が問題であったが、この問題は、スペイン来襲が予想されるこの時期には一層深刻なものとなった。国教忌避者が、敵軍側に内通するおそれがあったのである。

すでに 1587 年 1 月には、枢密院から直接ナイトレイらに対して命令が発せられ、前年のバビントン陰謀事件への関与を疑われた John Arden とその兄弟が逮捕され、自宅が搜索され、陰謀の一味と交わした書簡その他の文書が押収されている¹⁷⁾。

1588 年 1 月 4 日、枢密院からハットンに書簡が送られ、スペイン来襲に備えて、国教忌避者を監視し、拘束して、彼らが敵軍に支援を与えるのを阻止することが肝要である、との方針が伝えられている。そのうえで、ハットンには、州内の国教忌避者の人数およびその地位を調べ枢密院に報告すること、また、国教忌避者のうち、もっとも反抗的で、目立つ人々を投獄・監禁して、たがいに情報のやり取りができぬようにすること、などが命じられている¹⁸⁾。

2. 5 1588 年 4 月

1588 年 4 月 2 日、枢密院はハットンへ書簡を送り、以下の事柄を知らせた。スペイン軍の侵攻準備が着実に進んでいるという報告を受け、イングランド全体の戦力の実態を把握するため、女王は、すでに諸州から枢密院へ提出されている査閲報告書 (muster certificate) の調査を命じた。その調査の結果、ノーサンプトンシャの報告書が未提出であることが判明した。女王はただちに枢密院を通じてハットンに命令を発し、州内における騎兵と特別訓練兵の査閲を実施し、その報告書を提出するよう求めた¹⁹⁾。

また、同じ 4 月 2 日には、ハットンと同じく枢密顧問

官のひとりで、国王秘書長官のサー・フランシス・ウォルシンガム (Sir Francis Walsingham) からハットンに書簡が送られた。ここでは、女王からの追加の命令が伝えられ、ノーサンプトンシャ在住で、士官・下士官として従軍経験のある軍人についての調査が要請された。すなわち、それらの軍人の名前、過去の軍歴、現在州内でついている任務などについて詳細に調べ、報告書を提出するよう命じられていた。この命令は特に迅速に遂行するよう指示されていたが、これは調査の結果、州の兵士を指揮する軍人に欠員があることが判明した場合、早急にそれを補完する手段を講じる必要があったためである²⁰⁾。

ハットンは、4 月 5 日に、副統監 (ナイトレイ、モンタギュー、そして、新たに副統監に加わったサー・トマス・セシル (Sir Thomas Cecil) の 3 名) に書簡を送り、これらの調査の実施、すなわち、査閲報告書の作成・提出と州内の軍人の調査、を命じている²¹⁾。しかし、4 月 13 日にハットンは副統監 3 名に書簡を出しているが、それによると、ノーサンプトンシャの査閲は依然実施されておらず、当然、査閲報告書も未提出であるという。副統監たちは、命令を遂行する意志があり、また、その準備も整えている、とハットンに答えているのだが、手続き上の不備があることを盾にとり、査閲の実施を渋っていた。すなわち、副統監としての任命書を女王から受け取っていない、というのである。大法官でもあるハットンは、自筆の任命書を発行して、早急に任務を実行するよう命じている²²⁾。

しかし、報告書の作成・提出は遅々として進まなかった。2 か月後の 6 月 19 日に、ウォルシンガムはハットンへの書簡で、ノーサンプトンシャの査閲報告書と軍人についての調査報告書がいまだに提出されていないことを指摘している²³⁾。ハットンは、ナイトレイら 3 名の副統監に対し 6 月 22 日の書簡で、「報告書の作成を命じてからかなり時間が経過したが、いまだに受け取っていないのは奇異に思う」と述べて、任務の遂行を強く求めている²⁴⁾。結局、報告書が提出されたのは 7 月下旬になってからであった²⁵⁾。

以上、1588 年春までのノーサンプトンシャの統監らの活動を見てきた。民兵の徴集・訓練にかかわる任務に加えて、ネーデルラント派遣部隊の徴集、国教忌避者の取り締まりなど、様々な任務を担当していたことがわかる。また、徴集すべき民兵の人数をめぐるやりとり (1587 年 2 月～4 月) からわかるように、副統監に代表される州の地元のジェントリたちは、枢密院の命令をただ忠実に実行したのではなく、統監ハットンに負担軽減を訴えるなど、州の立場を積極的に主張していた。ハットンが枢密院との交渉を余儀なくされるなど、中央と地方のそれぞれの立場のせめぎ合いの様相を呈していたことが窺える。

さらに、査閲報告書提出をめぐるやりとり（1588年4月～6月）からは、スペイン軍の侵攻を深刻に懸念する中央政府と、比較的安全な内陸の州の副統監たちとの間の危機意識のギャップを見て取ることができよう。

3. アルマダ海戦前後

1588年6月ともなると、スペイン艦隊がイングランドへ向けて接近している、との情報も伝わり、戦争の準備はさらに加速する。陸上での戦争準備についてのやり取りも、少なくとも枢密院と統監ハットンから発せられた書簡を見る限り、より切迫したものになっていく。その一方で、命令を実行する副統監たちの対応には、やや緊張感に乏しい側面があるのは否定できない。前章でも見たように、中央政府と内陸の州の危機意識のギャップから来るものであろうか。本章では、スペイン艦隊来襲直前・直後の時期におけるノーサンプトンシャの戦争準備の状況を検討する。

3. 1 1588年6月

スペイン艦隊がすでに出航し、ビスケー湾沿岸へ達したとの報せが女王に届けられたことを受けて、枢密院は、1588年6月15日の書簡で、当時ロンドン南東のグリニッジ宮殿にいたハットンに対し、女王の命令を3点伝えた。まず、州内の兵力が臨戦態勢を整えることが重視され、州の兵士を率いるすべてのジェントルマンは州内にとどまっておくべきこととされた。一般の兵士についても同様で、特別訓練隊の兵士には州外への移動が禁じられた。命令に従わぬ者に対しては、40日間の投獄に加え、統監と副統監の裁量で罰則を加えることが認められた。また、兵士たちは、召集の命令ができれば、即時に対応できるよう準備を整え、装備の点検も怠ることのないよう命じられた。

次に、女王を護衛する任務のため、ノーサンプトンシャから400名の兵士を派遣することが命じられた。

3点目の命令は、治安の維持に関するもので、外敵の襲来に伴い、民衆が不安を感じるなか、虚偽のうわさを広めて混乱を生じさせる連中が現れた場合の対策に関わるものであった。そのような不安分子である浮浪者や貧民などへの対策が必要であるとされ、憲兵官を任命することが命じられた。憲兵官の任務は、州内を巡回し、治安判事や治安官の協力を受けつつ不穏な連中を逮捕し、さらし台にかけた後、労働させ、あるいは投獄するなどして処罰するというものであった²⁶⁾。

同じ6月15日付の、ナイトレイ、モンタギュ、セシルの3名の副統監に宛てた書簡において、ハットンは上の

3点の命令の遂行を命じている。特に400名の兵士の派遣については、女王の護衛という任務上、女王の目に留まる可能性を考え、精選された装備を身につけ、指揮する中隊長の人選にも注意するよう指示を出している。また、ノーサンプトンシャは派遣する兵士数を他州に比べて少なめに割り当てられていることを付け加え、この特別な配慮に報いるためにも、兵士派遣を滞りなく遂行するよう、念押ししている。兵士らを引率する任務は、副統監の重鎮ナイトレイに委ねられた。枢密院の3点目の命令、憲兵官任命については、副統監たちに人選が一任された²⁷⁾。

さらに6月18日には女王から直々に各州の統監に書簡が送付された。州内のジェントルマンを召集し、彼らに現在のスペイン来襲の危機について話し、武器の提供を求めよ、というものであった²⁸⁾。ハットンは、6月22日付の書簡で3名の副統監に命令を伝えた。その内容は、州内のジェントルマンは、その能力と位階に応じて、これまで以上に大規模に武装を整えておくこと、また、敵軍侵入に備えて、個人の住居や財産の防衛に対する準備も進めておくこと、であった²⁹⁾。

3. 2 1588年7月

7月下旬には一連のアルマダ海戦が戦われることになるが、リッチモンドの宮殿に滞在するハットンが7月18日に副統監に出した書簡では、女王の護衛として派遣予定の400名の兵士に制服と旅費を与えるよう指示されている。その費用は州の負担となっていた³⁰⁾。

翌7月19日にハットンが副統監に送った書簡では、前日の命令が繰り返され、さらに制服の費用と旅費を地元で負担すべきであることの根拠が列举されている。すなわち、他州も同様に負担していること、ノーサンプトンシャはこれまで兵士の派遣などの負担の点で優遇されてきたこと、さらに、現在のような緊急時においては、副統監たちの見解とは異なり、州の人々も費用の負担を嫌がることはないであろうこと、などである³¹⁾。

同日、兵士400名を引率するナイトレイに対して別個に書簡が送られ、兵士たちが他州の兵に比べて、有能かつ容姿に優れていることに特に配慮するように、と注文が付けられている³²⁾。

枢密院からは、7月29日までに女王のもとへ兵士を派遣するように、と期限が設定されていたのだが、兵士の派遣は順調には進まなかった³³⁾。まず、制服の費用と旅費の負担に対して地元で不満の声が上がり、副統監らはハットンに負担軽減を求めてきた。7月23日の副統監への書簡において、ハットンは彼らを叱責し、この任務の重大性を認識し、地元の人々を説得して協力させるよう、説いている³⁴⁾。

また、兵士の到着期限の前日、7月28日には、兵士の

引率を担当する副統監ナイトレイが、ハットンに対して「兵士らがロンドンで宿営すべき場所について指示してほしい〔つまり宿営場所が未定ゆえ出発できない〕」、と書き送っている。これに対するハットンの返事は厳しいもので、ロンドンには宿営場所はいたるところにあり、何よりもロンドンへ来ることを優先せよ、というものであった。同時に、道中およびロンドンにおいて問題が生じれば、ハットンはいかなる手段を講じてナイトレイを支援することを約束し、彼が任務の遂行に専念できるよう援助を惜しまない態度を示している³⁵⁾。

ただし、現実には 400 名の兵士のなかにはロンドンへ行くことを拒んだ者もいた。アルマダ海戦終了後の 8 月 14 日に、地方からロンドンへ集められた部隊全体の指揮官、ハンズドン卿ヘンリ・ケアリ (Henry Carey) は、副統監ナイトレイとモンタギュに宛てて書簡を出しているが、その中で、ロンドンで任務に就くはずだったが、それを拒んで地元にとどまった兵士がいることを伝えている。ハンズドン卿は、彼ら 4 名の兵士を、処罰のために自分のところへ出頭させるよう命じている³⁶⁾。

このように、1588 年 7 月の兵士 400 名の派遣をめぐるやり取りからは、政府の命令が地元の利害や副統監側の事情により、紆余曲折を経ることを余儀なくされた有様を見て取ることができる。ただ、アルマダ海戦までに兵士を派遣できたノーサンプトンシャは、まだ合格点を与えられる水準であったといえるのかもしれない。他の州のなかには、アルマダ海戦までに派遣が間に合わなかったところもあったのである³⁷⁾。

もっとも、州の側のみならず、政府の側も混乱していた。外敵来襲という緊急事態のもと、場当たりの命令を発することもあったのである。一例を紹介すると、王国全体での武器の不足という事態が背景にあるのだが、7 月 28 日にハットンがナイトレイに出した書簡によると、枢密院は、弓矢の射手を集めて予備隊を編成することを考え、ハットンに州内の射手の調査を命じてきた。ハットンは仕方なくナイトレイに射手の調査を命じ、いざとなればかれらが任務につくことができるようにせよ、と指示した³⁸⁾。

4. アルマダ海戦以後

アルマダ海戦の勝利以後も、依然、対スペイン戦は継続しており、戦争の準備を怠ることはできなかった。この時期のノーサンプトンシャの統監と副統監について特筆すべき事柄は、1589 年 1 月以降の強制借上げ金 (forced loan) をめぐる問題である。この問題の概略を以

下で見てみよう。

対スペイン戦の財政的負担に苦しむ政府は、議会の承認を必要としない強制借上げ金の徴集によって急場をしのぐとした。1589 年 1 月 23 日のナイトレイとモンタギュへの書簡で、ハットンは、枢密院から強制借上げ金徴集の命令が届いたこと、枢密院が州内の各人に割り当てた通りに徴集すべきこと、を伝えた³⁹⁾。

ナイトレイが州選出の庶民院議員に選出され、1589 年から副統監職と議員を兼任するようになったこともあり、借上げ金の徴集は、おもにモンタギュが担当したようである⁴⁰⁾。そのモンタギュからナイトレイに対して、1589 年 2 月 13 日に書簡が送付されているが、それによると、借上げ金の徴集には、多くの人々から反対の声が上がっているという。枢密院による各人への割り当てが不公平である、との声もある。割り当てられた額が大きすぎて払えない者がいる一方、十分に富裕であるにもかかわらず借上げ金を免除されている者も多いという⁴¹⁾。

2 月 17 日には、モンタギュは再びナイトレイに書簡を送り、同封のハットン宛の書簡を一読し、内容に同意するならば、ハットンに送付するよう、依頼している。同封の書簡のなかで、モンタギュは次のように述べている。

信頼できる情報ですが、リンカーンシャは、ノーサンプトンシャの 3 倍の大きさで、尊敬され、裕福なジェントルマンが数多く在住しているにもかかわらず、たった 3,500 ポンドしか借上げ金を割り当てられていない、と聞きました。わが州は 4,000 ポンド〔後で触れるハットンの書簡などの内容より、5,000 ポンドの誤り〕も割り当てられているので、不当な扱いを受けているというのは正当な言い分です。

さらに、借上げ金の負担に加え、干し草や家畜の減少など農業の不作によりノーサンプトンシャは大きな被害を受けている、と付け加えて、これらを枢密院に伝えるようハットンに要請している⁴²⁾。

約一か月後の 3 月 16 日、ハットンは枢密院との交渉の結果をナイトレイとモンタギュに伝えている。5,000 ポンドはノーサンプトンシャが負担できる額を超えている、との訴えが認められ、3,500 ポンドに減額された。どのように減額するかについては、副統監 2 人に一任されることとなった⁴³⁾。

しかし、副統監らはそれに満足せず、さらに 3,000 ポンドにまで減額するよう要求し、ハットンは再び枢密院との交渉を余儀なくされる。交渉の結果、この要求も認められた。ハットンは 5 月 16 日の書簡で副統監らに 3,000 ポンドへの減額のことを伝えるとともに、速やかに借上げ金を徴収するよう指示している⁴⁴⁾。

しかし、徴収は難航したようである。6 月 16 日にモン

タギュがナイトレイに送った書簡によると、借上げ金を割り当てられた人々に対して、6月1日を支払い期限と設定していたにもかかわらず、6月16日の時点で、31名が未払いで、未払い金額は950ポンドにのぼった⁴⁵⁾。

すでに民兵徴集のさいにも見られたことだが、副統監らは、枢密院からの命令を鵜呑みにはしていなかった。地元の不満の声を代弁したり、他州の例を引いたりしつつ、自分たちの主張を統監ハットンに伝え、なんとか譲歩を引き出そうと画策していたのである。

5. おわりに

アルマダ海戦に代表されるスペインとの戦争は、エリザベス朝イングランドにとってまさに国家の存亡を賭けた正念場であった。それゆえ枢密院が地方に課す要求も例外的に厳しいものとなりがちであった。本稿が明らかにしたように、在地の有力者である副統監らは、度々枢密院の要求に待ったをかけ、要求のハードルを下げることを求めた。統監ハットンは、州における行政の現場を知る副統監らの主張を枢密院に伝え、両者を調整する役割を帯びた。副統監の要求のうち、統監ハットンが受け入れたもの（強制借上げ金の減額など）と拒んだもの（女王の護衛のための兵士の派遣など）があったことに着目するならば、統監としての彼は、一定の方針のもとに枢密院と州社会を調整し、前者の要求を現実的なレベルに変換する役割を果たしたとすることができるのではない。中央政府とローカルな州社会の間の、このような複雑な「対話」（統監ハットンという仲介者を經由しての）を通して実際の政策は遂行されていたわけで、その意味で本稿で考察したいくつかの例は、エリザベス朝イングランドの統治の実態を如実に示すものであった。

ただ、統監ハットンの立場と役割については、本稿で論じ残した点も多い。彼は、枢密院と副統監の間で板挟みになりながら、妥協を重ねたうえで、枢密院側の命令を担当の州で実行することに、ある程度は成功していた。そのことに、女王の寵臣で、大法官と枢密顧問官を兼ねる大物の廷臣であるという彼の立場がどのように関わったのか。また、当時のパトロン-クライアント関係の実態を考えると、ノーサンプトンシャーにおいてハットンがこのような非公式な関係を情報収集や政策遂行に活用した可能性も否定できない。史料上制約の多い領域ではあるが、今後の課題としたい。

注

- 1) Younger (2012), pp. 15-19; Hammer (2003), pp. 140-141; Jones (2015), pp. 172-176.
- 2) Younger (2012), pp. 19-27.
- 3) Younger (2012), pp. 28-35.
- 4) Younger (2012), p. 116.
- 5) ハットンの伝記としては次のものを参照した。Deacon (2008).
- 6) P. W. Hasler (ed.), *The History of Parliament: The House of Commons 1558-1603* (London, 1981), vol. 2, pp. 405-406, vol. 3, pp. 68-69, 425.
- 7) *NLP*, pp. 1-3.
- 8) Younger (2012), p. 113.
- 9) *NLP*, p. 35.
- 10) *NLP*, p. 35. これは、いわゆる特別訓練隊 (Trained band) のことで、民兵の中から選抜された精鋭に強化訓練を施す狙いがあった。
- 11) *NLP*, p. 34.
- 12) *NLP*, pp. 37-38.
- 13) *NLP*, pp. 40-41.
- 14) *NLP*, pp. 39-40.
- 15) *NLP*, pp. 42-43.
- 16) *NLP*, pp. 41-42.
- 17) *NLP*, pp. 32-33.
- 18) *NLP*, pp. 47-48.
- 19) *NLP*, pp. 49-50; Younger (2012), p. 114.
- 20) *NLP*, pp. 50-51.
- 21) *NLP*, pp. 48-49.
- 22) *NLP*, pp. 51-52.
- 23) *NLP*, p. 56.
- 24) *NLP*, pp. 54-55.
- 25) *NLP*, pp. 58-59.
- 26) *NLP*, pp. 53-54.
- 27) *NLP*, pp. 52-53.
- 28) Younger (2012), p. 114.
- 29) *NLP*, pp. 54-55.
- 30) *NLP*, pp. 56-57.
- 31) *NLP*, pp. 57-59.
- 32) *NLP*, pp. 59-60.
- 33) *NLP*, pp. 60-61.
- 34) *NLP*, p. 60.
- 35) *NLP*, p. 62.
- 36) *NLP*, p. 67.
- 37) Younger (2012), p. 124.
- 38) *NLP*, p. 61; Younger (2012), pp. 125-126.
- 39) *NLP*, p. 72.
- 40) 1588年10月に、ハットンは、ナイトレイに対して、ノーサンプトンシャーの州選出議員として立候補するよ

う勧めていた。NLP, pp. 70-71. また、ナイトレイは、これ以前に都市選挙区で議員に選出された経歴を持っていた。P. W. Hasler (ed.), *The History of Parliament: The House of Commons 1558-1603* (London, 1981), vol. 2, pp. 405-406.

41) NLP, pp. 72-73.

42) NLP, p. 76.

43) NLP, p. 77.

44) NLP, pp. 80-81.

45) NLP, pp. 82-83.

参考文献

Primary Sources

J. Goring and J. Wake (eds), *Northamptonshire Lieutenancy Papers and Other Documents 1580-1614* (1975) (NLP と略記)

Secondary Sources

Deacon, M., *The Courtier and the Queen: Sir Christopher Hatton and Elizabeth I* (2008).

Hammer, P. E. J., *Elizabeth's War: War, Government and Society in Tudor England, 1544-1604* (Basingstoke, 2003).

Hasler, P. W., (ed.), *The History of Parliament: The House of Commons 1558-1603*, 3vols (London, 1981).

Jones, N., *Governing by Virtue: Lord Burghley and the Management of Elizabethan England* (Oxford, 2015).

MacCaffrey, W. T., *Queen Elizabeth and the Making of Policy, 1572-1588* (Princeton, 1981).

Younger, N., 'Searching the Monarchical Republic: the Remaking of the Lord Lieutenancies in 1585', *Historical Journal*, vol. 84 (2011).

Younger, N., *War and Politics in the Elizabethan Counties* (Manchester, 2012).

The Lord Lieutenant in Northamptonshire during the Armada Crisis.

Tsuyoshi MIYAGAWA

From 1585 until the end of Elizabeth I's reign, England was at war with Spain. These eighteen years of continual warfare presented one of the most severe governmental challenges facing the Elizabethan regime. Several significant parts of war effort, primarily the defence of the realm by militia, were entrusted to the lord lieutenants in the counties, who supervised the raising of money for military purposes, levied troops and oversaw the regular mustering of the county's trained bands. Appointed by the queen and aided by the deputy lieutenants who in the main were selected among the local gentries, the office of lord lieutenants became an important bridge between the court and the localities. This article tries to show how Sir Christopher Hatton, who was one of the queen's favorites and served as the lord lieutenant of Northamptonshire during the Armada crisis in the late 1580s, managed to prepare in his county against the Spanish invasion. The intensive research on the military administration in a county presents important clues to assess how the lord lieutenant reconciled the demands of the central government and the local society in the face of the national crisis.

群馬高専レビュー要項

(平成20年7月15日改訂)

1. 名称について

本誌の名称を、群馬高専レビュー (THE GUNMA-KOHSEN REVIEW) と定める (通称「レビュー」と言う)。

「レビュー」の発行は、年1回年度末までに行う。

2. 編集発行事務について

「レビュー」の編集発行は、教育研究委員会がこれを行う。

教育研究委員会には、常任編集委員若干名をおき、教育研究委員会委員長がこれを総括する。

事務は、総務課総務・広報・評価係においてこれを処理する。

3. 内容と目的について

「レビュー」は、高専教育の向上と本校教職員の研究成果を公表することを主目的とし、オリジナリティーのある未発表の論文を原則とする。

4. 投稿資格について

投稿者は、原則として本校の専任教職員に限る。ただし、共同発表に関しては本校の専任教職員が代表者である場合に限り、外部の研究・教育及びそれに相当する機関に所属する者についてのみ許される。

また、論文の投稿者名は、事前に提出する申込書に記された投稿者と同一であることとする。

5. 体裁について

(1) 印刷上の体裁

A4判、本文10ptフォント、ヨコ2段組とする。なお、特別のタテ書き原稿はタテ2段組とし巻末からおこす。

(2) 掲載順について

論文は、理工系・人文系に大別し、その掲載は受理日の順とする。ただし関連論文はなるべくまとめる。

(3) 体裁の統一について

執筆要領の詳細は別に定めるが、論文提出について、体裁の統一上必要な修正を編集委員から依頼することがある。

6. その他

(1) 原稿の執筆・投稿・受理に関しては、別に定める「群馬高専レビュー執筆・投稿要領」による。

(2) 別刷の作成は、原則として、自己の研究費負担とする。

群馬高専レビュー執筆・投稿要領

(平成22年6月10日改訂)

群馬 太郎* 高専 花子**

(20××年11月28日受理)

1. 原稿形式について

A4判の白上質紙を用い、和文ヨコ書き・和文タテ書き・欧文原稿のすべてにおいて、タイトルページは2つの部分で構成されます。

タイトル部分：1段組（題目、著者、受理年月日）

本文部分：2段組

1. 1 タイトル部分のレイアウトとフォント

全てのページのマージンはこのサンプルのように上辺25mm，下辺30 mm，左右ともに14 mmに設定して下さい。

そして、以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体20pt フォント，センタリング
(約 10 mm のスペース)

著者名：明朝体 14 pt フォント，センタリング
(約 5 mm のスペース)

受理年月日：明朝体 12pt フォント，センタリング

著者と所属（フッタ）とは*印で対応づけて下さい。

1. 2 本文部分のレイアウトとフォント

本文と受理年月日の間に約 10 mm のスペースを設けて下さい。

本文は2段組で、左右のマージンは 14mm ずつ、段と段との間のスペースは約 6 mm とします。

和文ヨコ書き：25文字×48行程度

和文タテ書き：35文字×33行程度

欧文原稿：25文字×48行程度

本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい。

1. 3 フッタ

著者に対応する所属を記入して下さい。なお、群馬高専に所属している場合には、学科名のみ記入して下さい。

1. 4 原稿枚数について

原稿枚数は、12ページ以内として下さい。

*○○工学科 **○○センター

2. 見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

2. 1 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節の2段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下に1行程度のスペースを設けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい。

2. 2 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、2. 1 などの数字に続けて書きます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

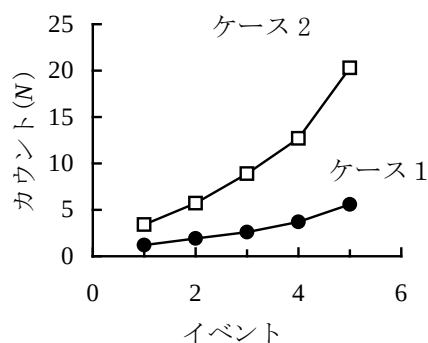


図-2 図のキャプションは図の下に置く

3. 図表および注

3. 1 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。

3. 2 図表中の文字およびキャプション

図表のキャプションは、図の場合は下方に図-1、図-2 のごとく、表の場合は、表の上方に表-1、表-2 のごとく付記して下さい。欧文原稿の場合は、Fig. 1やTable 1として下さい。長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します。

3. 3 注

注は脚注・章末注の2本だてとして下さい。引用文献の注記やその他くわしい注記は章末注にまとめ、脚注は最小限にとどめることとします。脚注番号は、*印で*、**のごとく、章末記号は、片バーレーンで1)、2)のごとく記して下さい。

4. 最終ページおよび英文要旨

原稿が和文の場合、または英語以外の外国語で書かれた場合には、英文による論文題目、著者名及び400語程度の論文要旨が必要となります。

最終ページに、英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。タイトルは、Times New RomanのBold(太字)で20pt、著者名は、Times New Romanで14pt、要旨は、Times New Romanで10ptとします。

なお、和文タテ書きの場合は、英語要旨は別ページにして下さい。

5. 原稿の提出・受理について

投稿希望者は、7月末までに「群馬高専レビュー投稿申込書」を総務・広報・評価係担当者に提出して下さい。

原稿は、締切日までに総務・広報・評価係担当者に提出して下さい。提出日を以て論文受理日付とします。その際、本論文にコピー1部を添付すると共に、電子ファイルを担当者に送付して下さい。

申込書や原稿が期日に遅れた場合、投稿要領に著しく反している場合は受理されないことがあります。また、原稿締切日以降の原稿内容の変更は認めません。

6. 著作権

「群馬高専レビュー」に掲載された論文の著作権*のうち、複製権および公衆送信権は、群馬工業高等専門学校に帰属するものとします。

なお、営利を目的とせず、著作者自身が論文の複製および公衆送信を行う場合、群馬工業高等専門学校は、著作者からの申し出がなくてもこれを許諾します。その際、著作者は、出典(誌名・巻号・ページ・掲載年)を明記することとします。

*著作権法第21条から第28条に規定する権利

参考文献

- 1) 群馬太郎, 高専花子: 高等教育の展望, 教育研究センター, 第40巻, pp. 40-46, 2006.
- 2) 日本研究協会: 高等教育・研究機関における最先端研究戦略、工学部門編, pp.110-120, 2007.
- 3) Gunma, T. and Kousen, H.: A Study on the Evolution of Education and Research in the National College of Technology, Journal of Education Research Center, pp.110-120, 2007.

Print Sample for Japanese Manuscript for the GUNMA-KOHSEN REVIEW

Taro GUNMA and Hanako KOHSEN

The present paper has been made as a print sample of the Japanese manuscripts for the GUNMA-KOHSEN REVIEW. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt.

Print Sample for Japanese Manuscript for the GUNMA-KOHSEN REVIEW

Taro GUNMA and Hanako KOHSEN

The present paper has been made as a print sample of the Japanese manuscripts for the GUNMA-KOHSEN REVIEW. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12p.

広報・評価係担当者に提出して下さい。

原稿は、締切日までに総務・広報・評価係担当者に提出して下さい。提出日を以て論文受理日付とします。その際、本論文にコピー一部を添付すると共に、電子ファイルを担当者に送付してください。

申込書や原稿が期日に遅れた場合、投稿要領に著しく反している場合は受理されないことがあります。また、原稿締切日以降の原稿内容の変更は認めません。

六、著作権

「群馬高専レビュー」に掲載された論文の著作権*のうち、複製権及び公衆送信権は、群馬工業高等専門学校に帰属するものとします。

なお、営利を目的とせず、著作者自身が論文の複製および公衆送信を行う場合、群馬工業高等専門学校は、著作者からの申し出がなくてもこれを許諾します。その際、著作者は、出典（誌名・巻号・ページ・掲載年）を明記することとします。

*著作権法第二一条から第二八条に規定する権利

参考文献

- (一) 群馬太郎、高専花子：高等教育の展望、教育研究センター、第四〇巻、四〇頁—四六頁、二〇〇六
- (二) 日本研究協会：高等教育・研究機関における最先端研究戦略、工学部門編、一一〇頁—一二〇頁、二〇〇七

見出しのレベルは**章、節**の二段階までとします。**章**の見出しはゴシック体とし、二、などの数字に続けて書きます。また、見出しの左右に一行程度のスペースを設けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最右部に来るよう調整して下さい。

二、二 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、「二、一」などの数字に続けて書きます。見出しの右だけに一行程度のスペースを空けて下さい。

三、図表および注

三、一 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表の横幅は、「二段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表や図のように「一段の幅いっぱい」のいずれかとします。

三、二 図表中の文字およびキャプション

表及び図のキャプションは、左におき、長くなる場合はインデントして折り返してください。

三、三 注

注は脚注・章末注の二本だてとして下さい。引用文献の注記やその他くわしい注記は論文本文の最後にまとめるか、章末注にまとめ、脚注は最小限にとどめることとします。脚注番号は、*印で*、**のごとく、章末記号は(一)、(二)のごとく記して下さい。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65
4	1.45	0.25
5	1.75	0.40
6	1.90	0.65
7	1.45	0.25
8	1.75	0.40
9	1.90	0.65
10	1.45	0.25
11	1.75	0.40
12	1.90	0.65
13	1.45	0.25
14	1.75	0.40
15	1.90	0.65
16	1.90	0.65

表1 表および図のキャプションは表の左に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

四、最終ページおよび英文要旨

原稿が和文の場合、または英語以外の外国語で書かれた場合には、英文による論文題目、著者名及び四百語程度の論文要旨が必要となります。別ページに、英文のタイトル、著者名および要旨を横一段組で書きます。タイトルは、Times New RomanのBold(太字)で20ポイント、著者名は、Times New Romanで14ポイント、要旨は、Times New Romanで10ポイントとします。

五、原稿の提出・受理について

投稿希望者は、七月末までに「群馬高専レビュー投稿申込書」を総務・

群馬高専レビュー執筆・投稿要領（タテ書き）

群馬 太郎* 高専 花子**

（二〇〇八年一月二八日受理）

一、原稿形式について

A4判の白上質紙を使用してください。

全てのページのマージンはこのサンプルのように上辺 25 ミリ、下辺 30 ミリ、左右ともに 14 ミリ、に設定して下さい。

一、一 タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトル部分は一段組にして下さい。

以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体 20 ポイントフォント、センタリング

（約 10 ミリのスペース）

著者名：明朝体 14 ポイントフォント、センタリング

（約 5 ミリのスペース）

受理年月日：明朝体 12 ポイントフォント、センタリング

著者と所属（テキストボックス内）とは*印で対応つけて下さい。

一、二 本文部分のレイアウトとフォント

本文部分は二段組にして下さい。

本文と受理年月日の間に約 10 ミリのスペースを設けて下さい。
本文は二段組で、左右のマージンは 14 ミリずつ、段と段との間のスペースは約 6 ミリとします。

和文ヨコ書き：二五文字×四八行程度

和文タテ書き：三五文字×三三行程度

欧文原稿：二五文字×四八行程度

本文には明朝体 10 ポイントフォントを用いて下さい。

一、三 テキストボックス内

著者に対応する所属を記入して下さい。なお、群馬高専に所属している場合には、学科名のみを記入して下さい。

一、四 原稿枚数について

原稿枚数は、一二ページ以内として下さい。

二、見出し（見出しが一行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

二、一 見出しのレベル

*〇〇学科 **〇〇センター

A Report on *Hosshōzan-Tenmangū-no-Engi* in the Possession of Jissōji-Temple

Yukio OSHIMA

There are many variants of Tenjin-Engi (The Origin of Tenjin), such as *Kitano-Tenjin-Engi* (北野天神縁起), *Egara-Tenjin-Engi* (荏柄天神縁起), and so on. *Hosshōzan-Tenmangū-no-Engi* (法性山天満宮之縁記) is one of those variants of Tenjin-Engi, enshrined in Hosshōzan-Jissōji-Temple (法性山実相寺) in Tomioka City, Gunma Prefecture, which narrates the legendary origin and history of Tenjin. A manuscript book in the possession of Jissōji-Temple is the only text of this narrative. The text was copied by hand in 1894 from the original, written in 1663. Unfortunately the original is missing.

An important characteristic of the text differentiating it from other variants is that it contains folk traditions peculiar to the area around Jissoji-Temple. Consequently it should be recognized that the text is a valuable material with which to investigate the local trend of the faith in Tenjin.

In this paper, I reprint the text and give a commentary on it.

伝灯大法師位阿闍梨権大僧都伝戒法師

六十五老 慶海 書

于時寛文三年八月廿五日書之「七才

菅相公道真詠歌

去来斯^{イカニ}吾^カ之世和^ハ経^{キョウ}那^ナ無^ム菅^{カネ}原^{ハラ}弥^ヤ伏^フ見^ミ里^リ乃^ノ荒^{アラ}莫^ム茂^シ那^ナ志^シ

伏見ノ里ノ古歌、又ハ京ノ伏見^{トモ}云リ、

西行法師

ふして見ハ玉の^{イカ}薨^シもあたならん

月のみやこの影^{カゲ}たかき世に

菅原は休^{フシ}見^ミのさとおたちいで

さかきこゑしてみねこさ入れ「七ウ

当山六拾四世

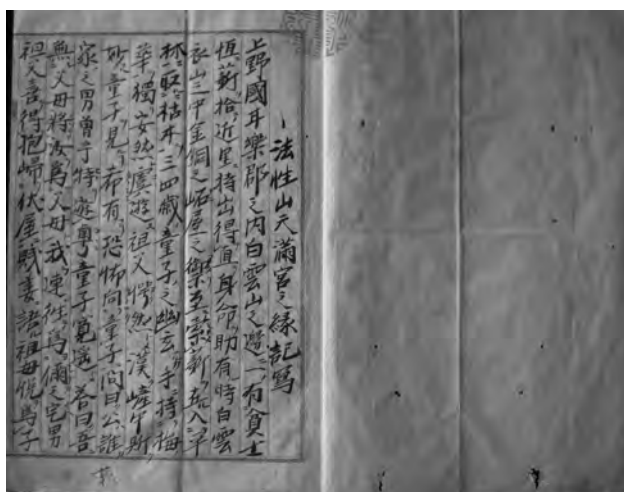
伝灯大阿闍梨権少僧都澄賢和南

写之置者也

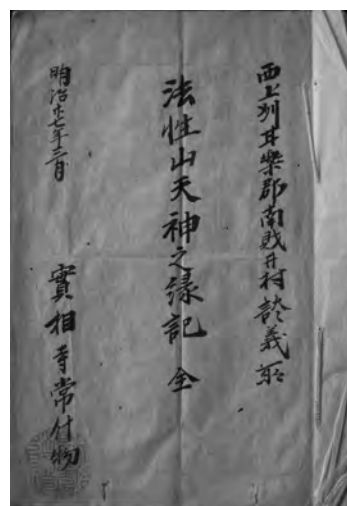
明治二十有七年三月廿五日

山王大師

守護所「裏表紙裏



冒頭



表紙



7丁表・6丁裏



裏表紙裏

宮ハ公家ノ為_レ祖、武家ノ為_レ祖、或寺社ノ為_レ護神、或豐民ノ為_レ守神、如_レ斯不_レ立_レ家、奚為_二菅家之的氏_一、在_二福録官位之_一、有德之大公人、公武之家君、而鼻祖ノ社檀朽傾古_二破_レ敗捨_一、不_レ痛耶、何捨_二小財_一不_レ齊乎、無_レ本無_レ立_レ末、本堅_二枝葉榮_一、広天之道北野ノ廟、王道之為_二鎮守_一、大臣公方之脩、覆曆々タリ、此菅原ノ廟檀ハ、菅家之為_二根元_一、久_レ捨無_レ聞_二天_一下、悲哉、是為_レ本不_レ及_レ末、朽傾破壞捨墮、求_二昔_一奉記、這_二介_一此記録由謂、而_二法性山_一崇_二ル_一ハ、天神ノ宮ヲ、斯_レ須有_二由_一以、自_レ古顧_レ古タルヲ輔_レ破タルヲ、至_二古來今時_一、當寺開山尊意僧正ハ、天神之_二四ウ_一為_二師範_一、本山十三代為_二座主_一、奉_レ祈_二天子尊運_一、昔創_二此寺_一、令_二山居_一晶_二法燈_一、此時菅相公來_二此寺_一、意公問_二道書_一ヲ學、深緑之所_レ曳、尊意_ハ後_二山門之為_二座主_一、相公奉_二皇天_一仕_レ位至_二大臣_一、仁德_ハ薄_二天下_一、治_レ國矜_二民_一、名聞遠_二英_一、今崇_二大政大威德天滿大自在天神_一、且_ク在_二此ノ國縁_一、故_二所_一トシテ無_レ不_レ崇_二神社_一所上、德輝_ハ洽_二而充_二威_一一天_一云、天神之生所_二ヲ_一菅原_一有_二由_一謂_二矣_一、天神昔居所_二ヲ_一名_二伏見里_一、為_レ順_二大都_一、亦者少公ノ志意至善_二惑_レ民志深_一、故_二感_二其德_一作_二菅筵_一為_二請_二少公_一、人伏_二見_二相公ノ德敬_一、故_二名_二伏見里_一、亦称_二菅原_一為_レ氏ト、亦菅艸此里ニ生茂、民者取_レ之葺_二家作_二筵居_一、故_二得_レ字_一ヲ、亦伏見里_ハ五才相公伏_レ此見_二四方_一、山里ノ風影相_二似_二城都_一故_二、目_二此所_一曰_二朝都_一ト、又伏_二此所_一夢_二咸_二王城宮殿樓閣磨_二珠大内聳_一雲巖妙_一ナルヲ、亦大臣公卿出入去來_二シテ_一、夢_二郡參_一故_二、名_二伏見里_一、今此寺ヲ喚_二法性山_一、昔法性坊尊意ノ行跡ナルカ故_二、名_二法性山_一、結_二崇天_一神廟_一事ハ、中頃、此寺久_ク捨墮、中興守明禪師ト云人來_二自_二叡山_一為_二弘法_一故_二、徼_二住所_一ヲ、天神彼ノ道人ニ相_二見夢中_一云、吾_レ住_二此地_一、貴僧ノ來臨_二相_二需_一コト良久、吾_ハ惟_レ崇_二世人_一所之、天滿宮ナリ、昔此所_二有_レ寺、吾師法性坊住給_二ル_一地也、吾_レ少人ノ時、峴_二斯_一隨_二師_一

読章、此故_二和尚來_一相待_二コト久_一シ、転_レ鈴告_二四方_一、十方之檀信_二寥_一力道場興_二、吾_レ共_二加_二守護_一成_二護法之神_一誓_二給_一リ、此_二五ウ_一故_二守明造_一寺崇_二天神廟_一、故_二當寺菅原之繁榮_一ヲ喜_レリ、此寺ヲ菅家之名_二氏寺_一、菅少公因_二尊意_一、_二法書_一故_二ナリ、_二在_二如法経行_一、新田之苗裔岩太郎某_ハ義興之的_一子ナリ、生_レ雖_二貳歳_一、母新慎_二忍_二藏_一栖_二被_レ為_レ害求_一、故_二遁_レ來_二此辺_一、終_二在_二俗命危_一、故_二竊_二令_二出家_一陰_二父名_一号_二義円_一、慎_レ名政_二家_一含_二心中_一尊靈得果_一、興_二如法経行_一、義貞公、義助、義興ノ尊儀奉_レ祈_二菩提_一、今_二此于縁記_一ニ書乗_二ル_一コトハ、在_レ由、義円法師ノ母詣_二此天神廟_一、祈_二遁_一、害命難_一、若得_二神力_一俾_二此子在_一命_一者、成_二沙門_一、一生之間宝前令_二參詣_一奉_レ報_二神恩_一、深祈誓_二、因_二天神力_一故_二令_二存命_一、此故_二教_二出家_一、後_二名_二義円_一六才僧都_一、亦昔惟高ノ尊与_二頼意_一一路_二シテ_一至此、住_二ル_一コト一夏安居ス、於_二此地_一一乗妙法得_二定伽_一、故_二名_二妙法院_一、万法行悟_二令_一開悟_一、故_二寺目_一実相之字_二至此地_一、尊_二自_一告_二頼意_一曰_二、今因_レ汝得_二妙法_一、報_二不_レ及_二財珍_一、以_二尊_一一字_一当_レ加_二師ノ偉意_一之字_一上、自_レ今須_レ称_二尊意_一、以_レ此報_二妙法ノ恩_一、惟高尊忽然_二トシテ_一書_二天滿之字_一懸_レ坊ニ、此学捨墮、伏見里之三子ト者、梅尾明神、松尾明神、桜尾明神ナリ、是名_二三子_一、此神天神ノ右吏、左吏、後吏之神也、今所_レ聞粗綴集_二メテ_一書記、此寺後世之為_二言伝_一、

天神廟社名縁記始記已上 六ウ

上野国甘楽之郡南蛇井県吉田之郷之内、在台法性山妙法院実相之寺、慶豊安平興国道場中道坊談義所大政大威德天滿大自在天神宮之縁記、政古書損字為末世書留令什物勿令失却

古人之子ヲ曰フ清公ト、博学多聞シテ士師政為菅原
姓ト矣、詔シテ許ス之、天神ノ之感応散方シテ無礙ナリ、如レ印カ
月ノ之万水ニ、豈有分限一乎、今于ス斯変ニ化シテ生ラ、匪顯ニ一ウ
大自在之神徳一耶、亦菅少公生ルト金銅岩屋ニ言者、
是太神宮天岩戸ニ陰御、今之天神之靈、天ノ之
金銅カ之界岩陰シ給テ、神靈起念ヲ今于此顯現
神徳ヲ、曰出生ト、惟弗ニ神之靈驗ニ乎、爾少公ハ利
根ニシテ通シ聖神ニ、覺ニ悟中心ヲ、師ノ曰ク、爾ハ非凡器ニ、
必天下ニ得ニ名聞一、輸ニ治国民位ニ、識智分明
焉、必志亦疾、師再示シテ曰、君仁ヲ為旨ト勇々進テ抵ニ人之
官府ニ、菅少公笑領掌ス、来ニ祖父カ家ニ、語ニ兩父ニ曰ク、吾
有ルカ此邦ニ宿因一故ニ、今生人間裏ニ、自ニ金銅カ之岩屈一来ル、
吾在リ至処一有宿因ノ父母、欲レ之上都ニ、祖父祖母曰ク、樂ミニオ
公ヲ思コト、如シ春ノ華ノ、亦、如シ秋月ノ、那捨養育情ヲ、往ニ万里
之遠境ニ、相見亦堅シ、豈得ニ恩愛一乎、希ニ君安留ニ此
里ニ、学道撫民、不ニ普民利一乎、如ハ拙カ呼如シ孤獨、怡レ伊
為レ抛耶、舍情拙老カ不ニ無便思一乎、去レ此何之、既ニ投ニ
老死ニ、在近ニ乎、豈非莫哀愍耶、菅少公ノ曰ク、世ハ僉爾ナリ、
誰有ニ通者一乎、祖叟端ニ遵ニ余カ教ニ、両翁垂レ涕諾、
少公ノ曰、亡憂コト作テ棺閣ヲ、頼他ノ夫ヲ、相互ニ荷棺、表葬
儀、約ニ来生ヲ、勸ニ別離ノ恒ナルヲ、雙叟ニ違暇ニ丞趣遠路ニ、
与ニ三子俱イ夜半ニ別而往、兩父悲伏シテ、終ニ亡程罷畢ス、
憂世築ノ杖撞、越山渡谷、世之愛執ヲ惺寤、迪ニ目明石ニ、ニウ
伏見里菅原ノ京、聞ニ遐雲ノ天ニ、相訓兩父ニ別而、趣ニ万
里ノ雲方ニ、逃城ニ行ク、少将之底裏ノ梅枝之下ニ化来シテ、父母ノ
約ヲ深シ、昇ニ臣之位ニ、普ク施ニ天下ニ至徳ヲ、臻リ右府ノ臺ニ、嬰テ
佞臣ノ讒ニ、雖ニ輸ニ遠波鄙府ニ、消ニ讒忌鬱佛、忝モ皇

遂テ官印之勅ヲ、宣旨ノ印捧ニ来墳墓ノ所ニ、奉レ詔ヲ、
昔ノ亡闕恨、雪ニ耻渋思、魂快ク遷ニ上京ニ、顯ニ大自在ノ徳ヲ、
守ニ護ニ王器ヲ、誓テ現シ菅家ノ太祖ト、哀愍眸リヲ汎、撫ニ
天下ニ、末々当来ノ守リ孫裔ヲ、子孫ノ靈神ノ分テ神光十八ニ、
諸国ニ崇リ天神社ヲ、領ニ十六万八千眷属ヲ、得ニ梵釈之免ヲ、
這邦為ニ主司ト、震ニ天滿大自在ノ大威徳ヲ、於テ吾国ニ雖ニモ、三才
天神廟器多ト、上野国ニ菅原、山城国ニ北野、西府ノ之安樂
寺、以ニ此三所為ニ正身靈驗之地ト也、初ニ上野ノ菅原ハ者出
生靈驗之地也、ニ山城之北野ハ者治国民民官震靈
驗之地也、三西府安樂寺ハ終焉薨去ノ之地也、於ハ公家ニ
菅氏ハ高辻之家、五條之家ナリ、各立ツ一家ヲ、在ニ武家ニ者、
分レ從ニ公家、以ニ加州国主ニ菅家ノ為レ初并堀之家也、
往古、菅原廟社荒破レ敗壞シテ、造営無力、社僧、菅
応之寺侶、勸ニ隣国ヲ欲營社ヲ、在ニ民間之使菅原
之氏左馬利兼公人、雖ニ微録ニ信ニ菅家囊祖ナルコト、出シテ
一萬錢ニ造ニ修敗社、社之堅ニ間半、横貳間、以ニ微力ヲ、三ウ
漸造興ス、其後、年ヲ重積幾久シ、社守之僧侶為ニ貧宿、覆ニ
上葺ニ借テ田園之力、雖ニ修理之、漸シテ如レ無立ルニ家有レ抛王家ハ
以ニ天照大神ヲ為シテ王位之氏神ト立ニ皇祖老ヲ、源氏ハ以ニ正八
幡宮ニ為シテ氏神ト立ニ源家ヲ、平氏ハ以ニ宇佐八幡ヲ為シテ氏神ト立ニ平家ヲ、
藤氏ハ以ニ春日多武峯ヲ為シテ氏神ト其家ヲ相続ス、雖ニ少氏微家ト
咸ク有ニ氏神ト立ニ其家、氤聞ク、源家ノ名君從一位右大臣源
家康公ハ、威光輝ニ日之東、南浮界之外珣ニ他之國ニ、普武光ヲ
耀、喪ニ室徒、晋ニ如治民、摧ニ如佞者ヲ、天下ヲ掌ニ納給リ、再シテ
源之賢君家康公之尊儀ヲ下野之日光山勅奉ニ尊崇
東照宮、源氏ノ為ニ中興、奉崇ニ源家之氏神、治天下ニ惠國ニ四才
家、非ニ是レ源氏ノ大祖、至ニ家々氏々、奚莫ニ氏神一乎、今天滿

授を務めた。

5 小此木輝之『中世寺院と関東武士』（二〇〇二年、青史出版）、第一章「中世天台宗の展開と世良田長楽寺」参照。

6 『妙義町誌（下）』（一九九三年、妙義町）、及び大島由紀夫『神道縁起物語（二）』伝承文学資料集成第六輯（二〇〇二年、三弥井書店）に翻刻掲載。

7 小峯和明「説話資料としての『職原抄』注釈―関東系を中心に―」・『説話文学研究』第三二号（一九九七年）。

謝 辞

ご所蔵文献の閲覧・撮影と翻刻掲載をご許可くださった実相寺第七十一世住職・額額敬人師、ならびに同寺関係各位にお礼を申し上げます。



実相寺全景



境内社天満宮

翻刻

《凡例》

- 一、漢字は新字体で示すことを原則とするが、一部の異体字は原本のままとした。
- 二、読解の便宜を考慮し、私に読点を付す。
- 三、改丁は「」で示し、その下に丁数を記す。
- 四、原本のルビはそのまま記す。
- 五、誤字や誤読のルビについて「ママ」等の傍記は施さない。
- 六、擦れ・滲み等により判読できない箇所は、相当の字数を■で示した。

法性山天満宮之縁記写

上野国甘楽郡之内、白雲山之辺^一有^二貧士^一、
恒^ニ薪^ヲ拾^テ近里持出、得^レ値^ヲ身命^ヲ助、有時、白雲
衣山之中、金銅之岩屋^{カン}之禦^{アガリ}至^テ、索^{モトメ}薪、在^ル入^テ平
林^ニ取^ル枯木^ヲ、三、四歳ノ童子ノ之幽玄ナルカ、手^ニ持^テ梅^ノ
華^ヲ、独^リ安然^ト虞遊^ス、祖父愕然^トシテ漢^ク、嶮中斯^ク
妙ナル童子見^ルコト希有^{ナリ}、恐怖向^テ童子^ニ問曰ク、公ハ誰カ
家ノ之男曾乎、特遊^{ヒトリ}、粵^{コ、ニ}、童子寛遙^トシテ答曰ク、吾^ニ
無^シ父母^一、将^{モツテ}汝為^シ父母^ト、我^ヲ連^レ往^テ為^ヨ爾^{ナシ}之宅男^一、
祖父喜^テ得^テ抱^リ伏屋^ニ、賤妻^ニ語^ル、祖母悦^テ為^レ子^一、「一オ
贈^ニ年^ヲ月^ヲ七歳也、其ノ間近^キ垠^{ホトリ}在^ニ在^マス^{ヒナリ}、聖、祖父彼ノ上人^ヲ
侍^{タノミ}、師^ト、習^ヒ文字^一、章誦、未^ニ昔聞^カ所、聞^レ一^ヒ永^ク不^レ
忘^レ、聴^ラ無^レ双^{ナラヒ}、聖ノ栖^ノ在^レ間^{コイ}逾^イ越山嶽^ヲ在^リ一山^一、来^ルコト
于此^ニ頓^シ、昔唐之寒山拾得^ト恒樂遊、自^リ寒山^一
距^ル天台^山、其間七百里也、来^レ朝、帰^ル夕^ニ、虞遊
恒也、今之菅少公亦^タ爾也、或伝曰ク、出^レ自^ニ天穗
日命^一十有四生之孫^ヲ曰^フ野見ノ宿禰^ト、居^リ出雲^国、

二、書誌と概要

次に本書の書誌を簡略に掲げる。

写本一冊 仮綴 タテ二七・九cm ヨコ一八・八cm

外題「法性山天神之縁記 全」（打付書き）題簽なし

内題「法性山天満宮之縁記」

書写期 明治二七（一八九四）年三月＊元奥書：寛文三（一六六三）年八月

表紙 ＊後掲の写真参照

中央：前記の外題

右側：「西上州甘楽郡南財井村談義所」

左側：「明治廿七年三月 実相寺什物」 朱文印

本文 半丁十行の罫紙に墨書

奥書等によれば、寛文三年に慶海が書した本を明治二七年に澄賢が書写したものであるが、寛文三年写本はもとより、他の伝本は確認されていない。本書の内容は、概ね次の四点に大別される。

1 童子（菅公）の当地への顕現

2 童子（菅公）の上京と成神：＊きわめて簡略

3 社殿の荒廃と復興

4 当寺に天神を祀る所以

1は、実相寺の北西約四キロの地に鎮座する菅原神社（富岡市妙義町菅原）藏『天神縁起』（注6）の内容と重なる。この『天神縁起』（卷子本）は宝永六年（二七〇九）の写で、かつては近隣の陽雲寺の所蔵であったという。現在、陽雲寺は曹洞宗であるが、古くは天台宗であったと伝えている。菅原神社の別当寺は天沼山菅応寺（天台宗）であったが、明治四年に廃寺となっており、縁起伝来の経緯は不明である。道真が童子として上野国菅原の地に現れたとする伝承は、在地縁起類の他に、小峯和明氏が紹介された静嘉堂文庫蔵『職原抄註』（注7）に、

菅姓ハ上野ノ州高田ノ庄白雲山ノ下トミ、菅原ト云フ処ニ、八月四日ニ化生ス。故ニ今マニ足シ跡ト在彼ノ処ニ也。然レ者、摂津ヲ如何シト云ヘバ、長風ニ三位ト云フ証拠有リ之。上野ヲ如何シト云ヘバ、今マニ足シ跡ト在リ彼処ニ。能クタケ可考。

と記されている。静嘉堂文庫蔵『職原抄註』は関東系の注釈書で、本文中に

寛永一七年、末尾に寛永一八年の年記が見られるとのことであり、それよりも余り隔たらぬ時期に成ったとすれば、在地伝承の文献記載例は、近世初期まで遡ることになり、実相寺蔵本書の元奥書に寛文三年と記すことと相俟って、当地域の天神信仰・伝承を検討する上で、注目すべき資料である。

3において記される「菅原廟社」は菅原神社、「菅応之寺侶」は菅原神社の別当・菅応寺の僧侶のことであり、菅原神社の所伝が本書の前提となっていることが窺われる。4は本書において最も重要な箇所であるが、尊意や守明との関わりを説くことは『実相寺記録』の記述と呼応するものである。また、南北朝の動乱で敗れた新田義興の遺児が出家して義円と号し、その母が当社に祈願したことを利益譚として記すのも、在地性を示す一つの特徴である。

以上、実相寺蔵『法性山天満宮之縁記』について一瞥を加えたが、本書は同寺や境内社天満宮の沿革を詳らかにするためのみならず、当地方における天神信仰の展開を窺う上でも重要な資料であると言えよう。『実相寺記録』の内容検討や当地域における天台系寺院の動向把握と併せて、本書の内容に関する詳細な検討は、今後の課題とする。

注

1 『ぐんまのお寺 天台宗Ⅱ』（二〇〇〇年、上毛新聞社）光明院・実相寺・勧学寺の項に簡潔にして要を得た解説がある（いずれも今井幹夫氏執筆）。

尚、福田晃氏は、伝承文学研究会平成二七年度大会シンポジウム「安居院作『神道集』を拓く」における基調講演『「神道集」編者考——「安居院作」の行方』（二〇一五年八月）において、この三寺を含めて西上州に展開した中世天台系寺院の動向について詳しく言及されている。

2 調査日とメンバーは次のとおりである。

第一回調査 二〇一四年六月一四日 福田晃・大島由紀夫

第二回調査 二〇一五年六月一四日 福田晃・徳田和夫・二本松康宏・青木祐子・大島由紀夫

第三回調査 二〇一六年一月二〇日 大島由紀夫

3 『富岡市史 近世通史編・宗教編』（一九九一年、富岡市）に翻刻掲載。

但し、所々誤刻がある。

4 原本の所在は未確認。『北甘楽郡史』（一九一九年）の編纂を契機として新たに撰述されたものと思われる。二宮守人は天台宗勧学院長・大正大学教

群馬県富岡市・実相寺蔵『法性山天満宮之縁記』について

大島 由紀夫 *

(二〇一六年一月二四日受理)

一、実相寺の来歴

群馬県富岡市南蛇井甲一七七五番地所在の法性山妙法院実相寺は、旧甘楽郡の鐺川流域に展開した天台宗諸寺院のうち、光明院・勧学寺と共に中核を担った寺院の一つである(注1)。光明院が上野国一宮の別当、勧学寺が学問所であつたの対し、実相寺は談義所であつた。同寺について、福田晃氏らと共に数度に亘つて調査する機会を得た(注2)。その折の成果の一つとして、小稿では同寺蔵『法性山天満宮之縁記』(以下、「本書」と記す)の概要を報告し、併せて全文を翻刻する。

本書とは別に、同寺には『実相寺記録』(注3)が蔵される。これは、近世から近代に至るまで数次にわたつて書き継がれたもので、寺の沿革について複数の伝えを載せる他、代々住持の血脈、穴太流・蓮華流血脈、末寺開山の記録等々が含まれる。『実相寺記録』が冒頭に掲げる縁起の概要は、次のとおりである。

上野国守の右中弁正明卿は尊意僧正を伴つて下向した。尊意僧正は当地に霊場を開いて庵を結び、修法に専心した。山門の座主が亡くなり、衆徒は評議して尊意を座主に迎えることを決し、院に奏上する。院宣が下され、霊山院の慶運律師が使者として下向する。尊意の夢に伝教大師が現れて「我が跡を継ぐべし、伝灯を断絶することなかれ」と告げる。尊意はこの夢告によつて院宣に従うことを決意し、座主に就く。尊意は天慶三年に遷化するが、その遺戒によつて、上野国の先跡に尊興阿闍梨が当寺を開き、法性山妙法教院

一乗実相禅寺と号したのである。

その後、二十五代を経て、朝崇法印が亡くなると、五人の弟子が争つたため、十数年にわたつて空寺となり、荒廃した。正和年中に惣持院の学頭で穴太流の頂師である守明法印が尊意の遺跡を尋ねて上野国にやつて来た。道に迷つたが、猿の導きによつて当地に至ることができ、これは山王権現の擁護であると喜ぶ。衣冠を正した老翁に化して天神が守明の夢に現れ、「私は都の者だが、尊意僧正との結縁により、僧正の古跡を守りつつ器量のある人を探していたところに和僧がやつてきた。当寺を再興し、神廟を結びなさい。私がそこに垂迹し、末代まで仏法を護持しよう」と告げた。守明は里人の合力を得て夢告のとおり寺の再興を果たし、隆盛に導いた。守明は元亨三年に七十三歳で亡くなった。※以下に代々住持の血脈等が続く

以上のような内容である。山号の法性山は法性坊尊意を開山と仰ぐことによるとするが、実質的には二世尊興によつて伽藍が整えられたと解すべきであろう。中興の祖と位置づけられる守明は、長楽寺(太田市世良田町)に伝わった台密の法流を受け継いでおり、これを光明院・勧学寺・実相寺などに伝えたとき(注5)、鎌倉時代後期の一時期に甘楽郡一帯で活躍した僧である。

琛海(長楽寺五世)―子本(旧大聖寺)―守明

尚、『実相寺記録』では「貞観一四年に出家された惟高親王が巡国の折、当寺を開いた」とする異伝も記している。

因みに『群馬県北甘楽郡史』が引く当寺の縁起書(注4)は、東叡山寛永寺春性院の二宮守人の撰文(大正一二年)に成るもので、『実相寺記録』・本書と同寺関係者が聞き及んでいたことに基ついたものと推察される。

編集委員

委員長 木村清和

委員	中島敏
〃	佐藤孝之
〃	渡邊悠貴
〃	金子忠夫
〃	五十嵐睦夫
〃	石田等
〃	出口米和
〃	永野博之

群馬高専レビュー

第35号(2016)

発行	平成29年3月23日
編集者	群馬工業高等専門学校教育研究委員会
発行者	群馬工業高等専門学校 群馬県前橋市鳥羽町580 電話(027)254-9000(代)

THE GUNMA-KOHSEN REVIEW

2016

No. 35

CONTENTS

Miyuki Miyabe's <i>The Devil's Whisper</i> : A Novel about Japan in the 1980s	Koichi Yokoyama . . 1
A Guide to the Works of Haruko Shogenji, One of Japan's Leading Authors of Children's Books	Koichi Yokoyama . . 13
Helbling Young Readers and e-future Graded Comic Readers: New Forms of Graded Readers	Koichi Yokoyama . . 25
Analyzing the Vocabulary of a Certified English Textbook: An Information-Technology Approach	Yoshiaki Hachitori, Kayoko Ohno . . 33
Construction of an English Discussion Board Using TED Talks Videos and its Practice: Focusing on intercollegiate discussions	Kazuhiko Iino, Hiroko Suzuki, Miho Fujieda, Yasuhiko Sugawara, Hiroko Matsuura, Setsuko Miyamoto, Osamu Ohara, Norio Hozaki . . 39
Teaching Materials of Electric Circuits using Manga	Toshiaki Ohmameuda, Mio Kobayashi . . 47
Nisei Writer Hisaye Yamamoto's Protest against Atomic Bombing in the 1950s	Shiho Nagai, Masuhisa Yoshinaga . . 53
A Discussion on Japanese Language Studies in Australia Based on a Survey of Japanese Language Students	Shiho Nagai, Masuhisa Yoshinaga . . 61
The Distinctive Use of Coordinating and Subordinating Conjunctions in Japanese EFL Academic Compositions	Fumihiko Ito, Hikaru Misumi . . 71
A Software and Hardware Programming Education for Junior High School Students Using <i>Scratch</i> and <i>Mbot</i>	Tatsuya Arakawa, Tomoyasu Ichimura . . 83
The Lord Lieutenant in Northamptonshire during the Armada Crisis.	Tsuyoshi Miyagawa . . 89
A Report on <i>Hosshōzan-Tenmangū-no-Engi</i> in the Possession of Jissōji-Temple	Yukio Oshima . . —